

関西支部だより

時習館

かんさい

第28号

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-14-1
山本通産株式会社内
時習館同窓会関西支部発行
TEL (06)6252-2131
FAX (06)6261-2020
E-mail ishikawa@ytc-j.co.jp
振替口座番号 00960-3-326081



荒池よりホテルを望む（奈良ホテル提供）

関西支部総会開催 2014年6月15日(日) 11時半～15時

第48回時習館同窓会関西支部総会ならびに懇親会を、来る6月15日(日)「奈良ホテル」にて開催いたします。10時半から受け付け開始、11時半から総会に引き続き懇親会、その後、15時ころから興福寺をガイドさんとともに散策いたします。奈良に都が築かれると同時に建設が開始された興福寺、奈良文化のルーツとして、古の心に触れていただければと思います。

会員の皆様のご参加をお待ちしています。

記

と き：2014年6月15日(日) 11時半～15時
と ころ：奈良ホテル
会 費：10,000円（学生 3,000円）



本誌では奈良開催にちなみ「ルーツを訪ねて」をキーワードにして編集しました。
(注) 第28号から年号表記は西暦を基本とします。状況に応じて和暦も随時、使います。(編集部)

もくじ

悠久の時を経て	石川吉之助	1
〈支部総会など〉		
2013年度支部総会・懇親会スナップ		2
2013度総会・懇親会出席者リスト・2013度分年会費納入者		4
会計報告書 2012年度及び2013年度時習館同窓会関西支部役員		6
「伝統と創造」京都総会便り～関西支部第47回総会・懇親会の報告～	美馬 洋子	7
「遷都1300年」から4年 再び奈良でお会いしましょう	川瀬 義隆	10
〈特別寄稿〉		
時習館だより～母校の新たなる飛躍に向けて～	時習館高等学校 木藤 政美	13
創立120周年記念事業と同窓会	時習館同窓会本部 大河 一夫	14
〈特集記事、ルーツを訪ねて〉		
日本のマンガ・アニメは、なぜ世界中から注目されるのか	牧野 圭一	19
神社の原型・大和国一の宮大神神社～日本の神祕は言ざるものではなく 感ずるもの～	鈴木 寛治	24
「ルーツを訪ねて」3題	熊谷 信哉	28
自分自身のルーツを訪ねて～魅せられた「新しい歌」～	千葉 泉	34
〈会員だより・あなたにとってルーツとは〉		
化学の発展の歴史（化学史）の探求と私	廣田 襄	39
「男の居場所」の会に参加して	大塚 尚武	41
故郷でもらった宝物「根気いら、無理せんどきんよ」	吉田 久善	43
宇留島のルーツ…九州だよりに代えて 豊橋時代の友にも	宇留島美恵	45
健康の源 バイクを楽しむ	岸本 由枝	48
水力発電所の始まりを訪ねる	伊与田 功	49
うなぎとわが人生～梅干と相性が良いこと知っていますか～	真木 伸治	51
林正道さんと J32 のなかまたち	馬場奈都子	53
苗字と僕のお付き合い	丹 慶太	57
私の建築バカの道	吉田 知未	59
〈特別投稿〉		
関東における時13回生の集まり…その起源	来住 賢一	61
三河戸田氏の系譜～家康の天下統一に寄与～	戸田 治	63
名古屋支部の生い立ちと現在の活動	松原 秀式	66
名古屋支部との交流の歴史	関西支部 事務局	69
〈支部だより・活動報告〉		
J K L 便り 時習館関西女性の会	米田 隆子	71
ゴルフ同好会からの報告	山村 信哉	72
一緒に碁を打ちましょう!	竹内 隆夫	73
〈お知らせ〉		
事務局からのお知らせ、会員の動静		75
先輩からの温かい援助&『時習館かんさい』へ投稿してみませんか		77
トピックス		78

悠久の時を経て

時習館同窓会関西支部

支部長 石川 吉之助（時習12）



ソチ冬季オリンピック・パラリンピックが無事終了したところにウクライナ危機の発生、順調に成長の歩を進めていた新興国の経済発展にもわかに鈍化が表面化した。世界はめまぐるしく変化し、我国の経済状況も今年はアベノミクス効果に一段の期待も高まり 明るいムードで年は明けましたが、ここに来て 株価に見られるように先行きも消費税増税もあり不透明感が漂い始めました。

今年の関西支部は「日本のルーツを訪ねて」をテーマに2度目の奈良に於ける総会を開催致します。他のところにはない歴史遺産に囲まれた奈良。総会と合わせて興福寺の見学会にも奮ってご参加下さい。

1300年も前に都があった奈良に一步足を踏み入れると、この地に刻まれた“時”を感じる。何故かゆったりとした心のやすまるものだ。普段、都会の中で時間に追われながら生活している者には異質なものであるが、現代社会はすさまじい程スピード化され、極限ま

で効率化されているから余計である。非日常の中に身を置いて遠き過去に刻まれた“時”を感じながら故郷を思い出すのもまた価値のあることであろう。

大和路の宮もわら屋もつばめかな

与謝蕪村

東大寺鹿の来てゐる春田かな

武藤紀子

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

正岡子規

母校は近年ますます発展し、グローバルな展開もめざましいものがあります。豊橋を離れた関西において同窓生が集い、共に過ごした高校時代のみならず、今このようにして人生の一時を共有できることは誠に幸福なことであります。この恵まれた環境をより有意義なものにするべく、会員皆様のご支援ご協力を戴きながら、関西支部の発展に努力してまいります。

🌸🌸🌸 2013年度
支部総会・懇親会
スナップ 🌸🌸🌸



和やかな雰囲気にもまれた総会会場



前朝日奈支部長遺影



総会司会者
北川さん&鈴木(優)さん



石川支部長 挨拶



木村同窓会会長挨拶



林校長先生挨拶



懇親会司会者
園家さん&白井(一)さん



故前朝日奈支部長の奥様(前列中央)と中谷秘書(右)を囲んで
時習14回藤巻さん 時習11回美馬さん 時習11回荒島(啓)さん



会計監査報告
利根川監事、花井会計



特別講演 島本先生



アトラクション：尺八と琴の合奏、尺八竹川烏山師範



屏風絵の説明をする大石さん



開会宣言 美馬副支部長



乾杯の音頭 石田副支部長



名古屋神野支部長挨拶



東京支部吉福事務局挨拶



名古屋松原幹事長挨拶



時習27回
北川さん、松井さん、和泉さん



時習36回
西岡さん



近況報告
鈴木(富)さん



時習43回 近況報告
大林(靖)さん



時習45回 近況報告
森下(亜)さん



豊川在住
時習3回 竹本さん



名古屋支部より
時習4回 JNL三林さん



本部より
時習39回 近藤肉内幹事



時習13回 近況報告
白井(孝)さん



時習7回 近況報告
廣田(輝)さん



太田参議院議員を囲んで佐藤本部長理事と
時習17回柴田さん 時習10回大石さん



時習24&23回
瀬野さん 松原名古屋支部幹事長 高桑さん 中西さん



時習7回
廣田 襄さん 東海さん



時習20回
鈴木 自さん



時習21回
竹内さん 利根川さん



出席者最年長 豊47回 青木さん
と 時習21回 横井さん



時習14回
片岡さん 川瀬さん 古田さん



時習30回
阿久津さん 奥山さん



時習21回 横井さん 米田さん
時習18回 堂本さん



時習11回 峰田さん
時習12回 杉浦さん 鈴木 茂さん 川勝さん

2013年度時習館同窓会関西支部 総会・懇親会出席者

2013年6月9日 於：京都ウエスティンホテル (旧都ホテル)

本部来賓

会 長	小林 佳雄	(時19)	副会長	高須 博久	(時21)
副会長	福井 英輔	(時26)	理 事	佐藤 元彦	(時 1)
幹事長	大河 一夫	(時16)	幹事長相談役	大林 淳男	(時 2)
幹事長補佐	山内 洋一	(時 8)			
顧 問	林 誉樹 校長先生		校内幹事	木藤 政美教頭先生	(時31)
校内幹事	飛松 孝司 先生	(時30)	校内幹事	近藤 啓 先生	(時39)
東京支部より	東京支部事務局	吉福かおり	(時26)		
名古屋支部より	名古屋支部支部長	神野 義郎	(時 3)		
同上	名古屋支部幹事長	松原 秀式	(時24)		

(回) (氏 名)	(勤 務 先)	出身小・中学校	(回) (氏 名)	(勤 務 先)	出身小・中学校
-----------	---------	---------	-----------	---------	---------

(豊 中)

47青木 邦彦	福江小
49福井 信雄	松葉小

(時習館)

3 竹本 章	元デンソー 名古屋支部より参加	津田小・豊高併設中
4 長田美智子		
4 三林 宏榮	JNL 名古屋支部より参加	福江小・時習館併設
6 大林 冷子		松葉小・豊城中
7 東海 和子		高師小・南部中
7 廣田 襄		
7 廣田 輝子		狭間小・名大付属中
8 岩田 孝枝		新川小・中部中
9 中村 和歳		牟呂小・中
10大石由紀子	Tada Parking Lot	松葉小・豊城中
11荒島 啓子		蒲郡南部小・蒲郡中
11美馬 洋子		蒲郡南部小・蒲郡中
11嶺田 次男		岩田小・豊岡中
12石川吉之助	山本通産 (株)	蒲郡南部小・豊城中
12川勝英十津		
12杉浦 敏男		松葉小・豊城中
12鈴木 茂樹	(株)カパーオールジャパン	新川小・中部中
13荒島 康守		
13伊藤 忠男	(株)丸島アクアシステム	小沢小・五並中
13大塚 尚武		福岡小・南部中
13小田 宗		蒲郡南部小・蒲郡中
13小野 英道		三ヶ日小・豊城中
13近藤 洋		神戸高羽小名古屋前津中
13白井 孝夫		羽根井小・羽田中
13新美 貞子		福岡小・南部中
13松尾 英城		一宮東部小・一宮中
13森下 宣彦		東田小・青陵中
14石田 天祐	(株) ギルガメシュ	森小・湖西中
14岡田 康彦	弁護士法人北浜法律事務所	小坂井東小・愛知学芸大付属中
14片岡 聰子		松葉小・豊城中
14川瀬 義隆		三島小・石巻中
14園家 文	書家	杉山小・中
14藤巻 篤子	木戸クリニック・眼科医	新潟県10日町小・青陵中
14古田 啓子		二川小・中
14松下 和正		蒲郡南部小・蒲郡中
15山崎 達彦	CDS(株) 監査役	八町小・豊城中
16高柳 枝直	大阪産業大学 客員教授	豊城中
17柴田 太郎	医師	

(時習館)

17白井 一次	損保料率算出機構京都自賠責損害調査事務所	国府小・豊川西部中
17神藤裕一郎		
17花井 俊作	アサヒ産業(株)	松葉小・豊城中
17山村 信哉	医療法人甲聖会	豊川小・東部中
18熊谷 信哉	神戸新聞社	愛教大付属中
18島本 浣	京都精華大学芸術学部教授	
18鈴木 康浩		豊川桜木小・豊川東部中
18堂本こすぎ		豊城中
20岡田 順子	みどり会中村病院薬剤部長	松山小・中部中
20鈴木 自	三井不動産ブルマネージメント(株)	新川小・中部中
21竹内 隆夫	竹内総合法律事務所	三谷小・中
21利根川 躍	三菱UFJロレバジネス (株)	大崎小・南稜中
21横井 愛子	株式会社 諸国美味	福岡小・南部中
21米田 隆子		向井小・中部中
22太田 房江	参議院議員	羽田中
22西井 完		宮崎小・宮崎中
23高桑 真子		田口小・田口中
23中西 立美		海老小・中
24瀬野 敦子	医療法人 喜望会 谷向病院	新川小・中部中
25森下 庸子	共栄製茶(株)	栄小・南部中
26鈴木 優	関西テレビ放送 CRS推進局長	蒲郡中
26林 政司	株式会社 キュリネール	栄小・南部中
27和泉 裕子		新城小・新城中
27北川 井子		細谷小・五並中
27松井誠一郎	神戸市医師会理事整形外科医	花田小・羽田中
30阿久津詠美		一宮中
30奥山 真里	奥山学園	向山小・中部中
32倉田 正也	(株) ツムラ大阪支店	新川小・中部中
32佐藤 幸隆	ソニーイーエムショーエス(株)	旭小・青陵中
36鈴木富美子		植田小・南稜中
36西岡 洋子	会社員	向山小・中部中
43大林 靖明	田辺三菱製薬(株)	新川小・中部中
45森下亜希子	すっぽんラーメン太尊店主	福島県郡山芳賀小・吉田方中

特別招待者

朝日奈昭子	前朝日奈支部長 奥様
中谷美弥子	前朝日奈支部長 秘書

アトラクション (招待者)

尺八演奏者	竹川 烏山 都山流尺八師範 松下和正氏の義弟
琴 演奏者	羽岡 恒子 岡本 悦子
琴 演奏者	山口 和代 木村 真子

2013年度分 賛助金・年会費納入者

2013年度分 賛助金納入者

河合 程一 (豊 41)	長田美智子 (時 4)	森田七三郎 (時 8)	近藤 修 (時 12)	遠藤 征宏 (時 14)
四方 健一 (豊 44)	伴 正義 (時 4)	近藤 泰彦 (時 9)	杉浦 敏男 (時 12)	片岡 聰子 (時 14)
赤木 公 (豊 46)	大林 洽子 (時 6)	富安 淳夫 (時 9)	鈴木 茂樹 (時 12)	川瀬 義隆 (時 14)
杉浦 昭典 (豊 47)	牧野 健士 (時 6)	中村 和歳 (時 9)	山下 洋子 (時 12)	園家 文 (時 14)
春山 丈夫 (豊 47)	水尾 悦子 (時 6)	松尾 昌子 (時 9)	滋賀県匿名 (時 12)	藤巻 篤子 (時 14)
藤田 彰久 (豊 47)	山本レイ子 (時 6)	菅原 民夫 (時 10)	伊藤 忠男 (時 13)	古田 啓子 (時 14)
花田 庄司 (豊 49)	東海 和子 (時 7)	土屋龍太郎 (時 10)	小田 宗 (時 13)	柵木 昇祥 (時 14)
福井 信雄 (豊 49)	廣田 襄 (時 7)	村上 玲子 (時 10)	小野 英道 (時 13)	松下 和正 (時 14)
古田益太郎 (豊 49)	廣田 輝子 (時 7)	荒島 啓子 (時 11)	近藤 洋 (時 13)	鈴木 寛治 (時 14)
神谷 進一 (時 1)	河野 友子 (時 7)	井口 喜之 (時 11)	白井 孝夫 (時 13)	藤田 和弘 (時 15)
近田 良治 (時 1)	岩田 孝枝 (時 8)	竹内 郁子 (時 11)	中山 憲次 (時 13)	吉田 久善 (時 15)
白谷 光春 (時 2)	尾野あつ子 (時 8)	嶺田 次夫 (時 11)	新美 貞子 (時 13)	山崎 達彦 (時 15)
高橋美智子 (時 3)	片岡優美子 (時 8)	美馬 洋子 (時 11)	松尾 英城 (時 13)	
市村 方子 (時 4)	草場 恒夫 (時 8)	石川吉之助 (時 12)	森下 宣彦 (時 13)	
小野田邦重 (時 4)	杉原 伸一 (時 8)	川勝英十津 (時 12)	石田 天祐 (時 14)	

2013年度分 年会費納入者

高柳 枝直 (時 16)	内藤 健 (時 19)	鈴木 晴久 (時 21)	田中 啓介 (時 24)	菊井 昌代 (時 30)
村田 正好 (時 16)	内藤 壯一 (時 19)	竹内 隆夫 (時 21)	中根巳喜男 (時 24)	椋木紀美江 (時 30)
山田 秀司 (時 16)	福重 恭子 (時 19)	利根川 躍 (時 21)	宮崎 裕二 (時 24)	倉田 正也 (時 32)
宇井 正和 (時 17)	福田 明 (時 19)	藤田裕二郎 (時 21)	山本 雄二 (時 24)	馬場奈都子 (時 32)
柴田太一郎 (時 17)	三井 節子 (時 19)	横井 愛子 (時 21)	太田 智子 (時 25)	近田 昇 (時 35)
白井 一次 (時 17)	森田 薫 (時 19)	米田 隆子 (時 21)	田中紀代子 (時 25)	丹 慶太 (時 35)
神藤裕一郎 (時 17)	宇留島美恵 (時 20)	河合左千夫 (時 22)	森下 庸子 (時 25)	鈴木富美子 (時 36)
花井 俊作 (時 17)	岡田 行功 (時 20)	西井 完 (時 22)	鈴木 優 (時 26)	西岡 洋子 (時 36)
山村 信哉 (時 17)	岡田 順子 (時 20)	羽賀 知行 (時 22)	林 政司 (時 26)	大林 靖明 (時 43)
池田 和子 (時 18)	河合 行朗 (時 20)	藤原 敏 (時 22)	和泉 裕子 (時 27)	森下亜希子 (時 45)
市原 俊彦 (時 18)	小西 康雄 (時 20)	伊与田 功 (時 23)	北川 井子 (時 27)	福田 悦子 (時 46)
草尾 正治 (時 18)	鈴木 自 (時 20)	岸本 由枝 (時 23)	遠山 育夫 (時 27)	
熊谷 信哉 (時 18)	田中 登 (時 20)	高桑 真子 (時 23)	不破 靖 (時 27)	
島本 洸 (時 18)	藤城 良司 (時 20)	中西 立美 (時 23)	松井誠一郎 (時 27)	
鈴木 康浩 (時 18)	山口 隆昭 (時 20)	牧原 正記 (時 23)	鈴木 毅 (時 28)	
堂本こすぎ (時 18)	山口真知子 (時 20)	岡田 博子 (時 24)	藤井 順子 (時 28)	
水口 道子 (時 18)	梅田 洋一 (時 21)	瀬野 敦子 (時 24)	真木 伸二 (時 29)	
宮城 治男 (時 18)	榎本 直行 (時 21)	高野 光代 (時 24)	阿久津詠美 (時 30)	
富山 幸世 (時 19)	鈴木 省三 (時 21)	竹内 光一 (時 24)	奥山 真理 (時 30)	

(本誌作成着手以降にお振り込みいただいた方については、正確でない場合が考えられますので、その際にご容赦願います)

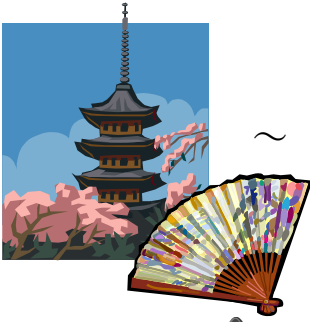
2013年総会・懇親会会場下見風景



京都ウエスティンホテル
会場のレイアウト相談



京都ウエスティンホテル
舞台確認



「伝統と創造」 京都総会便り

～「関西支部第47回総会・懇親会の報告」～



美馬 洋子 (時習 11)



2013年度関西支部総会・懇親会が4年ぶりに歴史ある京都にて6月9日(日)に開催されました。今回は特に母校創立120周年の記念すべき年に当たり「伝統と創造」をテーマとして京都らしさを表現するため役員一同検討を重ね、何回も準備委員会を行った結果、琴と尺八のコラボレーション、お茶伝来800年にちなんでウェルカムティー並びに「宇治茶の歴史」記念講演、そして京都精華大学教授の島本浣さん(時習18)による「京都美術アラカルト」講演、また大石由紀子さん(時習10)作の美しい日本女性を描いた掛け軸、二曲屏風を舞台に飾り、盛り沢山の企画となりました。

会場となる東山蹴上の「ウェスティン都ホテル京都」のステンドグラスが有名な葵殿にて開催したかったのですが、生憎ジューンブライドの季節と大安が重なり、その部屋を予約することが不可能となり少々残念。結局二番人気の「山城の間」にて開催の運びとなりました。

梅雨の時期でもあり、空模様が心配でしたが、何とか晴天になり、ほっとした次第です。

当日は、校長先生をはじめとして、本部より多数御出席を賜り、また東京・名古屋の遠方より多くの来賓の方々を迎え、これまでで最高の96名の出席を得ることが出来ました。また特別に前支部長の故朝比奈宗太様の奥様昭子さま並びに秘書の中谷美弥子さまが御遺影を御持ち頂き出席して下さいました。今まで大変お世話になり、関西支部の礎を築かれ、感謝にたえません。

○ 総会で母校の近況と120周年行事の説明

さて、12時より鈴木優さん(時習26)、北川井子

さん(時習27)のアベック司会により幕が開き、石川支部長(時習12)、同窓会会長小林佳雄さん(時習19)、林誉樹校長先生の挨拶が続きます。校長先生によって母校の様子を知ることが出来るのは大変意義深いことだと思います。母校がスーパーサイエンススクール(SSH)に指定され、事業の一環として英国の名門セント・ポールズ校と更に2011年9月セント・ポールズ女子高とも姉妹提携を結び順調に活動している



石川支部長の挨拶



小林同窓会会長の挨拶

ことは皆様御承知と存じます。この企画は私共時習11回生の卒業50周年の記念行事として発足したもので、このように母校に貢献出来たことは11回生として大きな喜びとする所であり、益々の御発展を希望して居ります。



校長先生による母校の様子説明に出席者一同聴き入りました

つづいて議事に入り、会計報告・監査報告そして石川支部長より「役員改選の件」発表、私事ですが、本総会を以って後進に道を譲るべく副支部長を退くこととしました。ここにご報告申し上げます。

石川支部長、伊藤事務局長(時習 13)に全てお任せして、力不足で至りませぬ申し訳なく存じています。今後は陰ながら私なりにお手伝いしていきたいと思っています。皆様にお助け頂いて役を何とか全うすることが出来、いろいろと楽しい思い出も浮かび、深く感謝しています。



伊藤事務局長による 2013 年度支部活動計画の説明

次に伊藤事務局長より 2013 年度の計画、更に本部の大河一夫幹事長(時習 16)より時習館創立 120 周年行事について 2013 年 10 月 27 日(日)に記念式典が執り行われ、事業計画として旧豊中正門修復、ポセイドン像塗り直しの説明がありました。当日は盛り沢山の企画をそろえて皆様のご出席をお待ちとのことでした。



大河幹事長による時習館創立 120 周年行事についての説明

○ 森下庸子さんの「宇治茶の歴史」特別記念講演

ついで、森下庸子さん(時習 25)の特別記念講演=写真。日本茶のインストラクターの資格を持ちあちこちで講演をこなされている様子にて流暢なお話し



ぶりで、流石と感心しました。

今から約 800 年前に栄西禅師より明恵上人にお茶の木を与えたのが日本茶の始まりで、有名な茶壺道中の説明やら、1738 年宇治田原の永谷宗円により茶葉をすぐに蒸し酸化発酵を防ぎ、きれいな緑色を保つことを工夫したとのこと、興味深く聞きました。お茶漬けで有名な永谷園の先祖とのこと。

○ 島本流さんの「京都美術アラカルト」特別記念講演

そして島本流さんによる講演=写真、南禅寺塔頭の金地院がみるべき美術品を多く持ち、お茶室も特別に価値ある建物との話、スライドを見ながら説明されました。今まで何となくお寺巡りをしていました、改めてもう一度訪ねてみたいと思いました。時間が足りず、もう少しお話を聞きたいと思いました。



とインクライン



○ 懇親会

お待ちかねの懇親会が白井一次さん(時習 17)、園家文さん(時習 14)司会のもと、石田天佑さん(時習 14)のユーモアのある乾杯の発声でスタート。ビールが美味しく感じられます。

石田天佑さんの乾杯発生で懇親会が始まりました



事したとのことにて大石さんの別の才能に驚かされました。大使館を通じて海外に多く出展とのこと。



美人画について説明をする大石由紀子さん



懇親会の様子。美味しいビールとお料理に、話も弾みます。

名古屋支部長・若手の東京支部長の挨拶に続きいよいよアトラクション。松下和正さん(時習 14) 義弟の竹川烏山様(都山流尺八師範)と美しい着物姿の女性4人による琴の演奏、大変京都らしく古典的な雰囲気皆聴き入りました。



琴、三味線、尺八の演奏で京都らしい雰囲気に包まれました



舞台バックには大石由紀子さん作の美しい舞妓さんの屏風、掛け軸がずらり。伊東深水画伯に師



大石さんの美人画

この度は特別に前大阪府知事太田房江さん(時習 22)の姿も見え、会が一層華やかになりました。

初めて参加の方々や若い女性のスピーチあり、宴もたけなわ、時間は余りにも早く過ぎ

去り松井誠一郎さん(時習 27)、藤巻篤子さん(時習 14)指揮のもと校歌斉唱となり、「わが時習館」、「若き力」、旧制豊中校歌を高らかに歌いました。



豊中出身の皆さんによる校歌の斉唱

万歳三唱に続き園家さんより閉会の言葉でお開きとなりました。懐かしく美味しいヤマサのちくわ、金トビ志賀のひやむぎをお土産に頂戴して解散。ホテルの特別の計らいにてバー「ムーンライト」を貸切状態で二次会設定。希望者のみ集合。ケーキセットに舌鼓を打ち、次回は好評の奈良ホテルにて再会の約束をして各々帰途につきました。

同窓の絆の深さと協力の下、無事に総会を終了しありがたく存じております。母校並びに時習館同窓会関西支部のますますの発展・繁栄を祈念して、総会報告とさせていただきます。



「遷都 1300 年」から 4 年 再び奈良ホテルでお会いしましょう

～ 2014 年度 時習館同窓会関西支部総会・懇親会 ～



関西支部副支部長 川瀬 義隆 (時習 14)



伝統と格式を誇る奈良ホテルで開催した 4 年前の関西支部総会・懇親会。出席された皆さん、覚えておられますね。

まず表紙をご覧ください。荒池の方からホテルを見た写真です。奈良公園から、ふらりとホテルに遊びに来る鹿の目線にも重なりますが、実に堂々とした風格を漂わせています。

今年も、ここを舞台に時習同窓生が一堂に会します。今から大いに楽しみです。

冬季五輪カルガリー大会 (2010 年=カナダ) で日本のカーリング・チームが大活躍したあの年とは、ひと味も、ふた味も違う「感動」や「話題」が盛りだくさんののが今年の総会です。せっかくの奈良大会。奈良に関する「歴史ロマン」や「エピソード」も併せてお読みください。

同窓生の皆さん、誘い合って、今回もぜひ、奈良ホテルに足を運んでくださいね。

○思いもかけない宝物

「何がそんなに変わったのか」という声が聞こえてきました。それでは、さっそく…。

本館内部の改装工事が終わって間もないですが、思わぬ「宝物」が続々。

まず金銀のナイフやフォーク、「NH」と銘の入った高級食器類など約 1600 点が大量に出てきました。当初、「奈良ホテル」のために特注したものと思われましたが、ホテル側が週刊誌の「掲示板」などを活用して全国から情報を集めたところ、何とこれらは明治時代に「極東一の豪華

ホテル」とうたわれた「長崎ホテル」の閉鎖に当たって購入したらしいものと判明。「NH」の銘が同じ「長崎ホテル」で使われた逸品を活用した食事会が今年 2 月に奈良ホテルで開かれています。

奈良ホテル本館は桃山様式の木造建築物ですが、時代の流れの中で、ついにエレベーターが設置されました。ホテルの雰囲気を壊さないよう設計されており、総会・懇親会の時、見逃せないポイントです。

バーも改装で一新されました。ホテル建築当初の「BAR」と書いたガラス戸が前面に出てきたのも“新発見”。

そう言えばホテル・スタッフの宮崎剛志氏は、バーテンダー日本一を決定する昨年 6 月の大会で圧勝。日本代表として地中海の豪華客船上で開かれた世界一を決める大会にも参加、見事 3 位に食い込んでいます。「奈良の文化を世界に伝えたい」と、奈良県特産の柿と大和茶を使ったカクテルが審査員をうならせたました。



奈良特産の柿と大和茶を使ったオリジナル・カクテルをひっさげ、世界三位となったホテル・スタッフの宮崎剛志氏 〓 奈良ホテル提供

この時、披露したのは題して「ジョニーウォーカーならスタイル」。ウイスキーに、すり潰した柿と泡状にした大和茶を加えたユニークなもの。関西支部の総会当日、ポケットマネーをはたいて、彼の自慢の作品を味わってみるのも一興かも知れませんね。

○興福寺散策

総会・懇親会の後、午後3時ごろからガイドさんの案内で興福寺境内を散策します。ここの国宝館には貴重な仏像・宝物類が収納されていますが、なかでも阿修羅像は人気抜群ですね。少年の謎めいた憂いと力強さは万人を惹きつけます。タイミングよく会えるとよいですね。興福寺のすぐ隣にある奈良国立博物館別館の「なら仏像館」も珠玉の仏様たちが多数おわして、すごいので、覚えておいてください。お時間の許す方はぜひ。

○歴史ロマンやエピソード

せっかくの機会ですので、「奈良」に関する「おさらい」もしておきましょう。昨年11月に飛鳥周辺で行った「まほろばバスツアー」の時、お話しした内容も含まれています。

◇太古、奈良は湖だった！

縄文から弥生にかけ奈良盆地の大部分は「奈良湖」と称する湖沼でした。盆地から西の河内湾（大阪平野もまだ海だった）に流れる大和川の川床が、亀の瀬溪谷（今はJR大和路線が通っている）の地すべりによって隆起し、大和川の水が堰き止められたことによって湖が出現したようです。

西の方からは、これらの水運を利用して、渡来人が三輪や葛城の鉱山資源の辰砂（硫化水銀、鎮静剤として利用）を求めて盆地に入り、地元の人材と融和しながら採掘して豪族が形成されました（奈良の高市は製薬業発祥の地）。大和政権は

また、この取引を財源として水田開発をしてきました。奈良湖は古墳時代には、大規模地殻変動や盆地への土砂の流入、亀の瀬溪谷の開削などにより急速に消滅しました。

◇壬申の乱の舞台

飛鳥時代に入り7世紀の後半、皇位継承問題を発端とする壬申の乱が発生しましたが、周到な作戦の結果、大海人皇子が激戦に勝利、即位して天武天皇となりました。この大乱のその後の納まりが万世一系の天皇の権威を確定することとなり、日本国として現代に至っています。壬申の乱から約40年、藤原不比等（大化の改新の鎌足の子）が主導して今の奈良市近くに平城遷都（710年）がなされました。

◇戦時中、貴重文化財はトンネル内に疎開

現代に至り、天皇の権威に威光を借り、統帥権（明治憲法）が立法趣旨に反して乱用されてきました。太平洋戦争では空襲に備え、廃線となっていた大仏鉄道（加茂と奈良間）のトンネルが奈良市民の避難場所とされ、正倉院や寺院の国宝、重要文化財などは吉野や宇陀などに疎開していました。

◇会場へのアクセスなど

東の方からは自動車と高速バスも利用できます。伊勢湾岸道路から東名阪高速に入り、亀山インターから名阪国道を通過して天理インターに降り立ちます。名阪国道を奈良に下るとき、はじめの坂にかかる左方向に奈良盆地の北半分を一望できます。高峰サービスエリアの辺りからの眺望は素晴らしい。

●伊勢の海 三重の山々 鈴鹿川 映す液晶
大和し美し （奈良は液晶発祥の地）

特別寄稿

母校本部よりの便り



特別寄稿



時習館だより

～母校の新たなる飛躍に向けて～

時習館高校教頭 木藤 政美 (時習 31)



時習館高校は、同窓生や教職員、PTAの方々の協力を得て、平成25年10月27日(日)に創立120周年記念式典や関連諸行事を成功裡に終えることができました。この場をお借りしまして、関係者の皆様に感謝の意を申し上げます。

一言で120年とはいえ、学校設立当時や戦後間もないころの教職員や在校生、地域住民の方々の御苦勞と御尽力には筆舌に尽くしがたいものがあつたことでしょう。現在勤務している我々教職員・在校生は、素晴らしい環境に恵まれた学舎で学校生活を送ることができることに幸せを感じずにはられません。それと共に、更なる発展に向けて一層努力を積み重ねなくてはならないという思いを強くしております。

○伝統教育のもとに世界に目を向けた教育

時習館高校は、林誉樹校長(第23代:H21～H26)のリーダーシップの下、教職員とPTAが一丸となって「SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)の教育とグローバル教育の高いレベルでの融合」を目指した教育活動を展開しています。英国セント・ポールズ校、セント・ポールズ女子校およびドイツのオットー・フォン・タウベ・ギムナジウム校の3校と姉妹校提携を結び、同窓会からの御支援を得て毎年10月下旬に各校から短期留学を受け入れ、3月中旬に時習館の教員・生徒を派遣するといった相互交流を展開しています。また、SSHの「H26SSグローバル」では、本校の生徒10名を含む愛知県内の高校生36名が3月上旬に英国に出向き、セント・ポールズ校を会場に「日英独3か国での理科学に関する合同研究発表会」(当然のことながら、全て英語で行われます)の実施、ケンブリッジ大学やロンドン大学での講義受講、大英博物館・自然史博物館・キャベンディッシュ研究所などの見学を行いま

した。勿論、伝統の「自ら考え自ら成す」ことができる生徒の育成や文武両道を目指した教育活動も忘れてはなりません。

○「時習館」がさらなる発展を遂げるため精進

平成25年度から実施されている新学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」「生徒の言語活動を充実すること」「道徳教育の充実」などが謳われています。また、文部科学省は、急速な社会のグローバル化に対応するため、小・中・高等学校を通じた英語教育の抜本的強化を打ち出しています。それに向けて課題解決力等の国際的素養を身につけたグローバルリーダーを育成する高等学校等(SGH:スーパー・グローバル・ハイスクール)を支援するとともに、国・都道府県・学校・企業が連携して社会総がかりで高校生の留学を促進する方向性を示しています。このような社会の情勢に 대응する人材を育成するためには、教師がチョーク片手に一方的に授業をするスタイルから脱却し、生徒にグローバルな社会的課題に目を向けさせ、「課題発見・解決能力」「論理的思考力」「批判的思考力」「プレゼンテーション能力」を身につけさせる教育活動を大学や企業、国際機関などと連携して進めていく必要があります。

幸いにも、時習館高校の同窓生には各界で活躍する優秀な方が多数いらっしゃいます。そのような方々をはじめとする同窓会のお力添えをいただきながら、「時習館」が更なる発展を遂げられるよう精進してまいりたいと思います。

今後とも御指導・御鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

特別寄稿



創立 120 周年記念事業 と同窓会



時習館同窓会幹事長 大河 一夫 (時習 16)

○はじめに

平成 25 年 10 月 27 日は爽やかな秋晴れ、母校時習館高校は一日中熱気に包まれていました。

記念行事は修復された旧豊中正門の除幕式から始まりました。正午からの記念式典、記念フォーラム、交流会終了まで終日、同窓生、PTAの方々が賑わっていました。

また、翌 28 日に 120 周年行事を締めくくるものとして生徒向けの記念講演会が実施されました。

協力をいただきました。



旧豊中正門の修復 除幕式

○新しい同窓会周年行事

昭和 28 年の創立 60 周年記念式典以降、同窓会の周年行事は 10 年ごとに開催されています。

(詳細は大林前幹事長が監修された「時習館創立 120 周年」記念式典プログラムの略年表を参照)

創立 100 周年に向けて同窓会が一丸となっていたことがうかがわれます。そして周年行事は 100 周年をモデルとして、時勢に合わせながら 110 周年を経て今回の 120 周年を迎えることとなりました。

120 周年記念事業では、従来の記念式典の見直し、新企画としてフォーラム、交流会が開催されました。これを可能にしたのは、時習館創立 120 周年イベント (大沢実行委員長) が時習 32 回生から 40 回生を担当者としたことによります。41 回生も駐車場・誘導担当として活躍したことを付記します。

なお、時習館同窓会が実施する周年行事は同窓会、学校、PTA が三位一体となって実施しています。今回も同様に学校職員、PTA の皆様にご

○記念式典について

120 周年記念式典 式次第

- ・物故者追悼
- ・実行委員長挨拶：大沢輝秀実行委員長に代わり小林佳雄副委員長が挨拶
- ・来賓祝辞：豊橋市長 佐原光一氏 祝辞
(周年行事の来賓祝辞は豊橋市長にお願いすることとなっています)
- ・永年勤続職員表彰：被表彰者は 10 年以上勤務の教職員と表彰を受けていない校長 合計 27 名
- ・映像で「120 年を振り返る」

周年行事の記念式典は「今昔を語る」を中心に展開されてきました。これは生徒代表をはじめ各世代・旧職員から講話をしていただくものでした。

120 周年では「今昔を語る」に替えて 8 分程度の写真資料をもとに時習館「120 年を振り返る」を映像化し、これを記念式典で上映しました。

・記念事業紹介 豊中正門修復、ポセイドン像塗り替え、文化財図録等の記念事業をスライドで紹介しました。

- ・生徒代表挨拶・新制服紹介
- 挨拶 生徒会長 廣瀬夏季さん
- 制服 男子…スーツ、女子…ブレザー
- ・学校長挨拶 時習館高校長 林 誉樹氏
- ・式典参加者 同窓生 665名
- 来賓・表彰者他 212名

記念式典では例年の本部総会の出席者を上回る同窓生の参加がありました。フォーラム、交流会の企画などにより、その相乗効果があったものと考えられます。



記念式典

○記念フォーラム

JISHUKAN OPEN FORUM 2013

周年行事では恒例となっていた「今昔を語る」は各世代から講師を招き昔話や興味深いお話をしていただきました。

120周年では、これを拡大、深化させたフォーラムを開催しました。「見せましょう、時習館の底力を」ということで優秀かつユニークな講師陣が招聘されました。

講師は卒業50周年を目前にした16回生から卒業25周年を終えた40回生まで各学年で厳選された同窓生25名とPTA2名、学校3名の計30名が教壇に立ちました。2・3年棟の15教室を利用し、1限・2限(各50分)に分けた分科会形式で多様な内容の30講座が開催されました。

受講者は25～50年前の高校生に戻ったような気分でまじめに(?)聞いていました。講座による参加人数の偏りもなく、定員40名の教室で立ち見が出る講座もあり、講師の皆さんも楽しまれていたようです。同窓生による講座で、最初の16

回生・関谷徹さんは名酒「空(くう)」誕生の話。関西支部からは26回生の鈴木優さん(関西テレビCRS推進局長)が「三河文化の来し方行く末」。詳しい話はご本人から聞いてください。最後の40回生・松本能幸さん(テレビ朝日)は「バラエティ番組の作り方」等々でした。

またPTAの仲井雅弘さんは「箱根駅伝の魅力と本年度の展望」。垣内寿美子さん(シャンソン歌手 金井寿美子)は「セント・ポールズ校の美少年と過ごした一週間」の話。

学校関係は国際交流活動、SSH、東三河と西三河の伝統校比較等、時習館の現況をテーマに講演されました。

詳細は講座一覧をご覧ください。



フォーラム風景

○交流会

フォーラム終了後 15:40～17:00

会場 時習館体育館

交流会次第

- ・開会の挨拶 小林佳雄・同窓会会長
 - ・乾杯 林誉樹・時習館校長
 - ・歓談 軽食と飲み物が用意されました。
 - ・校歌・応援歌斉唱(エール 38・39・40回)、
 - ・中締め 青山泰三・時習館PTA会長
- 創立120周年への参加者の懇親を深め、開催に関わった皆さんと一緒に成功を祝す会となりました。

交流会への参加者も想定をはるかに超え約700名もの皆さんに楽しんでいただきました。担当者は同窓会本部総会の運営を経験しており、同様の人数を予定していたのですが、ビールが不足する

ほどの参加者があり、うれしい結果でした。

○記念事業

・ホセイドン像の塗り替え

創立100周年事業として建立したものです。変色が目立ち、塗り替えました。

・旧豊中正門修復

時習の杜に移築されている旧豊橋中学校正門は傾きがはなはだしく、豊中卒業生の方々からの要望もあり修復し基礎を固めました。

・校内文化財の図録化、修復

校内に保管され展示されている書、絵画等の文化財のうち汚れや破損、剥離のあるもの等を順次修復しています。

また、所蔵されている文化財を図録化し『時習館アートギャラリー』を刊行しました。式典参加者と在校生に贈呈されました。

○時習館創立120周年 生徒記念講演会

(兼 平成25年度 SSH特別講演会)

平成25年10月28日 時習館高校体育館
 講師 時枝 正氏 (ケンブリッジ大学トリニティー・ホール フェロー)
 演題 「おもちゃで探る物理」
 対象 時習館高校 生徒960名。職員、SSH関係教員、同窓会員、保護者

講演内容 平成26年9月刊行予定

『時習館年報』120周年記念号に掲載

時枝先生は、生徒との距離感をなくすためシャツにジーンズといったスタイルで登壇。壇上での実験を生徒がカメラで写してスクリーンに投影しました。身近な材料を使い、さまざまな興味深い現象を見せ、物理的に解説する白熱の講義でした。

質疑応答では、時枝先生が感心する質問も多くあり、盛り上がりました。講演終了後も生徒たちが質問に押し掛けたそうです。質疑応答での後輩のレベルの高さに圧倒され、また頼もしく感じました。

○まとめ

創立120周年記念式典、記念事業がこれまでと比べて若い世代が中心となって運営されたことに意義があります。各部担当者が強力なリーダーシップを発揮し、各学年の仲間を巻き込み参加者の増加に成功しました。実行委員会の方向性がみえました。

また、時習館が人材の宝庫であることが改めて確認できたのも大きな成果です。

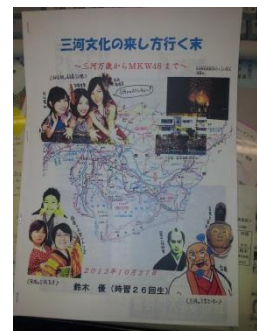
現在の時習館高校も大きく変わってきました。創立120周年を同窓会の新たな出発点にしたいと考えています。

唯一、関西支部からの記念フォーラム講師 鈴木 優氏 (時習26) からの一言

時習26回生、昭和50年卒業の鈴木優です。記念フォーラムには「三河文化の来し方行く末～三河万歳からMKW48まで～」という題目でお話させていただきました。かつて学びし教室で一席ぶつという大変貴重な体験は良い思い出となり、特にサッカー部のチームメイトや関西支部の方にお越しいただき感無量でした。

内容は私がテレビマンとして興味を持っている故郷・三河の歴史、産業、芸術、スポーツ、食文化など幅広く紹介しました。

かつての豊橋の映画館状況から現在の最先端の祭り、イベントなどなど。特に現役タカラジェンヌや元横綱、ソチ五輪出場選手に芥川賞、直木賞作家の活躍に改めて三河人の素晴らしさを確認することができました。



時習館創立120周年記念事業フォーラムの講座、講師一覧表（敬称略）

卒業年次	氏名	肩書き	講演演題
16回	関谷徹	関谷醸造株式会社 取締役会長	運よくうまくいった酒屋の話
17回	河合秀矩	株式会社マッターホーン代表取締役 (社)愛知県洋菓子協会会長	私の過ごして来た時間と出会った素敵な人々
18回	菊地啓一	フォルクスワーゲングループジャパン株式会社 常勤監査役	ヒマラヤ未踏峰への挑戦!
19回	雑賀哲治	時習館同窓会東京支部 理事 組織委員長	“サッカーは子供を大人にし、大人を紳士にする!”
20回	鈴木大次郎	医療法人 エム・ディー みゆきクリニック 院長・理事長	ガン予防と最新治療(二人に一人がガンになる時代いかに予防し治療するか?)
21回	松下泰三	弁護士 愛知県弁護士会東三河支部支部長	「ロースクール」の凋落、司法崩壊の危機
22回	林總	公認会計士、税理士、経営コンサルタント、大学教員	「餃子屋と高級フレンチではどちらが儲かるか」で経営と会計を学ぶ
23回	及川理	医療法理誠会及川歯科医院 理事長 岩手県歯科医師連盟副会長	東日本大震災を体験して～歯科医師としての活動と今後の課題～
24回	佐原光一	豊橋市長	プラットから豊橋発信～穂の国とよはし芸術劇場からええじゃないか豊橋を発信する～
25回	山田琢之	愛知医科大学客員教授	生涯現役への扉 ～働くこと、健康を守ること～
26回	鈴木優	関西テレビ CSR推進局長	「三河文化の来し方行く末 ～三河万歳から MKW48 まで～」
27回	浅井俊幸	整体師	航空自衛官としての半生
28回	伊藤篤哉	アズマエンタープライズ株式会社 会長、豊橋市議会議員	藩校時習館ゆかりの「村井弦斎と食道楽」と豊橋ならではの「スローフード」について
29回	村松淳司	東北大学教授(多元物質科学研究所・所長補佐) 総長室情報広報戦略会議委員	東日本大震災から2年7か月 ～東北復興の現状と、来るべき災害への教訓～
30回	宮川美津子 (旧姓 安江)	日本国・ニューヨーク州弁護士(TMI総合法律事務所 パートナー)	知的財産法入門
31回	柘植勇人 (豊橋落語天狗連 駒久家 南朝)	医療法人 つげ耳鼻咽喉科 理事長	健康講座と落語「笑い与健康のお話」
32回	林正道	海洋楽研究所 所長	故郷を知る「海洋楽」のススメ
33回	山本俊六	鉄道総合技術研究所 地震防災研究室 室長	早期地震警報と巨大地震 一課題と新たな展開一
34回	金井辰樹	中日新聞(東京新聞) 政治部長 みのもんだ朝ズバッ(CBC系) コメンテーター	政治と新聞とテレビの裏側、お話しします
35回	木下専	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 情報機構学講座 教授	脳と心はどこまで理解できるようになったか?
36回	藤田賢一	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員	まほうのインク 一実験って久しぶり!一
37回	堀場美佐	balihodesign 主宰 インテリアプランナー・プロダクトデザイナー	海の道が紡ぐ豊橋と伊勢～奉祝 伊勢神宮式年遷宮～
38回	岡田竜馬	株式会社開拓塾 代表取締役	無機から有機へ、数字を追いかけ続けることで人を喜ばすことができる
39回	河辺智弘	株式会社アドバンブリッジ 番組制作コーディネーター	ゴリラの撮影と保護活動、そして戦乱～コンゴ民主共和国東部の風景～
40回	松本能幸	テレビ朝日 編成制作局 制作1部 プロデューサー(「TVタックル」担当)	バラエティ番組の作り方 プロデューサー・ディレクターの役割とは?
PTA	仲井雅弘	株式会社仲井 代表取締役社長 NPO法人TTランナーズ理事長	箱根駅伝の魅力と本年度の展望
PTA	垣内寿美子(シャンソン歌手 金井寿美子)	シャンソン歌手・NHK文化センター講師・FM豊橋パーソナリティ	日本の母・奮闘記 ～セント・ポールズ校の美少年と過ごした一週間～
学校	木藤政美	時習館高等学校教頭(英語科教員)	時習館の国際交流活動について
学校	花田直秀	岡崎高等学校 再任用教諭(数学)・時習館高等学校 非常勤講師(情報)	伝統校 徹底比較 東三 vs 西三
学校	後藤智行	時習館高等学校教諭	時習館 SSH

特集記事

ルーツを訪ねて



特集記事



日本のマンガ・アニメは、なぜ世界中から注目されるのか？

牧野 圭一（時習8）



○マンガは「日本を代表する文化の一つ」

…と顕彰されるようになったのは、ここ10年～20年ほどの出来事。それまではずっと、文化の底辺に位置付けられていたわけです。『マンガなんか読んでいないで勉強なさい』という親の叱声は、『アニメなんか…』『ゲームなんか…』と主体が入れ替わっても、子どもたちの頭の上に、今も降り注がれているでしょう。

これに『フィギュアなんか！』『コスプレなんか！！』が加わっているかもしれません。

○大学でもマンガが全面的に認知されているわけではない

全国各地の芸術大学、美術大学に「マンガ学科」「マンガコース」が創設される時代になりましたが、私が京都精華大学に教授として招かれた1994年（20年前）時点では、マンガコースはあっても、ゴヤ、ロートレック、ドーミエなど、洋画の中のユーモア、風刺を色濃く表した絵画作品群を規範としていました。（デザイン学科マンガコース）

○コミックの導入には大きな抵抗があった

精華大学にコミック、劇画などが取り入れられたのは2000年のマンガ学科創設時ですから、未だ14年の歴史しかありません。翌2001年にマンガ学科スタート。学部になったのが2006年。この年に京都国際マンガミュージアムも生まれました。（マンガという言葉自体に抵抗があった）

今年の漫画界の大ニュースは、精華大学で「少女マンガ」を最初に教えて下さった漫画家竹宮恵子さんが、京都精華大学の学長に選出されたことです。全教職員による選挙ですから、一漫画家のサクセス・ストーリーに留まらず、日本社会全体が【漫画・まんが・マンガ】と呼ばれる文化を受け入れたことを示す、象徴的な出来事でありました。

京都は、保守的側面が強調されて報道されることが多いのですが、古都であるからこそ、新しい文化やエネルギーを受け入れることのできる、優れた装置でもあるのです。

○新聞社での「マンガ」「イラスト」使用も限定されていた

大学に籍を置く前の約15年間は新聞社務め（1976年入社・政治漫画担当）でした。この年の沖縄海洋博（政府出展アクアポリス＝手塚治虫氏のサブプロデューサー）当時を振り返ると、各社に名物記者がいて、夜昼なく活躍しておられました。【活字信仰】という四字に象徴される活動です。「新聞紙面は活字によって構成されるべきで写真や挿絵、マンガ等は最小限に留めるべし」という時代。紙面のカラー化はなかなか実現しませんでした。

○スポーツ新聞から始まった視覚伝達

このころの、新聞社デスクの上には、数多くのスポーツ紙が置かれ、【活字信仰】と【視覚表現】

との葛藤が肌で感じられました。指導的立場の編集者と、読者の好みの推移。絵やグラフ、カラー写真の重要さを誰より読者が求めていたのだと、今、思い起こすことができます。

○マンガ・まんが・漫画・MANGAとは何か？

現在の新聞にはふんだんに写真やイラスト、マンガが使われています。スポーツ紙は更にエスカレート、文字も絵画化？され、造語の類も《氾濫》。もう、タブーが無いかのような紙面作りです。ページによっては家庭に持ち帰るのをためらう様な内容ですが、満員電車の中でも読み取ることが可能な編集がされています。

——（見出しは文字か？マンガか？）

○マンガとは【漫画は饒舌な象形文字】が私の結論

一齣（こま）、一齣に描かれた情報の量は大変なもので、文字に直したら1ページを費やしても足らぬような情報描写を、読者は一齣の中に、瞬時に読み取って物語を追いかけます。デフォルメした表情、画面を埋め尽くす走査線（走行線）。それに音をあらわす文字がかぶさり、吹き出しのセリフも書き込まれます。◇文学の鑑賞では「行間を読む」とよく言われます。◇マンガでは、その行間を埋め尽くすような描写が行われ、絵の完成度や構図としての整合性まで犠牲にして、作者のイメージが『これでもか！！』と、過剰なまでに打ち出されます。優れたマンガ読者は齣の中から爆音や炸裂音を聞き、主人公の叫び声や、駆け抜ける様を、実写映画を見るかのように読み取っているのです。◇なりふり構わず過剰な情報が盛り込まれた「媒体」を目の前にして、文字派の人々は眉を顰めました。品格があるとは言えませんから…。★（眉を潜める…でない！！=声を潜める？）★（何度読み返しても（推敲）ミス？が見える文字原稿⇔「一目瞭然」ミスが見える漫画）

○ヨーロッパ、アメリカのマンガと日本のマンガ

ヨーロッパやアメリカには、ハードカバーの立派なマンガ本があります。絵画的完成度も高く、親子代々受け継がれ、読み継がれるような作品です。しかし、あまりにも見事なので、一齣・一齣で目が釘付けにされてしまいます。リズムカルに目が物語を追いかけるスタイルの日本のマンガとは趣を異にしています。

◇写実絵画の伝統を持つヨーロッパマンガと、平面的な構図の中に遠近まで感じさせる描線の浮世絵の伝統が、日本のマンガに息づいている…。全ての作品ではありませんが、象徴的に分かりやすく対比すれば…そのようになります。

○本音表現、妄想の視覚化。…結果としての【万能接着剤】

しかしマンガは、事象の表現のみではありません。これは世界共通ですが、一齣漫画の世界には、「妄想の視覚化」とでも表現すべき作品群があります。ブラックユーモアの分野ですが、大切なことは、世界中の読者がこれを共有していることです。（一見、難解と思われるマンガ言語の共有）

◇29年間続いた読売国際漫画大賞の作品群はこれを立証しています。◇特筆すべきはこの賞に「ジュニア部門」があったこと。スタート時（1979年）には、ある大物プロ作家から「小学生に一齣漫画の理解は無理だよ」と言われていたにも関わらず、見事な制作能力と、読み取り能力のあることを彼ら自身が示し得た。…という《臨床実験的結果》を明確に、報告することが出来る…点です。

○日本のマンガ・アニメがどうしてこれほど世界中の読者に受け入れられたのか？

一言で表現するなら【象形文字】であるから。…と申せます。誰が見ても逞しいヒーローはそれと分かる姿をしている！美しく魅力的なヒロイン像は、まさしくそのイメージで描かれている。

「可愛い!!」キャラクターは、0歳児も無条件に受け入れられるほど《カ・ワ・イ・イ》のです。

《オ・モ・テ・ナ・シ》同様、可愛らしさも世界各国にあるのですが、取り立ててそれが強調される理由は、日本文化の《ワ・カ・リ・ヤ・ス・サ》にあります。直截＝シンプルな表現は、漫画が【絵】であると同時に【文字的要素】も持ち合わせた象形文字という解釈。浮世絵にもある要素

ですが、平面的な構成であっても、奥行きや量感、注目点のデフォルメのテクニックで、魅力的な画面を生み出していると考えられます。

それ故、世界中の若者、いえ！多くの研究者までが、日本のマンガ・アニメの「メディア」としての特徴に注目し、高い評価を下しているのだと結論致します。

(京都造形芸術大学マンガ学科教授)

▽巻頭のカットは大学機関紙「MOKU」から

作例(解説のため) … 【饒舌な象形文字】だ



「自画像」

肉眼で見えないものに人格を与える。等身大にすることによって「対話」「自己主張」させる。このとき【私】と【癌】は象形文字的側面を明確にしている【饒舌な象形文字】だ



ネコの金魚鉢
「猫」は「人」の象形、「魚」は「敵」の象形。……「金魚」は「運命」の象形。……「鉢」は「運命」の象形。……「猫」は「人」の象形。……「魚」は「敵」の象形。……「金魚」は「運命」の象形。……「鉢」は「運命」の象形。……

「ネコの金魚鉢」

食べられたものが食べられている。弱者にとつて最も安全なのが敵の体内かもしれない



From KEIICHI MAKINO
Cartoonist / Kyoto Seika Univ. Professor
Inter net ----> BYHO1612@niftyserve.or.jp
CompuServe--> NIFTY:BYHO1612

1-5-2 Natsumidai, Funabashi-shi
Chiba 273 JAPAN
Tel. 0474-38-8181/ Fax .0474-38-87

「電腦」

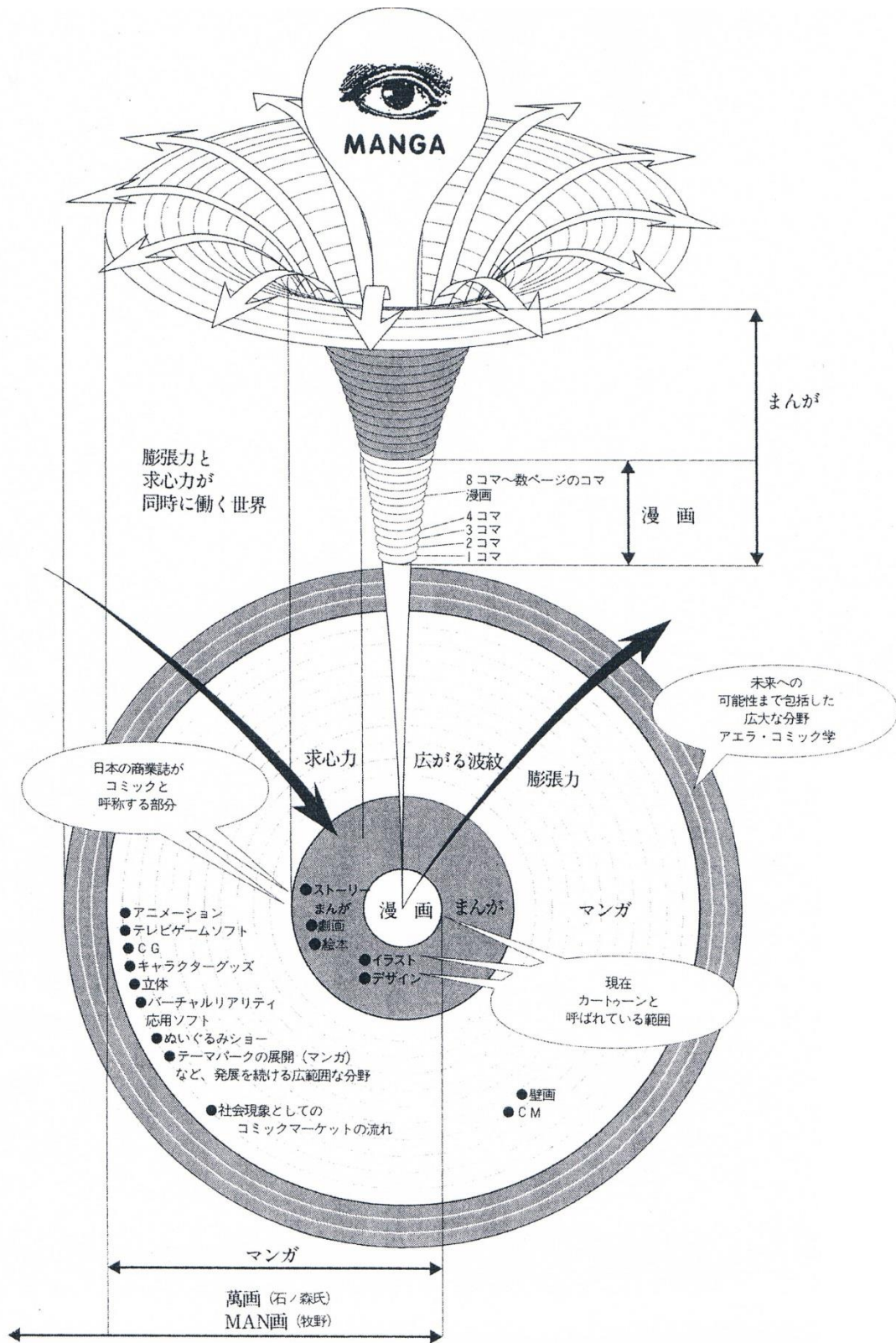
1996年「スマホ現象」が無かった20年前の作品。今も全く古びていない。「電腦」に体も脳も乗っ取られてしまわないようにご用心!



「知恵の輪」

ウクライナの危機を見ても、北朝鮮の瀬戸際外交をみても、人類は少しも進歩していない!! 鎧甲の戦国時代そのままだ。平和への知恵はないだろうか

マンガの世界…マンガ・まんが・漫画・MANGA

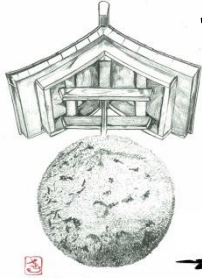


「漫画、まんが、MANGAの牧野型見取図」
『「コミック学のみかた」アエラムック、朝日新聞社、1997』より

高校時代に描いた牧野先生の作品から
時習館高校の先生似顔絵



特集記事



神社の原形・大和国一の宮大神神社

～日本の神様は信ずるものではなく 感ずるもの～

鈴木 寛治 (時習 15)



○駆け出しは靖国神社から

私は 昭和 38 年に時習館を卒業し 蛙の子は蛙といひましようか 父親に倣い 神主になるべく 伊勢の皇學館大学に進み 神職の資格を得て 昭和 43 年 4 月に東京の靖国神社へ奉職し 平成 3 年 7 月に今の大和の国一の宮・大神神社へ転任しました。



大神神社新拝殿の正面

移るきっかけは 年号が平成に改まった時 大神神社が国の重文・拝殿の保存修理と祈禱殿・儀式殿・参集殿等建設という概算 75 億円余を要する造営事業を計画し その事業の推進責任者に 当時靖国の私の上司に白羽の矢が立ち その上司の転任に伴い 私も誘われて ここ日本文化の発祥の地と言われる奈良県桜井市三輪へ転入しました。

○奈良・桜井へ来て 21 年

爾来 今年で 21 年を数えますが 最初の 10 年はその上司の下で 毎日の仕事は新鮮且つ楽しく かなり自由に就業をさせていただきましたが 平成 14 年春 造営事業も大方終わると そ

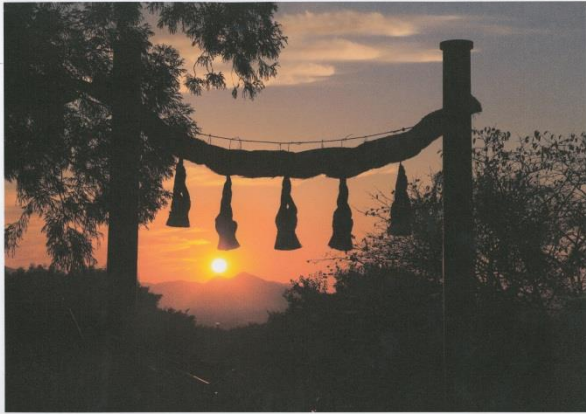
の上司が 健康と齢を理由に退任され その後任に 不肖私が宮司を拝命し今日に至った次第であります。

しかし 振り返って見れば 就任当初から約 3 年間のことは ほとんど記憶にありません。恐らく 上司と私は年齢が 2 廻り違い その上、上司は戦前に神道の教育を受けた方で 宮司として非常に完成度が高く 私は靖国の時から 30 年 公私にわたりご指導を頂き 景仰する師でした。それだけに プレッシャーも一入 もし仕事で失敗したら もし参拝者が減少したらといったことを 色々と毎日思い悩み その不安と心配を克服すべく無我夢中で仕事に取り組み 少しの余裕もなかったからと思われます。それでも 4 年目を迎えた頃から 仕事にも慣れてきた為か、記憶もだいぶはつきりと残っており その頃より 新しいことにも取り組み わずかながらも思いも少しずつ実現し 前進いたしました。

○原始の神まつりを今に伝える

そんな中 ある講演会で 著名な宗教学者が 「日本の神様は信ずるものではなく 感ずるもの」と言われ その感ずる代表的な神社として大和の三輪山 大神神社を紹介して頂きました。すると その言葉は池に波紋が広がるように新聞やテレビ 雑誌にまで伝わり「パワースポット」とか「聖地巡拝」と言った言葉に連鎖し 中でも 当神社は 原始の神まつりを今に伝える神社として 殊の外数多くメディアに取り上げられ 結果 大神神社は日本最古の神社であることを広く紹介され 当初 心配した参拝者も

減少することなく 昨年の暮れ 三笠書房が出版した『日本の神社を知る事典』という書物に 全国8万神社の内著名な神社として 22社を厳選し 更にそれをランキングし 当神社は伊勢出雲に次ぐ3番目に位置づけられており 改めて 世の中の変化と時の流れを感じ 同時に 多くの人々の注目と関心を集めていることに 身の引き締まりを覚えた次第であります。



大神神社から見た夕日、二上山に沈む。
その遙か向こうは淡路の「いざなぎ神宮」
後方は「伊勢神宮」に当たる

○仏教との大きな違い

しかし 宮司になってから 否 今もですが 適わないことが一つあります。それは 奈良は 仏教県と言いましょか 有名な寺院が多く 著名な僧侶がおり その僧侶が あちこちでよく 人生とは何か よい生き方とは といった 宗教的な話をしております。

それ故 奈良県民は 神社に勤めている神職も 僧侶と同じと思われたのか 話すことが仕事と勘違いされてか 神職の私にまで 時々何か話しをと 頼みに見える方があります。

しかし 神職は昔から 言挙げせずと言って 偉ぶって 人々に話をすることを良しとせず ましてや私には人前で話す能力や見識もないことから 出来るだけ お断りしています。何故なら 神道は仏教やキリスト教と違い教祖はいません。ましてや教義教典もありません。従って 人々にお話をする教材は何も持ち合わせていません。

しかし 仏教はご存じの通り 釈迦が修行し 悟った宗教です。従って その釈迦の教えに感銘を受け 心酔し 仏門に入り 修行をし 仏の教えを会得した人が僧侶となり 世俗で悩み 苦しむ よりよい生き方を求めている人々に 釈迦の教えを伝え広め導くことを使命としておられます。従って 仏教は キリスト教やマホメット教と同様 創唱宗教といい 創始者の教えを広め伝えることを使命とし 大切にしており 名称も ○○教と名前の下に教えという字をつけております。

従って 仏教は人々にお話をする教材を豊富に持っております。その上 僧侶は僧侶になる前の修行の時代より 必ず 説教や説法の授業を受け 話のテクニックを身につけます。それ故 僧侶は 常に仏像を背にして人々に話しかけています。その姿を見れば 明らかなように お寺の主は僧侶であり 元々 お寺という場所は 教えを広める所 伝える所 学ぶ所であります。一方 神道は 教典もなければ教義もなく 教えることもなく 教える人もいません。従って 神社は神を祀る場所で 教える場所ではありません。また そこに仕える神職は神様を持って成すことを第一の仕事としているのであります。もともと 神職は仲執持とも言い 人々の気持ちを神に伝えることも使命の1つであります 常に気持ちと身体は 神様に向かって仕事をしております。

○神様や参拝者への“奉仕”

では 神様に向かっていない時はと言いますと どうしたら神様に喜んでもらえるか どうしたら参拝者が気持ちよいお参りが出来るか 等々 神前奉仕の在り方や仕方とか お社の管理維持運営について心を砕いております。

それ故 昔から よく言われる言葉に「お参りしたい神社は沢山あるが 話を聞きたい神職はあまりいない。しかし お参りしたいお寺はあまり思いつかないが 話を聞きたい僧侶は沢山い

る」と言うのがあります。これは 神職と僧侶がそれぞれ向かっている方向が違うということから 生じた言葉で 神社と寺院の本質をうまくとらえた言葉であります。正に お寺の主人は僧侶です。対し 神社の主人は神様であり 神職はその神様に仕えることを本務としており 例えて言うと天皇陛下に仕えている侍従と同じ立場であり言うなれば裏方であります。

○自然現象を恐れ 霊気を感じる

では何故 神道を感じずる宗教なのか と申しますと 日本はご承知の通り 周囲を海に囲まれた島国です。国土の広さは 約 37 万 8 千平方キロといわれます。そしてその中 地形は山・谷・川・平野があって 変化に富み気候も 一年を通じて比較的温暖で 凡そ 3 カ月ごとに 春・夏・秋・冬と季節が循環します。

このような地理的、気候的、条件から 古代の日本人は 米作りを中心とする農業や漁業・林業を盛んに行っていました。

しかし これらの産業は 自然現象に影響を受け 日照りや雨 風はじめ 台風や地震 或いは干ばつなどによる被害は その土地に住む人々の生活に直結し 場合によっては 死活問題であります。

そこで 人々は人間の力ではどうする事も出来ない この自然現象を恐れ 周囲の山に 河に 木に 石に 水に神を感じ 霊気を感じ 神聖なものとして 感じた物を持って成す心で鄭重に大切に接し お祭りをしたのが原始の神まつりで それが神社の始まりです。従って 大昔の神社はご社殿がありません。

しかし 祭りを繰り返しているうちに建物の必要を感じ また 6 世紀頃伝来してきた仏教の影響を受け 御殿を建て そして御殿の中には三種の神器と言われる鏡とか刀とか剣 また 石等を神様の御神体として鎮め祀り 祭典を執り行い 共同体の安全と繁栄を祈ってきました。

即ち 古代の日本人は 頭で神様を理解した

のではなく 肌で神様を感じ その感じたものを鄭重にお祀りしてきた訳であります。従って 神道は山に 川に 海に 土に 石に水に等 自然の全ての物に 神が宿ると理解し それを八百万の神をととして 恐れ かしこみ 崇めた信仰です。



水田と三輪山、社殿なく三輪山そのものがご神体

○専門神職の誕生

では その神々に仕える 神職は と申しますと 昔の神職は専従ではありませんでした。日々の生活の中で神を感じた人々は 神様のお世話をする人が必要と感じ 共同体の中から神職を選出しました。最初 その任期は 1 年であったことから 1 年神主という名称が残っております。

神職の主な務めは 穢れを忌み嫌い 常に身を清め その上で神様の御世話をする訳であります。仕事の内容は 常に神様のご神威にかなうべく祭典奉仕や 境内の清掃 また参拝者の受け入れ等を執り行い 神社を管理します。

しかし 一年神主は 村人を代表して神様に仕えることから その間は 特別な人としての扱いを受けますが 反面 その間 本業を離れる為に 一家の財政に負担がかかり その負担の為に 衰退した家も出たと言われます。

特に農家であれば 1 年間 田畑を耕す事を休んでしまえば 田畑はやせ細ってしまい 元の状態に戻るには数年掛かります。従って 1 年間 神仕えをする為に農業を離れる事は 大変なリスクを背負う訳です。



「檜原神社 豊鍬入姫宮」元伊勢の始まり

そこで 共同体では 村人のお互いの生活の安定を図る方法として また 神様をより丁重にお祀りする方法として 更には 神社を大切に護持運営する方法として 神様にお仕えする神主を これまでの年番制とせず 固定化させ 専門職にするという考えが出てきました。そこで 村の中で一番 神まつりの仕事に相応しい人 また 喜んで 楽しんで神仕えしてくれる人を選び 神様の事 神社の事を全て委ね それが 専門神職の始まりです。よく社家という言葉聞いたことがあるかと思いますが 長年 専従神職をしているうちに いつしか神様のお世話を する家として 人々からそう言われるようになった名称であります。

○日本固有の信仰

従って このようにして成立した神社と神職であれば 神社を取り巻く共同体の人も 神職



拝殿の横から。拝殿とご神木

から 神社のこと 神様のことを聞く必要もありません。また神職も 神様のこと神社のことを 村の人に説明する必要もありませんでした。

否 神社のこと 神様のことを 神職から教えられなくても 村の人は 各自それぞれ感じ十分すぎるほど 知りつくしております。よって 人々は 折々に触れ事に当たって 神社に行き手をあわせ 神を感じながら 日々の生活を営んできました。

正に 古代の日本人は 神様と共に日々生活をしてきました。それが為 神様に手を合わせる事が 宗教であるという認識もありませんでした。 それ故 神道という用語もありません。

ところが 6世紀に仏教が伝来したことから 改めて 日本民族の間に発生し そのすべての生活の根底となってきた固有の信仰を神道と命名しました。そして その原始の神まつりを平成の今に伝えるのが 当方 大和国一の宮 大神神社であり それ故 大神神社は日本最古の神社として崇められており 毎日 境内に入れば 何か空気が違う 靈気を感じると多くの参拝者が言われ 今日に至っております。

どうぞ皆さん 是非 一度ご参拝をいただき 神様を感じて頂きたいと思ひます。

(三輪明神大神神社宮司)



三輪明神大神神社の大鳥居。ご参拝の折はこの鳥居を目当てにお越しください

特集記事



「ルーツを訪ねて」3題

熊谷 信哉 (時習 18)



今年は奈良総会ということで『時習館かんさい』の年間テーマは「ルーツを訪ねて」。これを勝手に拡大解釈して①江戸時代の大工“格言”に触発され大工さんの世界を垣間見る②(ハード)ダーツは神戸での大会を嚆矢として全国に広がった③折り紙を欧州に伝えたのは伊達正宗から派遣された支倉常長?一の3題漸をご紹介したい。

(年号表記は西暦を優先、原文と異なるケースがあります)

《大工“格言”》

○ 「鑿と言ったら金槌も」

「鑿(のみ)と言ったら金槌(かなづち)も」——鑿と金槌はセットでないと役に立たない。親方に「鑿を持ってこい」と言われたら金槌も持っていく気働きが必要…。危機管理も踏まえ、一般にもよく知られている大工格言だ。

横道に逸れるが現代の優秀なキャリア・ウーマンは入社してきた新人に「糊と言ったら紙も」と教えるそうだ。糊と紙はセットでないと使えない訳ではないが、糊づけする時、台になるデスク類を汚すことのないよう紙を敷いて作業をせよ、と細やかな心配りを伝えるようだ。

ネットで検索すれば、大工が親方や先輩のしゃべるのを聞き、ごく自然に引き継がれてきた“格言”めいたものが数多く見つかる。

○ 武家社会の大工“格言”

ある時、親しくなった青木彌須久(やすひさ)さん(73) =写真=という大工さんと雑談しているうち、耳慣れない“格言”めいた熟語が次々に飛び出し、びっくりした。

- ◇ 棹を床の間に差したら切腹の間
◇ 違い棚の下は畳1枚の高さ



(解説…畳1枚以上の厚さがあれば、その空間から隣の間にある殿様を槍で突くことが可能になるので注意が必要)

◇ 天袋は9寸

(解説…切り落とした敵の首を収納するための高さ)

◇ 床柱の下部を削ぐ

(解説…技術上のコツ? 床柱の下部を削ぐ高さの目安は、袴の端から足までの寸法に合わせる)

◇ 長押の上は槍かけ

中には物騒な単語も結構ちりばめられており、「ちょっとちょっと、今のは何よ」と思わず問い返してしまった。青木さん曰く、「(私が口にした大工“格言”は)江戸時代の大工の間では広く流布していたようだ。修行時代、それらを書いた本を親方からもらったが、どこかに行ってしまう」。

戦国の気風が色濃く残る江戸時代の初期には大工も武士に同行し戦場を駆け回り、砦づくりや、勝ちいくさの時は、お城の建築にも腕を振るっていたことだろう。上に掲げた“格言”めいた熟語は、こうした時代の気風の中で、ごく普通に親方から弟子に伝承されていたものの“氷山の一角”ではなかろうか?

○ 残したい歴史的文化遺産

「武家社会の大工“格言”」自体が日本人にとって一つの歴史的遺産という気がする。しかし江戸は遠くなりになり。近代建築の波に押されて大工という職業自体が急速に減少しつつある。「武家社会の大工“格言”」は活字に残しておかなければ、いずれ消滅してしまうだろう。現時点で聞き取れるものは残しておきたい。

この項を書いた最大の目的は、放置すれば完全に消え去ってしまう「武家社会の大工“格言”」を一つでも掘り起こしたいためだ。

武家社会の大工“格言”（の一端）と、その使われた状況、大雑把でよいので意味をご存じの方は筆者までご一報を。そして、この種の言葉が載っている本があれば、ぜひお知らせください。

「法隆寺の宮大工」として知られる故・西岡常一棟梁が、西岡家に代々伝わる口伝を残しており、含蓄の深いものが多い。「堂塔の建立には木を買はず山を買へ」「木は生育の方位のままに使へ」「堂塔の木組は木の癖組」などなど。

1300年前の飛鳥工人の世界は凄い、の一言に尽きるが、ど素人の私が好きな大工“格言”は以下の三つである。

「大工と医者悲鳴は禁句」「鑿とカンナは裏が命」「2度計って1度で切る」。

《ダーツの歴史は神戸から》

○ 「ザ・キングスアームズ」

「ダーツの大会が日本で最初に行われたのは神戸。ここから趣味としてスポーツとして、全国さまざまな大会開催へと発展していった」と貴重な証言をしてくれたのは神戸市須磨区在住の木澤一郎さん(78)。全国に19人(関西では1人のみ)しかいない日本ダーツ協会公認のA級指導員で、ダーツ歴は半世紀に及ぶ。

「外国人船員らによる日本で最も早いと思われる大会が1952年(昭和27年)から開かれた。会場は阪神・淡路大震災までフラワーロード沿いにあった外国人向けレストランバー『ザ・キングスアームズ』。この数年後、私たちの仲間も、このゆかりの場でダーツをするようになり、ビールを片手に酒場のゲーム感覚で楽しんでいた」。

当時のゲームは「501」や「301」あるいは「ブルシュート」と言われるもので、3本の矢を放ち点数を競った。ルールは現在と同じだ。「その後、各地でダーツが盛んになり、協会が設立され、関東でも正式な競技会が行われるようになった」と日本におけるダーツ揺籃期のことを話してくれた。

○ ダーツの起源はバラ戦争の戦場

今から560年近くも前のことである。バラ戦争(1455年)の戦場に従軍したイギリス軍兵士たちが、戦いの合間に武器であった弓矢を使い、特定の的を目標けて矢を射り、腕を競ったのがダーツのルーツとされている。

的(ボード)は当初、空になったワインの樽座だったが、次第に大木を輪切りにしたものに様変わり。適度に刻まれた天然の年輪を活用することで、採点方法と標的狙いのテクニックの面白さを見つけ出したようだ。

最初は戦場で競われたダーツだが、イギリスの冬の厳しい寒さから、次第に屋内に移り、暖かい暖炉のそばで家族や友人と楽しむゲームに変わっていった。

○ 初期の歴史伝えるバー「ローハイド」

ダーツの大会を全国に広げていった神戸で初期から続いているのがバー「ローハイド」=神戸市中央区。過日、木澤さんと私は、この店の2代目オーナー(故・山本和夫さん)の奥さん・孝子さんを訪ねた。

「先代オーナー（故・山本忠治さん）の口癖は『日本のダーツの原点はザ・キングスアームズ』と暇があれば、よく練習に通っていた」と前置き。「忠治さんは、カタログを調べて、ボードやダーツをイギリスから取り寄せた」と貴重なエピソードを披露してくれた。



往時の立派なトロフィーを手にする木澤一郎さん。リボンには、かつての優勝者の名前がずらり＝神戸市中央区の「ローハイド」で

「ローハイド」には盛んに大会を開いていた往時の立派なトロフィーや何本もの優勝者リボンが残っている。トロフィーは阪神・淡路大震災で壊れたが、日本のダーツの歴史を語る“生き証人”となる貴重なものだ。

○ 本場も認める「日本のダーツは神戸から」

「日本のダーツは神戸での大会から全国へ広がった」と強調してきた。

ダーツ専門誌『NDL』（ニュー・ダーツ・ライフ）は、このことを2009年3月号で大きく取り上げている。日本のダーツの歴史を知る上で極めて重要な記述と思われるので、同社の了解を得て「さわり」の部分を紹介してみよう。タイトルはズバリ「日本ダーツのはじまり」。

まず編集部の前書きから。「（書き出し部分略）日本のダーツって何時はじまったのだろうか？多くの読者がそのことを知りたいことだろう。（中略）今回は事情を知る数少ない人物から投稿が寄せられ、わざわざ編集部にまで足も運んでいただいた。（後略）」。

「日本ダーツのはじまり」について詳細なレポートを寄せておられるのは英国生まれの Ivan L. Brackin さん。（作家の故・森瑤子さんの夫という

方が日本人には分かりやすいかも知れない）。



「私が定期航路の客船から神戸の港に降り立ち、街に向かって歩き始めたのは1964年（昭和39年）のこと。これが私にとって、初めての日本上陸だった。（中略）驚いたことに、1キロも歩かない所で、イギリス警察のヘルメットと同じくらいイギリスを象徴する“もの”の看板を見つけたのだ。“ザ・キングスアームズ”と書かれたその看板は、私を歓迎するかのように舗道の上に掲げられていた。（中略）故郷、イギリスのマンチェスターを離れて2年。1万マイル彼方のこの日本にパブがあるとは！（中略）店に足を踏み入れ見回すと、部屋の一角にそれはあった。木のキャビネットの中に納まって、使い込まれたノドアのダーツボードが掛かっていたのだ。「こいつは驚いた！」私は大喜びした。「日本人もダーツをやるなんて」。

この時、私には気付いていないことがあった。偶然にも私が足を踏み入れた『ザ・キングスアームズ』は1964年時点でおそらく日本でただ一つのダーツパブだったのだ。その2年後、ダーツボードを備えた英国式パブ“ザ・ウィーパブ”が初めて東京に誕生した。（以下、関東地区でのダーツお目見え初期のレポートが続くが、誌面の都合で省略）。



日本で最も古いと思われるダーツパブ『ザ・キングスアームズ』（神戸）のダーツボード＝ダーツ専門誌『NDL』提供

くが、誌面の都合で省略）。

○ マスコミで取り上げ

神戸っ子は、おっとり構えて、PR下手と言われるが「日本のダーツは神戸から全国へ広がった」という、このアピールはマスコミにも届いた。

2013年（平成25年）、（社）日本ダーツ協会兵庫県ダーツ支部は支部創立10周年を迎え、7月に兵庫県中央労働センターで1カ月にわたる記念事業を行った。一般市民を対象にした体験講座も開

いたが、初日の5日には地元の神戸学院大生と院
生ら約20人がゼミの教授夫婦と一緒に顔を出し
てくれた。取材したのはNHKとサンテレビ、神
戸新聞の3社。特にNHKは午後6時10分からの
「ニュース神戸発」で放映、当日付のテレビ番組
欄にも「“ダーツ日本上陸の地”神戸」の文字が並
び、ニュースは近畿圏全域に流れた。ラジオ関西
では木澤氏が約20分、生出演し、『ザ・キングス
アームズ』時代の貴重なエピソードを披露してく
れた。

○ 神戸での初大会から還暦過ぎる

イギリス発祥のダーツ。先にも触れたように日
本で最も早いと思われる大会が神戸で開催され
たのが1952年(昭和27年)。日本のダーツは2012
年(平成24年)、還暦を迎えた。

ダーツのお話ついでだが、日本の若者がパブな
どで楽しんでいるのは「ソフト・ダーツ」。矢(ダ
ーツ)の先端がプラスチック製だ。日本ではこれ
が大勢を占めている。一方、この稿でご紹介し
てきたのは「ハード・ダーツ」で先端はスチール製。
世界では、こちらが優勢だ。

◀ 欧州に折り紙を伝えたのは 支倉常長? ▶

○ ハボンさん

折り紙は日本で生まれたものか、あるいはスペ
インが西洋の折り紙発祥の地か? 折り紙の世界
では“古典的”とも言える謎だ。

東京・湯島で江戸時代から続く和紙専門の老舗
「ゆしまの小林」の小林一夫社長(72)。「おりが
み会館」館長として折り紙の歴史にも造詣が深い
が「1613年(慶長18年)に仙台藩主・伊達正宗
が支倉常長らをスペインに派遣。当時、スペイン
に残った日本人が現地の人に教えたと考えるのが
妥当」と明快な意見。

2013年(平成25年)は日本・スペイン交流400

周年の大きな節目の年だった。公式訪問していた
皇太子様が支倉常長の13代目の子孫と対面、さら
に日本人の子孫であることを示す「ハボン」姓が
約1500人住んでいる町コリア・デル・リオにも立
ち寄られ、代表者らと交流した、とニュースで大
きく報じられた。

小林さんは「スペイン折紙協会のシンボルマー
ク『バハリータ』は日本古来の『騙し舟』の変形
だし、現地には鶴や奴さんの折り紙の記録もある」。

今や世界語となった「ORIGAMI」。

一つでも二つでも覚えて、6年後の東京オリ
ンピックの時、海外からのお客さんに本場の技を披
露して「お・も・て・な・し」をしてみては?

◀ 前項関連 ▶

兵庫から全国へ旅立ったスポーツ

ゴルフ、登山、ヨット、ボート、水球、ラグビ
ー、サッカー、野球、テニス、バドミントン、ボ
クシング——多岐にわたるスポーツを列挙したが、
これらに共通するものは一体、何か?

『神戸スポーツはじめ物語』(高木 應光=まさ
みつ=著 神戸新聞総合出版センター発行)の冒
頭に、その答えが載っている。

「神戸は1868年(明治元年)の開港以来『東の
横浜、西の神戸』といわれ、外国人居留地を窓口
として、関西一円に欧米文化を発信してきた。フ
ァッションだけでなく、スポーツもここ神戸から
広がった」としている。

同書は、こうしたそれぞれのスポーツについて、
豊富で興味深いエピソードを分かりやすく紹介し
た労作である。

「ルーツを訪ねて」で(ハード)ダーツも神戸
での大会から全国に広がり、愛好者を増やしてい
った事情の一端に触れた。高木氏は「ダーツは欧
米では既にスポーツの扱い」と大いに興味を持っ
ておられる。2006年(平成18年)に兵庫県内で
「のじぎく兵庫国体」が行われた。養父(やぶ)
市が会場となったダーツは「デモンストラショ

ンとしてのスポーツ行事」として採用され、神戸の愛好家たちも多数、親善試合に訪れた。東京オリンピックには間に合わないが、オリンピックの正式種目となるのも夢ではない。

ことのついでに神戸市、または兵庫県から全国へ旅立っていった近代スポーツをもう少しだけ紹介してみよう。

女子マラソン

「女性だけが企画し、参加する楽しいフルマラソンを」のコンセプトで開かれたのが「たんばささまレディースマラソン全国大会」。主婦ばかりの実行委員会が全国に手書きの案内状を送った。1979年（昭和54年）3月25日、兵庫県の篠山町（現・篠山市）役場前で号砲が鳴った。もちろん日本初の女性だけによるフルマラソンである。参加賞はペンダントだった。

全国から61人がエントリー。レースには華やかなウェア衣装に身を包んだ女性たちが参加。のんびり走ってもいいよう時間制限は設けなかった。豊かな自然の中で、走りながら花を摘んだり、化粧直しする人もいたという。

リピーター参加者が多かった理由について、当時の関係者は「マラソンは男がやるもの、と言った気風が強い時代だったが『女性も出来る』と考える意識の高い人がいたから実現した。走る主婦が計画段階から何度も話し合っって練り上げていったことも大きい」と話している。

投輪

海で造られ、山で遊ぶ一南北を海と山に囲まれた、いかにも神戸らしい生涯スポーツだ。輪投げをスポーツとしてルール化したのが神戸生まれの「投輪（とうりん）」。

ももとは神戸港に入港する船の上で船員らの遊びだった。神戸投輪連盟の沿革によると、輪投げが神戸で最初に行われたのは昭和初期。神戸名物の毎日登山の際、山の茶屋で輪投げに興じる愛好家もいたようだ。

全国初の投輪団体「神戸投輪連盟」が1957年（昭和32年）4月、神戸で産声を上げ、競技のルールを制定した。その後、「兵庫県投輪連盟」も発足。両連盟は神戸市長杯や兵庫県知事杯の争奪大会などを実施している。神戸での投輪の歴史は、間もなく「卒寿」を迎える。

神鋼、川崎重工、三菱重工など造船で鉄を扱う大企業が多い神戸。高度成長期には余った鉄を使って投輪用の道具がどんどん造られた。投輪全盛期の昭和30年～40年代は昼休みのレクリエーションとして職場で楽しむ光景があちこちの会社で見られた。

投輪専用の台には鉄製のピン（棒）が9本立てられており、的までの距離は8.5メートルと結構遠い。船の甲板で投げていた名残が、陸上での遊びになってからも変わっていない。

毎日登山

高く峻険な山々は修験者の独壇場である。しかし六甲山（標高931メートル）クラスの手ごろな山となると、普通の市民の出番だ。

市街地からちょっと行くだけで、すぐ背後に六甲の山並みが迫る。どこからでも登山でき、気が向けば有馬方面に降りて温泉に浸かってから帰宅する——神戸っ子にとっては、ごく当たり前のことだが、こうした恵まれた条件を持つ登山・ハイキングエリアは全国を見回してみても意外に少ない。

地の利を最大限に生かした「毎日登山」は神戸で生まれるべくして生まれた。

神戸での登山は六甲山に郵便局が出来て間もない1950年（明治38年）、再度（ふたたび）山で始まった。再度山一帯の山地監視人だった吉岡善助が山小屋を建てて定住。毎朝、北野から山小屋まで登ってくるイギリス人実業家E. H. ハンター氏（神戸・北野のハンター坂の名前の由来になった外国人。後の日立造船を創設）に善助が、ある日、紅茶を出して歓待した。山小屋の評判は次第に外国人の間に広がり、休憩所としての道をたどった。登山証明のサインブックも置かれるように

なった、という。

「善助茶屋」跡には「毎日登山発祥の地」と書かれた立派な記念碑が立っている。

神戸背山への外国人登山に端を発した生涯スポーツ・毎日登山。今では再度山、布引山、高取山、保久良山、一王山など七つの山筋で、毎日1万人が朝の4時ごろから登り始めている。登山1万回以上の記録を持つ市民も多い。

ゴルフ

同窓会の関西支部にもゴルフ同好会があるが、「神戸から始まったゴルフ」はあまりにも有名。ごく簡単におさらいだけしておこう。

明治元年、神戸港開港の年に英国グラバー商会の派遣社員として来日したアーサー・ヘスケス・グループが日本初のゴルフ場を開設した。彼は貿易の仕事の傍ら、六甲山で登山や狩猟などを楽しむうちに「高齢者でも楽しめる娯楽を」と母国で盛んなゴルフに目をつけた。

『日本ゴルフ史』によると1901年(明治34年)に4ホールのゴルフ場を六甲山上に設計。さっそく友人らと整備にかかり、2年後の1903年(明治36年)、9ホールに拡張してオープンにこぎつけた。「神戸ゴルフ倶楽部」の誕生である。

ここで知ったかぶりをして書き進むのはあまりにも気恥ずかしい。もっと詳しく楽しいエピソードを知りたい方は、『神戸スポーツはじめ物語』の冒頭「それは六甲から始まった」をぜひとも読んでみて欲しい。

神戸レガッタ・アンド・アスレチック・クラブ=KR&AC

神戸・三宮の東遊園地の一角、KR&ACの旧クラブハウス前にある記念碑=写真=が立っている。細長く、4mほどの高さ。KR&ACの創設者・アレキサンダー・キャメロン・シムの功績をたたえ、1901年(明治34年)に友人たちの手で建立された。「彼がいなければ、神戸のスポーツ史は大きく変わっていたはずだ」と指摘する人も多い。

シムは1840年、スコットランドで生まれた。薬剤師、薬局経営の資格を持つ。香港を経由して1870年来日、神戸外国人居留地に住んだ。来日



の年にスポーツクラブの創設を提案し、居留地の欧米人たちの賛同を得た。9月23日の発起人会議で会則などを決め、KR&ACが産声を挙げた。

KR&ACで行われたスポーツは漕艇、陸上競技、バスケット、バドミントン、ビリヤード、ゴルフ、ホッケー、ラグビー、サッカー、競泳、テニス…と挙げ出すときりがない。日本の学生との交流ゲームもしばしば開かれた。こうして神戸の外国人居留地からスポーツが関西一円、ひいては全国に普及していった。

『神戸スポーツはじめ物語』の著者・高木應光氏の言葉を著書から引用させてもらおう。

「シムは仲間とともに、英国本土でもやっと始まりかけたスポーツクラブを創設し、やがて会員以外にも開放、コミュニティー活動の核とした。

(中略) 彼は、スポーツプレイヤーとしての自らの才能に目覚め、それを契機に真のスポーツマン、本当のジェントルマンに成ろうと努めた人物ではないだろうか」

シムは神戸で経営した「ACシム商会」でラムネの製造・販売も手がけている。



これらの文を書くに当たって1998年3月から神戸新聞で連載された「スポーツ碑を訪ねてひと・足跡・時代」のかなりの部分を引用させていただいた。さらに関連する各種記事を参照するとともに、神戸新聞・前運動部長の山中英夫氏(現・販売局次長)が取材を通じて蓄積した成果を快く提供してくれた。厚く御礼申し上げたい。

特集記事

自分自身のルーツを訪ねて ～魅せられた「新しい歌」～



千葉 泉 (時習 29)



ぼくには、原体験といえる思い出がある。時習館高校時代にやっていた音楽活動だ。一年生のとき、四名の同級生とともに、「文科系理科バンド」というグループを結成した。そして二年生になると、歌のうまい別の同級生と同じ名のデュオを結成し、当時流行っていたかぐや姫や井上陽水などのフォーク音楽を、自分勝手なアレンジを施して演奏していた。卓球部の活動は長続きしなかったが、無手勝流の音楽活動は3年の文化祭まで続け、ぼくらのデュオは学内ではかなりの人気を博した。

○音楽的素質あり？

小学生のころ、勉強が嫌いでスポーツ系クラブの選手にもなれなかったぼくにとって、一つだけ特技といえるのが音楽だった。三年生のとき、近所のピアノ教室に兄が通うのを見て、ぼくもピアノを習うようになった。楽譜に書かれた味気ない練習曲の繰り返しに嫌気がさし、教室は二年でやめてしまった。だが、はじめて家にやってきた中古の白黒テレビで見る鉄腕アトムや鉄人 28 号などの漫画の主題歌を、楽譜に縛られることなく、自分流のアレンジで弾くことの喜びを発見したぼくは、「もしかしたら音楽はイケてるのかも？」と感じるようになった。

自分の唯一の特長であるこの音楽的資質を活かしながら、最ものびのびと人生を謳歌することができた時習館高校時代の三年間は、ぼくにとってかけがえのない時間だったのだ。

だが、家庭環境は、音楽や芸能の世界とはかけ離れたものだった。父は英文学を専攻する大学教員、母も元小学校の教員で、二人とも息子たちが研究者となることを強く望んでいた。「学者こそ最

高の職業」、それが母の口癖だった。だが、ぼく自身は、幼いころから論理的にものを考えたり、こつこつ努力することが苦手で、読書も大嫌いという、およそ学者タイプの間人ではなかった。しかし、両親と、常に成績優秀だった兄たちの存在の影響で、次第に心の中に「研究者になること」を絶対命令とする強迫観念が植えつけられていった。

○本当に興味を持てることを伸ばしたい

海外のロック音楽やポピュラー音楽が好きで外国語には興味があったので、東京外国語大学に入学し、スペイン語とラテンアメリカの歴史を学んだ。その後、研究職に対する情熱など全くないにもかかわらず、惰性で東京大学大学院の社会学研究科修士課程を受験したところ、まぐれで合格してしまった。だが、自分の資質に合致するとは思えない道を歩むぼくの心は、憂鬱なままだった。そして、無理やり修士論文らしきものをひねり出したものの、案の定、博士課程への進学は叶わなかった。劣等感と挫折感にさいなまれて過ごすうちに、ある思いが湧き上がった。「自分のルーツに戻ろう。本当に自分が興味を持てることを、自分らしいやり方で勉強してみよう」

この苦渋に満ちた大学院時代に出会っていたのが、「新しい歌」という社会派的な音楽運動だった。キューバ革命やチェ・ゲバラの思想などの影響で、社会変革の機運が盛り上がっていた、1960年代の南米のチリやアルゼンチンでは、それぞれの地域の伝統音楽を基盤に据えながら、当時の状況を反映する熱い政治社会的なメッセージと斬新かつ多様な音楽性を兼ね備えた作品を創作・発表する一群の歌手やグループが現れた。



楽器
ラテンアメリカ各地のギター系

これら「新しい歌」の音楽家たちの気骨と創造性にあふれる歌声に魅せられたぼくは、レコードやカセットテープから流れる音だけを頼りに、見よう見まねで南米のリズムをギターで刻み、スペイン語の歌を歌うようになっていた。

○チリの宗教民謡を研究

「音楽でやってみたら？」という東京外大時代の指導教官の言葉に励まされ、同大学院の修士課程に合格すると、翌年には奨学金を得て、初めて南米チリに留学する機会を得た。そして、チリの「新しい歌」の歌手たちが創作基盤の一つとして用いていた「カント・ア・ロ・ディビーノ」という伝統的な宗教民謡を研究することに決めた。文化人類学の理論もフィールドワークの方法も全く知らなかったが、一人ふたりとカントの歌手たちと知り合い、交流を深めていくうち、自然と、「研究対象」である民謡を自分でも実践するようになっていった。



カントの手ほどきをしてくれたマヌエルさんや奥様と

高校時代から、自分流のアレンジでギターの弾き語りを実践していたぼくにとり、この作業は、この上なく楽しいものにはかならず、いつしか「研究している」とか「調査している」という意識は脳裏から消え去っていた。自分らしさを抑圧することなく、いわば「やりたい放題」やっているのに、結果的にちゃんと学術的な調査に（も）なっているという、何とも不思議な状況が生まれたのだ。

地球の裏側から来た、しかも仏教徒であるにも関わらず、聖書に関連する難解な十行詩の数々を暗記し、チリに伝わる独自の変則調弦ギターを演奏するぼくの姿は、現地の歌手たちに感銘を与えたい。なぜなら彼らは、ぼくを歌手として、キリスト教の聖人や十字架像を祀る、地元の儀礼に誘ってくれるようになったからだ。



ピルケ村の教会で開催された儀礼で歌う筆者



アクレオ村の儀礼で、村の歌手たちと並んで歌う

○内側から地元文化に触れる

こうしてぼくは、単に「研究者」というだけなら難しかったであろう、カントの奥義やそれにまつわるさまざまなエピソード、そして外部の研究者に対する、しばしば「耳の痛い」（批判的な）本音を聞くことができた。

地元の文化に、いわば「内側」から触れることのできたこの体験は、自分の持つ唯一の特長、すなわち音楽的な感性が、学術調査のコンテキストでも強力な相棒になってくれることを教えてくれた。

帰国後、カントの現状についてまとめた論文が評価されたこともあって、平成元年、大阪外国語大学にスペイン語とラテンアメリカ文化の分野の常勤講師として採用された。そして十年ほどが経過したころ、国立民族学博物館での共同研究で知り合っていた東京大学の教授（社会人類学）が、国際協力の分野での仕事に誘ってくれた。それは、「住民参加型」農村開発の方法を研究するという趣旨のプロジェクトで、ぼくはチリ委員会に社会学専門家という立場で協力することになった。

「住民参加型」開発というテーマはもとより、社会学などともに勉強したこともなく、ましてや国際協力などという実践的な分野で活動したこともなかったの、最初は専門用語やこの分野の根本的な発想すら理解できず苦労したが、現地調査を重ねるうちに、開発の考え方についても少しずつ分かるようになっていった。

○再びチリの地を踏む

三年にわたる研究が終了したその年に、チリのある小さな農村で、日本の国際協力機関により、土壌の保全を中核とする農村開発プロジェクトが始まった。そして翌年、同プロジェクトにぼくは短期専門家として招聘され、現地で活動することになった。ぼくに課せられた使命は、専門家曰く「積極的に参加しようとしなさい」農民の意識・本音をさぐり、具体的な改善策を提案すること、そ

して、現地チリの農学専門家たちに、村人たちとのコミュニケーションの取り方を伝達する、というもので、与えられた期間はたったの三週間だった。同じチリとはいえ、自分がそれまで研究したフィールドとは異なり、知り合いが一人もいない村で、そんな短期間で具体的な提言を行ったり、農学の専門家たちに何かを教えたりすることなど可能なのか？調査を始める前、ぼくは極度の不安に押しつぶされていた。思い悩んだ挙句、ぼくはあることを思いついた。「やっぱりギターしかあらへんな」

○ギターが住民との潤滑油に

市街のデパートで（当時の日本円で）一万円ほどのギターを購入したのち、現地に乗り込んだぼくは、村のほぼ全家族が出席する住民会議の場で、チリ中央部の伝統的な叙情民謡トナダや国民舞踊のクエカを弾き語りしてみた。



住民会議で国民舞踊クエカを演奏する

すると、長年の間踊っていなかったという、二組の年輩の男女がいそいそと前に出て来て、ぼくの演奏でうれしそうに踊ってくれたのだ！村人たち、専門家たちの表情は一瞬で笑顔に変わり、同じ村のおじさんたちの華麗な足さばき、おばちゃんたちの艶やかな仕草に、あちこちで歓声や笑い声が上がった。



筆者の演奏でクエカを踊る村人

翌日からの個別家庭への訪問調査は、面白いようにうまく進んだ。計三十軒ほどのお宅にお邪魔したが、住民たちはギターを手にしたぼくを見ると、百発百中こう口にした。「ギター持って来たん？ほな弾いてや！」それで、まずぼくは、チリや日本の民謡など数曲を歌うことになった。そのうちに、おやつや昼食の時間となる。なごやかに談笑するうち、住民たちはこちらが質問することもなく、自然かつ自発的に、進行中の開発プロジェクトに関する赤裸々な思いや、厚意的、批判的両方の意見などを伝えてくれるのだった。

それらの発言はいずれも、彼らの生活や家計の状況、社会・労働組織、宗教観など、彼らが生きるリアリティーに深く根ざした内容で、極めて示唆に富むものだった。その中には、プロジェクトが推奨する新しい耕作技術に直接関連する、具体的な改善提案も多く含まれていたが、いずれも専門家たちの耳には届いていなかったのだ。

○具体的提言に結びつく

こうして、活動前に感じていた不安はいつしか消え去り、三週間を待つまでもなく、ぼくは問題の核心が、専門家と村人とのコミュニケーション不足にあることを確信するに至った。もし専門家たちが、固有の意志を持って行動する、一個の人間としての村人たちの能力を信じ、その意見にしっかり耳を傾けることができれば、おのずと彼らの実態を十分に反映し、現実性と持続可能性を備えた解決案をともに生み出すことができるはずだ。

だがそのためには、住民との間に、誠実さと信頼に満ちたコミュニケーションを確立することが必要不可欠である。このような結論に達したぼくは、三週間後に開催された報告会の場で、日本人、チリ人合わせて三十名以上の専門家たちを前に、実例を交えながら、チリ人の妻との十数年にわたる生活で鍛えた、三河弁ならぬチリ弁を駆使し、プロジェクトの改善に関する具体的な提言を行うことができた。(笑いも十回以上取った！)

この経験から、国際協力という実践的な分野でも、当事者の実態を尊重し、彼ら自身のアイデアや発想を活用することが重要であることに気がついた。帰国後ぼくは、大学の仕事でも、教員であるぼくと学生たち双方の「自分らしさ」を積極的に活かしていこうと決心した。

○自分らしく振る舞う

結局、大阪外大に二十年間勤めたのち、数年前、二大学の統合により、大阪大学の人間科学研究科に移籍した。そして現在ぼくは、ラテンアメリカ文化に関する講義やスペイン語のLLの授業にギターを持ち込み、毎回学生と一緒に南米ソングや自作の歌を歌い、彼らとのコミュニケーションをはかっている。ゼミの授業では、学生自身がテーマ、研究方法、自分の成績を決める「自由プロジェクト」なるものを実施している。



豊中市在住ペルー人の催しで、ゼミ生たちと一緒に演奏する

また、「実践的文化交流論」という授業では、受講生にウクレレの基本的な演奏技能技術を教えた上で、小グループごとに、自作の詩をつけた替え歌を発表させ、彼らの自己表現を促進するという試みも行っている。

「立派な学者」にはなれなかったが、自分らしく振る舞う「おもしろい先生」になれている自信はある。「ルーツを大切にすること」の重要性、元時習生のみなさんと久しぶりに触れ合う機会を得て、その思いをかみしめている。

(大阪大学人間科学研究科教授)



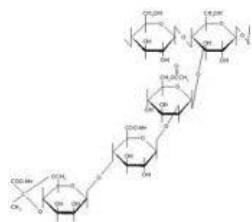
会員便り

あなたにとってルーツとは



会員だより

化学の発展の歴史（化学史）の探求と私



廣田 襄（時習7）



○物理化学者としての半生

高校時代から私は自然科学の研究者になって自由な人生を送りたいと考えており、1955年に京大理学部に入學した。京大理学部を選んだ理由の一つはノーベル賞学者の湯川、朝永両博士を生んだ伝統に対する憧れであったが、私には理論物理学をやってゆくだけの数学的能力はないと思った。専門を選ぶ際に色々迷ったが化学を選んだ。化学は物質を研究する学問の中心であり、物理学の成果を取り込んで経験のみに頼る学問から脱皮して論理的で精緻な学問になりつつあり、これまで理解できなかった複雑な化学現象が理解できるようになると考えた。大学卒業後アメリカ、セント・ルイスのワシントン大学に留学する機会に恵まれ、そこでPh.D.の学位を取得してシカゴ大学で研究員として2年間勤めた後、1965年にニューヨーク州立大学に助教授として赴任した。



ワシントン大学を過ごした

私の専門分野は化学と物理の境界領域にある「物理化学」で、とくに「磁気共鳴の化学への応用」という分野である。磁気共鳴は今医学で盛んに用いられているMRI（磁気共鳴画像法）の原理になる現象で、1946年に物理の分野で発見され、1950年代の中頃からは化学の広い分野で利用さ

れてきた。1970年代からはMRIが開発されて、医学においても非常に重要となった。私は磁気共鳴を用いて化学反応の際に生じる不安定な分子の構造や反応を中心に研究してきた。1976年に教授として勤めていたニューヨーク州立大学から京大理学部に戻り、2000年に定年で退職するまで物理化学の研究と教育に従事した。



1994年、京都賞受賞で来日の、ニューヨーク州立大で一緒だったMRIの開発者ラウターバー教授（2003年ノーベル生理学・医学賞）夫妻と一緒に都ホテルで

○現代化学史の講義

大学1年の時イギリスのJ. D. バナールが書いた『歴史における科学』という本に出合い科学史に興味を持った。しかし、その後は専門の化学の勉強と研究が忙しくなり科学史を本格的に勉強することはなかった。私が京大に在職したころには、京大理学部では化学はあまり人気がなかった。高度成長の時代には、化学はナイロンを発明した高分子化学に代表されるように、豊かな生活をもたらす身近な学問として人気があったが、その後は宇宙物理や生物学が未知のロマンに満ちた分野として注目を集め化学の人気は落ちた。さらに

公害や環境問題とも関連して化学は嫌われた。高校で化学を学んだ新入生の多くが持つ化学のイメージは、化学の先端での研究の実態から大きくずれている。新入生の多くは、物理、化学、生物は、各々が独立した学問で、お互いがどれほど密接に関連しているかを知らない。そこで新入生が自分の専門を決める前に、現代の化学の状況を正しく理解できるように、化学科では「現代化学入門」という課目を設けた。その中で私は化学がどのように発展し、現在どのような状況にあるかを伝える「現代化学史」の講義を1995年ころに試みた。学生の評判も良く、私自身も若い時に持った化学史に対する興味を蘇らせた。

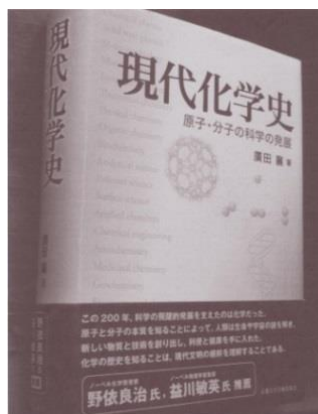
○定年退職と『現代化学史』の執筆

2000年に退職して自由な身となり、科学を楽しむの一つとして広く勉強し直したいと思った。長い間一つの専門分野の研究に携わっていると、他の分野が見えにくくなって視野が狭くなる。視野を広げるためには化学史の本を書くのが良いと考えた。たまたま親しい友人である京大学術出版会の理事長からも現代化学史の本を書いてみないかと勧められた。浅学非才の身を顧みれば、化学の広い分野の通史を一人で書くということは無謀であるが、私はこれに挑戦することに魅力を感じた。とくに現代の発展まで含めた化学史の本は世界的に見てもないので、やり甲斐のある仕事だと思った。2007年の暮れごろから数年かけて書き上げ、ようやく昨年10月に京大学術出版会から上梓することができた。

○化学とは何かー『現代化学史』

化学というのは、原子・分子に基づいて、物質の構造や変化の本質を明らかにし、新しい物質を創造する学問である。化学は古代エジプトにおける技術から起こったとされる。その後、人間の知的好奇心に発するギリシャの自然哲学と、富や不老長寿を得たいという欲望から生まれた職人の

技術が合体して錬金術が生まれた。長い錬金術の時代を経て近代化学が生まれたのは18世紀の終わり頃であった。19世紀に入ると原子や元素の概念が導入されて化学は急速に進歩した。19世紀の終わりにX線や電子が発見され、20世紀になると原子・分子の世界を記述する量子論が生まれて物理学の革命が起こった。化学はこの物理学の成果を取り込んで20世紀の前半に飛躍的な発展を遂げた。また、化学に基づく技術の発展は人間の物質的に豊かで健康な生活を可能にした。20世紀の後半には、タンパク質やDNAのような生命現象に関わる複雑な分子の構造や機能も解明された。それにより化学は20世紀後半における生命科学の大発展を可能にする科学的・技術的基礎を提供した。現在では一つ一つの原子・分子を観測して操作することも可能になり、それを基礎にナノテクノロジーが発展している。まさに化学は現代文明の礎になっているのである。このような化学の発展の歴史を、従来の物理・化学・生物の枠にとらわれずに、化学を「原子・分子の科学」と捉えて『現代化学史』=写真=を書いた。



定年後、
数年かけて書き
上げた『現代化学史』

○化学史研究者としてのスタート

こうして私は化学史研究者として新しいスタートを切った。幸いこの本は幾つかの新聞や雑誌の書評でも取り上げられ、かなりの反響があり新しい人との繋がりもできた。まだこれからやりたいことが沢山ある。残りの人生で何ができるか分からないが、趣味の雑読、山歩き、ジョギングなども楽しみながら、化学史を含めた科学史の研究と勉強を続けたいと思っている。

会員だより



「男の居場所」の会マーク

「男の居場所」の会に参加して

大塚 尚武（時習 13）



私は大学卒業後、京都市役所に2年、京都府庁に33年間勤務し、退職後は京都府の関連団体に3カ所8年間、合計43年の長きにわたり勤務しました。3年前に完全に退職し全くの自由人となりました。さてこれからどうして余生を送ろうかと思っていたところ、たまたま自宅のある長岡京市の市民新聞で、市内の退職者を対象にした「男の居場所」の会という市民活動団体があることを知りました。会のネーミングに魅かれ入会させてもらいました。

この会は、図書館等で一人孤独に過ごすシニア男性の仲間づくりと社会参加の場として、10年前に創設されたものです。私はこの会が大変気に入って、現在は「男の居場所」の会のいろいろの事業に参加して、セカンドライフを楽しく元気に過ごしています。「男の居場所」の会のPRを兼ねて本会事業の概要を説明させていただきます。

○「男の居場所」の会の概略

本会の定員は50名ですが、会員は前歴を言わない、会としては政治的に中立で、行政等からの補助金はもらわない、という約束事になっています。前歴を言わなくとも日々の話の内容から私とは違う職業に勤めて来られた方だなと感じますし、新たな分野の話も聞けます。まさに異業種交流の場でもあります。本会の事業の基本は毎週木曜日に市内の市民交流センターで、10時から12時までの間、定例会が開催されます。定例会は会員が交代でテーマを出し、そのテーマに基づき出席者全員が自分の意見を3分以内で発表するもので、テーマの提供者が議長を勤めます。

最近のテーマを紹介しますと「3.11から2年を迎えて思うこと」、「昭和と聞いてどんな人を思い出しますか」、「食品ロスについて」等です。こ

の定例会がベースですが、年に4回は定例会の時間帯に講師を招き時事問題等の講演を聞きます。



異業種交流の場でもある定例会

この他、NHK京都放送局、京都地方気象台、日本銀行京都支店等の見学会も随時行っています。これらも会員が関係先と調整します。このように定例会はテーマに対する発表の場だけでなく、講演、施設見学等も実施され、お陰で私は新たな発見をし、視野を広めさせてもらっています。

○行事の数々

全体行事として、「お花見会」、「蕎麦打ち会」、「自我自賛展」、「紅葉狩り会」、「忘年会」、「新年会」があります。



楽しかった平成24年12月の忘年会

これら定例会、全体行事の他にも分科会として①「料理教室」②「英会話」③「楽飲会」④「老春切符旅行会」⑤「探鳥会」⑥「冥土のみやげ会」、⑦「パソコン出前教室」⑧「歴史散歩」等14のものがあります。



探鳥会にて…真剣な眼差しの会員

会員は自分が参加してみたい分科会を選んで自由に参加しています。これらの分科会のリーダーや講師は、料理教室以外は会員が担っています。

例えば英会話は総合商社勤務で長年外国生活を送った人が担当してくれていますし、探鳥会は日本野鳥の会の会員を長く続けている人が担当してくれます。私が入っている分科会は、③、④、⑤、⑥、⑧です。



私（筆者）も参加している歴史散歩

○少し風変わりな、特徴のある行事

これらの中に、耳慣れない行事として「楽飲会」と「老春切符旅行会」及び「冥土のみやげ会」があります。これらについて補足説明をしておきます。

「楽飲会」は、定例会の話はどうしても固くなりがちですので、毎月第1週定例会の夜、交流センターの喫茶室を借り切って自分たちで調達したつまみでビールを飲みながら歓談し、親睦を図

っています。

「老春切符旅行会」は、春休み、夏休みの期間に2,300円で1日乗り放題のJRの「青春キップ」の年寄り版です（意外に遠くまで行けるもので、長岡京市から四国の金刀比羅宮まで行ってきました。でも乗り継ぎの際、時間が少なく岡山駅で乗り遅れた人が出るというハプニングもありました）。

「冥土のみやげ会」ですが、我々の世代は現役時代、仕事一筋の人が多く、祇園遊び、能、歌舞伎、競馬等を経験したことがない人もいて、冥土のみやげに1度は行ってみたい、見てみたいという希望者がいます。一方、会員の中にこれらに精通した遊び人や趣味の持ち主がいて、彼らが企画し案内してくれます。幸い京都はこれら事業を実施する環境には恵まれています。本会の会費は月1,000円ですが、分科会等の事業は参加者の実費負担です。以上が「男の居場所」の会の概略です。

○“亭主元気で留守がいい”

事業参加のため会員はよく出歩きますが、“亭主元気で留守がいい”の心境か、気持ちよく送り出してくれる奥様方が多いようです。限られたスペースでは「男の居場所」の会について充分言い尽くせません。本会にはITにも強い人がいて、ホームページを開設しています。HPにはビジュアルな部分も沢山ありますので是非一度ご覧ください。また「男の居場所」の会に興味を持たれ、質問等がありましたら私のPCのメールアドレスまでお尋ねください。



平成25年のお花見から笑い声があちらこちら

HPアドレス：
<http://www.geocities.jp/otokonoibasho/>
 PCメールアドレス：
 ootsuka0618@aka.gmob.jp

会員だより



故郷でもらった宝物

「根気いら、無理せんどきんよ」

吉田 久善 (時習 15)



- | | |
|--|--|
| <p>1 誰が
私</p> <p>2 何を
三河弁のトーンで聞いた「根気いら・無理せんどきんよ」</p> <p>3 いつ
平成 25 年 3 月 31 日(日)正午ごろ、豊橋市のハーフマラソン大会
スタートから 2 時間が過ぎた頃</p> <p>4 どこで
豊橋市 下条から牛川の渡船場付近のマラソンコース沿道
21 キロのうち、17~18 キロ付近</p> <p>5 なんでや
既に 1 時間近く雨風に叩かれ、頭から足までびしょ濡れ、重くなったシャツを何度も絞り、道路の水たまりにつかり、足がもつれる</p> <p>6 どないして
沿道で、傘や合羽姿での声援が切れ目なし
「頑張って」「あとひといき」等の激励が殆どのなか「根気いら・無理せんどきんよ」とご婦人からのひとことにずっこけそう
少し歩いて「なにも無理することないなあ」と気づく
すると体が楽になり、我が実家の近くを通り陸上競技場のゴールへ向かう写</p> | <p>7 記録
2 時間 24 分 (昨年 2 時間 15 分)
同じ日、甥っ子は自己新記録の 1 時間 26 分</p> <p>8 時習館出身の二人のアスリート
平成 24 年 3 月のこの大会のアナウンスで「先の箱根駅伝で活躍した早稲田の山本修平選手が来場しています」と紹介

こうなるともう一人、名古屋大学の鈴木亜由子選手もと期待した
参加者全員に配布される市電キップで会場最寄りの「豊橋公園前」で降りると目の前に大きな「鈴木米穀店」の看板
これぞ亜由子選手の実家と推定</p> <p>《平成 25 年 6 月、時習かんさい総会当日の夕方、NHK テレビは全日本陸上選手権を実況中継 鈴木選手が 5000m で上位を競って 4 位、続いて男子 5000m も山本選手が決勝進出、レースの中盤ではトップに立ち 2 人が画面に映る時間の長いこと》</p> <p>9 次は
50 歳台後半、勤務していた関西空港の</p> |
|--|--|

駅伝大会に 50 歳以上の区間を走ることとなり、ダイエットを目標に（成果あり）休日に走ることが習慣化

豊橋のマラソンコースは、私にとって子供の頃からの遊び、家業（食料品販売）の手伝いにと慣れ親しんだ町や自然があり、途中で同級生や知人に出会えることから楽しみがいっぱい（しんどいが）である

ここ 10 年来の私のチャレンジとして、3月の豊橋ハーフマラソン、8月の信州方面登山、11月の六甲全山縦走があり、いずれも「そろそろ止め時か？」という気持ち（家人からも同様）があるが、24年の六甲から25年春のハーフ、夏の南アルプス北岳、秋の六甲とことごとく強い雨に見舞われ、「このままでは終われない」

平成 26 年 3 月の豊橋ハーフの案内状が秋に郵送されたのを見るとゲストランナーとして初めて増田明美さんと鈴木亜由子さんとあった

《目標》

- ① 好天のもと



平成 25 年の豊橋ハーフマラソン実家の近くで、雨の中を激走する筆者（右から 2 人目、ゼッケン E5754）

- ② 完走し、あわよくば昨年より好タイム
- ③ 鈴木選手の近くで走りハイタッチ

上記の《目標》に対する《結果》

- ① 台風並みの強い風雨
（スタート直後に豊橋市へ大雨警報発令 災害対策本部設置）
- ② 少し歩いたが昨年より 3 分短縮して 2 時間 21 分
- ③ スタート前に増田さんとの 2 ショット写真

「大阪から来た吉田、時習関西から写真を」とお願い、増田さんから「伊藤さん、奥山さんのお仲間？ どうぞ大阪へ帰ったら皆さんによろしく」と言われた

また、増田さんから「鈴木亜由子さんも呼びましょう」とおっしゃって頂いたが、そのころには鈴木選手の周りには人がいっぱい近寄れず

私がゴールの頃、ゲストランナーは表彰式参加のため「ハイタッチ」は叶わず



平成 26 年の豊橋ハーフマラソンスタート前、増田明美さんとの 2 ショット

会員だより



宇留島のルーツ

——九州だよりに代えて 豊橋時代の友にも

宇留島 美恵（時習 20）



○ 姉妹とも最西端の常連会員

私も、姉・池田和子（時習 18）も九州（福岡）生まれですが、学生時代、父の転勤で、豊橋で8年間、暮らしました。

大切な青春時代を時習館の歴史と共に学び、遊び、歩んだことを誇りに思っています。豊橋は第二のふるさとです。

その後、広島、東京を経て、故郷に戻り早くも40年近くになります。姉はフランス料理に目覚め、私はガン細胞に取り付かれ、博多の地で根付いています。神戸の熊谷信哉先輩の誘いで総会に出席するようになり、今や姉妹とも関西支部総会の常連になっています。

○ 「宇留島家」のルーツは山伏

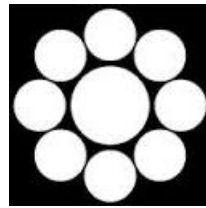
豊橋時代、「宇留島（うるしま）って珍しい姓だけど、どこの出身？」とよく聞かれました。「島津家に仕えた古い家系」と聞いていた程度で、さほど興味も持てませんでした。鹿児島島の磯公園内にある仙巖園資料館で「宇留島」の家系図を一度、見たことがあります、その時も同じような思いでした。

今年は『時習館かんさい』の年間テーマが奈良開催にちなみ「ルーツを訪ねて」と伺い、せっかくの機会なので少しだけ「宇留島」のルーツを探ってみることにしました。

鹿児島県・始良（あいら）郡隼人研究所、南さつま市大浦町教育委員会などで、多くの方たちが「宇留島家文書」「さつま山伏」等について調べておられ、「宇留島のルーツ」も知りました。

山伏といえば思いつくのはホラ貝、天狗の格好

くらい。わが宇留島家の家系の話は『時習館かんさい』には、そぐわないのではないかと正直のところ、載せることについて一時、悩み、考えました。



○ 家紋

宇留島家の家紋「九曜」= 写真= をご紹介しましょう。この紋はインドの神々が星になったものです。

空海によって伝えられ、密教の一部となった「宿曜（すくよう）経」の神々として知られており、密教占星術とも言われているようです。（詳細略）

気を取り直して私なりに調べてみると、山伏たちが極めようとしていた修験道（しゅげんどう）は、森羅万象に命や神霊が宿るとする日本古来の山岳信仰が仏教に取り入れられ、さらには密教などの要素も加わって確立した日本独特の宗教です。日本各地の霊山に分け入り、厳しい修行を行うことで超自然的な能力を得て、民衆の救済を目指す実践的な宗教でもある、とのこと。そういえば高校の日本史の授業で「役小角が奈良時代に始めたようだ」って習った気がします。

○ パワースポット「英彦山」

霊山は、現代風にいえばパワースポットなのは？ 兵庫県の雪彦（せつびこ）山、新潟県の弥彦山とともに「日本三彦山」の一つに数えられる「英彦山（ひこさん）が福岡県にあります。

奈良時代に遡る古い歴史の中で、その時代が要

請する使命を背負って「宇留島」の歴史を刻んで来た人たちがいることを思うと歴史ロマンを感じて、何かゾクゾクしてきますし、地元の歴史家たちの興味をひいた理由の一端も分かるような気がします。

○ 全国に張り巡らせたネットワーク

“宇留島”家というのは鹿児島・大浦で代々、島津家に仕えた修験者（山伏）の家系です。島津家が修験者を家老や老中として迎えたのは戦勝祈願の靈験を得るためと、彼らの持つネットワークを活用するためだったようです。

特に島津家15代・忠良のころの1538年（天文7年）、宇留島10代・東福坊綱重は山中で「山洛の秘法」と呼ばれる祈祷を行い、加世田と大浦も島津家領地となりました。この祈祷の功で、東福坊は権現宮を造立。8ヘクタールの土地と宝物を賜ったそうです。

《参考文献》

『宇留島家文書』 大浦町郷土誌編纂委員会編、大浦町教育委員会刊

『さつま山伏一山と湖の民俗と歴史』 森田清美著、かごしま文庫刊

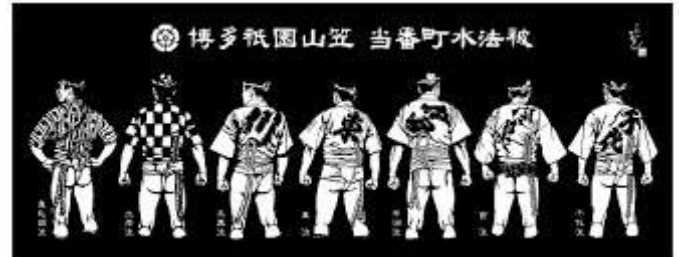
○ 現代に生きる「宇留島」

鹿児島県の大浦、加世田には最近まで宇留島神社もありましたが、後継者がなく消えました。私が嫁いだ時、夫の実家は始良郡に根付き、義理の祖父は小学校長、長男は中学校長。私が出会い、結婚した三男は福岡の高校で数学の教師でした。現代の我が宇留島一族は主に教育現場を舞台に生きていることとなります。

「宇留島」の永い歴史を聞いた夫は「ふーん、そうなんだ」とあまり興味はなさそうで、ちょっと拍子抜けでした。

○ 進化する福岡（博多）

せっかくスペースをいただきましたので、お国自慢も少しだけ。



「山笠があるけん博多たい」

私たち姉妹の住む福岡市は昨年、人口150万を突破しましたが、東京や大阪と違い中小企業、支店都市です。

九州新幹線が全線開通し、博多から鹿児島まで1時間19分と短縮されました。昨年新たに夢とロマンを乗せたクルーズトレイン「ななつ星」が九州を駆け抜けています。まだまだ進化している博多。博多といえば「山笠があるけん博多たい」というごとく、博多っ子は祭り好き、新しもの好き、そして人情味豊かであり、日本海を臨む海、山も近く、食べ物が新鮮で美味しく、かつ安いのも大きな魅力。屋台からちょっとおしゃれな店まで粋な店にも出合えるのが博多です。ぜひ遊びに来てください。

○ 「神話の里」南九州の魅力

天孫降臨神話、岩戸伝説の舞台。南九州は「神話の里」として魅力たっぷり。宮崎高千穂「真名



井の滝」、阿波岐原「みそぎ池」、天岩戸神社。

今も豊かな自然が残り、切り立つ渓谷や昂然たる山々に目を奪われます。清らかな息吹きや癒しのパワーを体感できます。

○ 「温泉王国」

九州は言わずと知れた温泉王国。豊かな泉質に恵まれており、色、香り、お湯の感触も多種多様。ゆっくり温泉に身をゆだね、地元の美味を味わえば心が温まり、元気が湧いてきます。ほっとくつろぐひと時を楽しめる九州へ、ぜひお出かけください。「くまモン」も待ってます。



ぎょうらしか…ぎょうぎょうしい
 ぐらぐらくく…絶望的に怒る
 けたくそのわるか…縁起が悪い
 げってん…偏屈者、へそまがり
 こぎにつか…憎憎しい
 さっちむっち…無理やりに
 さりむり…無理矢理
 しかしかと…ちゃんと、確かに
 しりのぬくもる…長居する
 すったり…おてあげ
 すびく…身に沁みる冷たさ
 すらごと…うそ
 せからしか…うるさい
 ちっちくれる…縮み上がる
 つかあさい…してください
 とつけむなか…法外な
 ねまる…腐る
 はがいか…じれったい
 まちっと…もうすこし

○ 博多のユニークな方言

あいた…しまった
 あがしこ…あれほど
 いが…とげ
 いっしょんたくり…まとめて一緒
 うてあう…かかわりあう
 えずか…恐ろしい
 おおじよする…困り果てる
 おらぶ…大声を出す
 かすくる…底までさらえる
 がつつりあう…物事が重なる
 ぎち…土間

関西には九州出身の方が多いいせいか、結構、聞き慣れた表現も見受けられます。(編集部)

○ ライフワークは「ガン撲滅」

私は、細胞検査士をしています。子宮がん、肺がん、膀胱がん、乳がんなど、さまざまな細胞を顕微鏡で見て、病変を発見しています。いわゆる第一発見者！ガン撲滅ポスターのスローガンは「早起きは三文の徳、早期発見は人生の徳」と掲げられています。がん細胞に人生を侵されたくないという思いも込めて、子宮頸がん受診啓発「子宮頸がんの検診を受けましょう」とLOVE49♥の旗を掲げ、街頭で呼びかけ、博多どんたく隊パレードでは、がん患者さんと共に「バッテン元気隊」の一員

私
の
一
枚
！

として練り歩いています。一文一句でも語り、伝え、動き、励まし合いながら「今でしょ！」と、自分のできることを優先して、これからも、歩んでいきたいと思っています。



会員だより

健康の源 バイクを楽しむ

岸本 由枝 (時習 23)



今朝は今シーズン一番といわれる寒波が来ているとのこと。それでも「今日は歩く時間があるぞ!」と、自宅から外に出ると道端の枯葉に下りた夜露が凍り、足もとがきらきらと光っています。山道の土は霜柱で盛り上がり、踏むとざっくざっくと散策をする私にあいさつをしてくれているようです。

つい先日まで、六甲縦走を楽しむ大勢のハイカーたちが行き交っていた山道ですが、今日は寒波のせいか新年のせいかハイカーも疎ら。私の吐く息と靴の音が静かな山に伝わります。

神戸・三宮から市営地下鉄に乗って 15 分、六甲山系の山々が連なる須磨アルプスの麓に住んで 35 年。山とのお付き合いは忙しい毎日の生活にも密着していました。子育てのころ、ベビーキャリアに子供を背負い歩いた山道を、30 余年たった今も変わらず時間を見つけ歩いています。



六甲縦走路東山山頂から須磨アルプス「馬の背」を望む。正面は横尾山頂

写真は、我が家のちょうど南側に位置する東山から横尾山を望む「馬の背」と言われる須磨アルプスの尾根(今、私は東山頂上にいます)です。標高は310メートル余りほどですが、風化が激し

く危険な箇所もあります。還暦を迎えた私は、最近、一人で馬の背に登るのはちょっと自粛しています。



東山より、六甲縦走路をはずれ東南側への山道。眼下に神戸市街東部を望む

今日はこの後、東山を南側の市街地側(板宿方面)に下り勝福寺へと足を進めました。そこは、平清盛が大輪田の泊の拡張工事を行った際、多大な協力を惜しみなく行ったとして有名なお寺です。

「歩く」を基本として、私の健康法。そして、気が向けば愛車のバイクにまたがり、六甲山系を走り回ると気分の爽快です。これが私の健康のルーツ、生活の源になっています。



菅原道真が太宰府へ左遷される道々、この地に立ち寄った際、「板」で「宿」を建て、お泊りいただいたとして知られる街「板宿」方面への道標。その途中に勝福寺への分かれ道がある

会員だより



3月25日
電気記念日

水力発電所の始まりを訪ねる

伊与田 功 (時習 23)



○今も活躍する蹴上発電所

昨年時習館の関西支部大会が開催された京都の都ホテルから、岡崎公園に向かう仁王門道の左側の崖下に、レンガ造りの古い建物があります。これは日本最初の水力発電所である蹴上発電所で、現在の電力システムのルーツです。しかも、関西電力の現役の発電所として、最近重要視されている再生可能エネルギーである水力による電気を日々作り出しています。



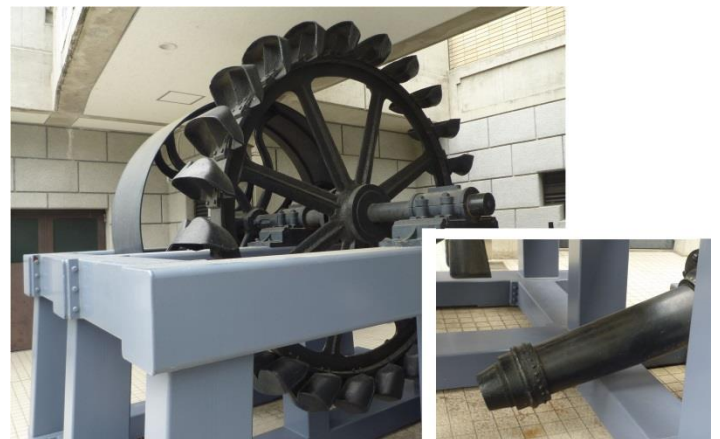
蹴上発電所の正面

100年以上、人々の暮らしを支えている電力ですが、その特性は知られておりません。そのため、東日本大震災で計画停電をした時には大変混乱しました。ここでは、電気に関係のある話などを紹介させて頂きたいと思います。理系の悪いくせで、どうしても数字が出ますが、そのところは飛ばして読んで頂ければ結構です。

○蹴上発電所における発電の仕組み

ルーツを訪ねてということですので、まずは冒頭の蹴上発電所について紹介します。これは、有名な琵琶湖疎水の水を利用した発電所で明治 24

年(1891年)に完成しました。先ほどの仁王門道をさらに進み南禅寺前の交差点を過ぎたところに、琵琶湖疎水記念館があり、そこに当時の水車があります。ペルトン水車といって、消防で使うようなノズルから水を勢いよく噴出し、それを水車のおわんに当てて回していました。(いまは違う方式の水車です)



ペルトン水車とノズル

○二種類の交流はどこから

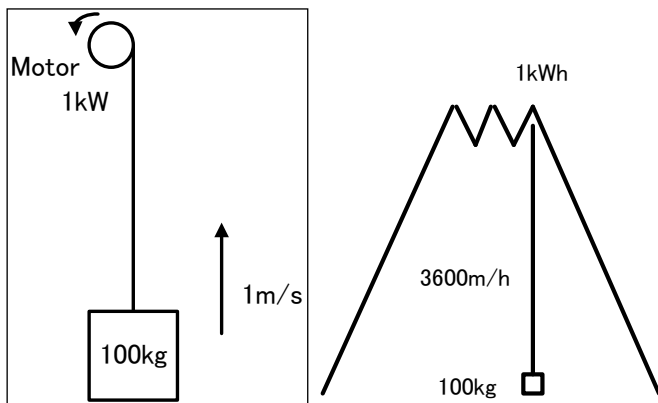
もうひとつ、震災の時に、中部以西は 60Hz の交流で、関東からの東日本は 50Hz の交流であったため、関西から東京へ電力を送ろうとしたができなかったことを覚えている人もいます。それでは、なぜ、周波数が異なってしまったのでしょうか？

天才的な起業家であったエディソン(Thomas Alva Edison 1847-1931)が、中央発電所で電力を集中して発電し、送電線で複数の需要家に設置した電灯と結んで照明を提供するシステムを構築し、ニューヨークで白熱電球による電灯事業を始めたのは、1882年ですが、わずかその5年後には、日本でも東京で火力発電による電灯事業が始

まっています。しかし、完全な自由競争に任せて、将来を考えた計画的な導入ができず、東京の電灯会社は、ドイツから 50Hz の発電機を、大阪の電灯会社は米国から 60Hz の発電機を導入し、それぞれ発展したために、一つの国に 2 つの周波数の地域があるという禍根を残すことになってしまいました。

○電気とは何ぞや

電気は、空気と水に続いて私たちの生活になくしてはならないものです。それでは、電気ストーブ、エアコン、電子レンジの消費電力は 1kW ですが、1kW とはどんな力があるかわかりますか？理論上の概算ですが、1kW のモータで 100kg の人を 1 秒間に 1 m 持ち上げることができ、1 時間で大体富士山の頂上まで持ち上げることができるのです。(富士山エレベータ)

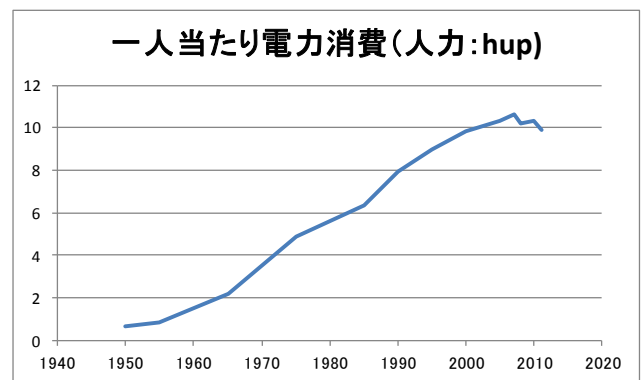


電気をわかりやすい力にたとえると

人間が自転車のペダルを漕いで発電する装置がありますが、そのような装置で大人が発電できる電力は多くて 100W とされています。1kW (=1000W) とは 10 人が一斉に発電して得られる電力です。10 人が 1 時間ペダルを漕ぎ続けると 1 人を富士山に登らせることができます。時給 1,000 円として料金 10,000 円です。それでは 10 人を雇わずに電力会社から 1kW の電気を買い、1 時間使ったらいくらになるのでしょうか？大体 25 円程度です。そう考えると安いです。

○人間にとって必要なエネルギーは

もうひとつデータを紹介します。平成 24 年の日本の消費電力量を、日本の人口で割ってひとり当たりの消費電力量に換算すると、ひとりあたり、1 日 24 時間、1 年 365 日、およそ 1 kW を使い続けている計算になります。人間ひとりで 100W 発電できますので、10 人分の労力を使っていることになります。そこで、この何人分かという単位で、日本の電力消費の推移を見ますと下図のようになります。



日本の電気量の推移 (100W=1 人力として換算)

ひとりで 10 人を使っているので、江戸時代のように自分で洗濯しなくてもよいし、井戸で水汲みをしなくても、また、遠くまで歩いて旅をしなくてもよいのです。あまり自覚はないでしょうが、昔の王侯貴族の生活をしていることになります。『時習かんさい』の読者は 60 歳程度以上の人が多いと思いますが、その人たちが時習館の生徒であった 1960 年代後半から 70 年代の初めの使用電力は 3~4 人分ぐらいでした。現時点では原子力は必要ですが、4 人分であれば原子力に頼らなくてもやっていけるかもしれません。現在は非常に便利ですが、人間の足腰はかえって弱くなっています。また、コンピュータによって、考えることも弱くなりつつあります。昔の不便な生活に戻る必要はありませんが、どの程度のエネルギー消費が人間にとって好ましいのか、よく考える必要があるように思います。

(大阪電気通信大学工学部電気電子工学科教授)

会員だより



うな井に乗った梅

うなぎとわが人生
 ~梅干と相性が良いこと知っていますか~



真木 伸治 (時習 29)



和歌山の有田に住み始めて早 30 年近くになりました。2 年前の六甲山ホテルでの総会に初めて参加させていただき、関西でも諸先輩方々が色々交流されていることを知り嬉しく誇らしく思いました。事務局長である伊藤忠男様から「ルーツを訪ねて」というお題を頂き私の仕事である「うなぎ」についてお話させていただきます。

○なぜ「うなぎの加工業」を和歌山の有田で

実は私の実家は「うなぎの卸問屋」を営んでいます。現在は 4 代目になる私の兄が継いでいます。豊橋は隣の浜名湖周辺と同様、日本で一番古くからうなぎの養殖業が盛んに行われた処です。家業は養殖されたうなぎを選別して全国の市場、加工業者、末端のどんぶり屋まで配送する仕事をしています。幼少のころからうなぎに慣れ親しんできた私は、亡き父の影響もあって「うなぎの加工」に興味を持ちました。神戸の水産会社で 2 年間修業の後、家業の取引先でもある和歌山の「しいば水産」に就職しました。それが始まりです。



お「しいば水産」にけるタレ付け

味づくりは、創業以来『昔ながら』の焼き方と味付けにこだわり続けています

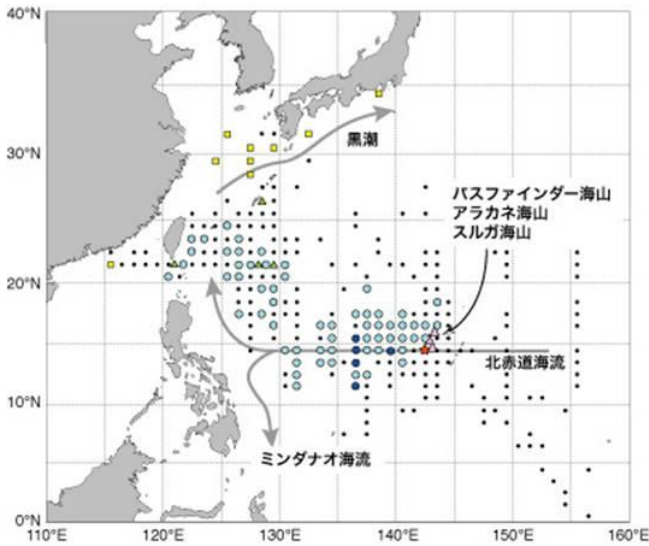


○美味しい国産うなぎ蒲焼への追求

就職した 30 年以上前はスーパー、量販店ではうなぎ蒲焼はあまり陳列されてなく高価な物でした。その後、台湾・中国産の安価な蒲焼が出回り、日本のうなぎの消費量は 10 万トンを超えるまでになりました。しかし中国産から抗生物質等の薬品問題が発生し国産の安全な蒲焼が見直されるようになりました。昔から「串打ち 3 年、裂き 8 年、焼き一生」と言われていますが、未だに「焼き」は完璧にはいきません。繁忙期には毎日 1.5 トン~2 トン(うなぎ 6000~8000 匹)のうなぎを加工しています。生産者、養殖期間、餌によっても違ううなぎをロットごとに蒲焼ラインで焼き上げなければならないので一定の焼き色、味を出すため(たとえば、脂の乗ったうなぎは焼き過ぎないようにガス圧を下げるとか、肉質の硬いうなぎは蒸しを強くしたりとかなど)毎日が試行錯誤の連続です。食の安全性が問われる昨今、人間が口にする食品を扱うメーカーとしてトレース、表示をクリアにして、なおかつ会社存続のため美味しい安全なしかも売れる商品を作り出すことが私の使命だと考えています。

○謎の多いうなぎの生態

日本で生息するうなぎはどこで産卵しているのか?それは長年の謎でした。1991 年今から 23 年前にようやく東大海洋研究所の白鳳丸による調査航海で全長 10mm 程のうなぎの幼生(レプトケファルス)が採集され、うなぎの産卵場所がグアム島近くのマリアナ諸島西方海域の深海であることが分かりました。



二ホンウナギ仔稚魚の分布

●はレプトセファルス、▲は変態期仔魚、■はシラスウナギの採集測点をそれぞれ示す。
 ●は全長10mm以下の小型のレプトセファルスが採集された測点を示す。●は採集努力を払ったにも関わらず、二ホンウナギの仔稚魚が採集されなかった測点を示す。★はプレプトセファルスの採集測点。

また卵の発見に至ってはつい最近 2009 年と僅か 5 年前のことです。これまで庶民に親しまれてきたうなぎですが、30 年以上職業として携わっている私でも知らないことが多く驚くことばかりです。ここで生まれたうなぎは約半年間かけて黒潮海流に乗り 3000km の旅をして日本にやってきます。スタミナ抜群、夏バテ防止と言われるのもこの習性によるのかも知れませんね。

○うなぎの栄養価と食べ合わせ？

ちょっと、話を変えますが、うなぎの栄養効果を宣伝させていただきます。栄養価を見てみると、ビタミン B1、ビタミン A1 にビタミン E が他の食品と比較し非常に豊富。その上、今はやりの DHA、EPA も多く、食欲増進だけでなく、若返り、成人病予防や脳細胞活性化などにも効果が高いようです。

食べ合わせとして言われている「ウナギと梅干」には全く根拠なく、うなぎの油を分解、消化するのに、むしろ梅干は良く、食欲が進みます。

うな丼に梅干を載せた料理も和歌山にはあります。因みに梅は和歌山の特産品なんです。

こんなうなぎ、昨年、絶滅危惧種の仲間入りをしました。けれど、日本の伝統的な食文化である

うなぎ、栄養価の高いうなぎを稚魚豊漁の今年こそ乱獲を防止し、自然保護を業界全体で考えて行きながらも、安値で美味しく皆さんに食べていただけるよう努力したいと思います。

○蒲焼が出来上がるまでの工程

写真で蒲焼ラインを見ていただきます。



各養殖産地から仕入れた活うなぎを約 48 時間きれいな水で流水して、泥臭さなど残らないように何度もチェックします

熟練した職人が 1 匹、1 匹丁寧に活うなぎを割っています



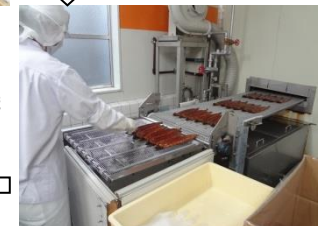
割いたうなぎを洗浄して白焼きラインに並べ強火で両面をしっかりと焼き込みます（これが一番重要な作業）

うなぎを並べ替えて蒸しラインに通します（余計な油分を落としてさっぱりとした味に仕上げます）



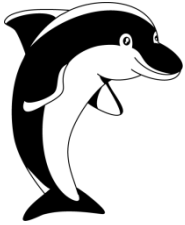
最後に焼き込み、タレを 2 回、仕上げタレを 1 回、つけ焼きを繰り返し蒲焼の出来上がりです

仕上げたアツアツのうなぎを -40℃ の急速冷凍機で一気に冷凍します



凍結された蒲焼に異物などが混入していないか、金属探知機で調べ、自動選別機で選別、サイズ分けして段ボールなどに梱包し商品出来上がりです

会員だより



林正道さんと J32 のなかまたち

馬場 奈都子 (時習 32)



みなさんは自称海洋楽者「林正道」(無職、フリーター)をご存じですか?写真のロボットから、「情熱大陸」やビートたけしさん、所ジョージさんの司会のTV番組などご覧になったことを思い出して下さった方もおられるかと思えます。



水中生物ロボット、ペットボトルやウェットスーツの切れ端、車などの廃材から林君が自作

ペットボトルやウェットスーツの切れ端、車などの廃材を使った自作の水中生物ロボットと一緒に、全国各地の学校や病棟、イベント会場を巡り、海の楽しさを伝える活動をしている時習 32 回生です。

今回、『時習館かんさい』に投稿の機会を頂きましたので、関西で林くんの活動が広がることを願って、私の職場、奈良市立登美ヶ丘小学校に彼を招いての出前授業「海洋楽教室」の様子を紹介させていただきます。

○林くんとのお会い

J32 生は、本校での卒業後 25 周年のお役目、総合同窓会の開催前後より、時あるごとに集まり結束を深めています。そのホームページ上で早い

時期より J32CAPTAIN 佐藤幸隆くんから林くんの活動は紹介されていましたが、私には名前を聞いてもさっぱり、顔も浮かばない存在でした。それもそのはず、高校当時、彼は学校をさぼっては伊古部の海に通いつめ、イルカやスナメリとたわむれる。ウミガメの産卵に見とれては遅刻して、佐羽尾先生から土饅頭のところで、お説教を頂くという毎日であったそうですから。

初顔合わせは去年の 10 月 27 日、時習館創立 120 周年記念フォーラム。2 年 3 組の教室で行われた特別授業「海洋楽教室」の先生と生徒としてでした。海への深い知識と自身の体験をもとに、熱く楽しく、ときに涙ぐみながら語ってくれました。

後半は場所も気分も一転して購買部、渡り廊下前へ移動。大型ビニールプールで、見た目も動きも本物そっくりなロボットたちを楽しいトークと一緒に披露目してくれました。秋のさわやかな陽を浴びてキラキラ輝く水に、イルカやエイ、ネッシーたちが水しぶきをあげて得意気に泳ぎ回ります。気がつけば、CAP 佐藤くんの「おじさん、おばさんで林の教室を溢れ返そう」という呼びかけに集まった J32 の仲間たち約 20 人の倍以上を超える先輩後輩、PTA の方々の笑顔と歓声がプールの周りを取り囲んでいました。老若男女、林くんの魚たちにふれて笑顔にならない人はいないのです。

○海のない奈良へ

気持ちは高校生に戻り、林くんのトークとロボットに夢中になっていた私ですが、我に返れば 25 名の 5 年生の担任。子どもたちに林くんという

「人」とロボットたちを会わせたいと強く思いました。そして時習館の講堂で行われた交流会にて、ほぼ初対面の私からの「海のない奈良の子どもたちのために私の小学校に来てください」なんてまるで思いつきを口にしたような発案に林くんは即答でOKしてくれたのでした。そしてその場で J32 メンバーの南條明徳くんが、「海洋楽教室」 in 奈良のスタッフ兼ドライバーに選出されたのでした。南條くんは豊川市民病院の臨床検査技師長、学校でいえば校長職。そんな重役クラスをボランティアに借り出し、心強いスタートを切りました。

話は戻りますが、私は時習館卒業後、教師になりたいけど「大学は県外に」と兄（時習 29 回生、同志社大卒）のあとを追うように奈良教育大へ進学。高3の夏に日本史担当の大林淳史先生が連れて行って下さった奈良歴史めぐりで「奈良の史跡の近くで暮らしたい」と思ったからです。

大学卒業後、一年間は蒲郡の実家に戻りましたが、その後は奈良市内の小学校で3人の子どもの産休育休期間も含めて 29 年間、教師の仕事をしています。現在は奈良市西部の登美ヶ丘小学校で5年生 25 名を担当しています。学年全体でも3クラス 74 名、イベント大好き、明るく元気な子どもたちです。

○「海洋楽教室」 in 奈良



南條号で一路奈良へ

新年、新学期早々の1月10日。冬の奈良来訪のためにスタッドレスに履き替えた南條号は新名神高速道路の甲賀を通過中に何度かスリップ

しながらも、予定通り、無事に小学校に到着。



海洋楽教室開校直前

まずは4時間目、特別支援学級 10 名の子どもたちと、その保護者たちが大プールの周りに集まりました。最初は「声が大きくて、寒いのに半袖短パン、ゴムぞうりのへんなおじさんだな」と遠巻きにみていた子どもたちですが、トップバッターのオオサンショウウオのサンタローが泳ぎ始めたころには可愛い歓声をあげていました。



プールの前で歓声を挙げる子どもたち

車椅子から乗り出してプールにしがみつき、魚を追いかけて飛び込みそうな勢いの子、掴み取りして得意げなポーズの子、逆に本物とそっくりな動きに怯えて教師の背中越しにこわごわ覗いている子…と反応はさまざまです。楽しい時間はあっという間に過ぎ、記念撮影をして終了。でも楽しく過ごせた背景には、事前に林くんからアドバイスがありました。「プールは冬だから室内に。手が冷たいと触りたくなくなるからね」「車椅子から手が届くように、水はギリギリまでいれてよ」等々。優しさがあふれる配慮です。

給食は子どもたちと、林くんの申し出で、私の

クラス5年1組で。でもすぐに、食事時間は質問タイムに替わりました。「ジンベイザメの斑点はいくつ?」「ウニはどの部分を食べているの?」さすが我がクラス、いい質問!しかし、担任が箸をとりに行くと不在の隙に「先生と林さんは同級生なんですよ。年齢は?」「先生は23歳。僕は1961年生まれ」と答えたそうです。それ以来、担任は労わらなくてはならないお歳と悟ったのか、クラスでは私の年齢の話題が消えました。

5時間目、いよいよメインイベント、5年生への出前授業が始まりました。大阪朝日放送のカメラをかかえたディレクターも来ています。前日、徹夜して編集したというVTRを電子黒板に映しながら、海の楽しさ、大切さを語ります。自身が大病をして片肺を切除、海に潜れなくなったときの落胆。でも宮古島で一緒に海辺のゴミを拾った子どもが林くんの作った海洋生物の模型を見て言った言葉「これ、動いたらいいのに」をきっかけに、試行錯誤を繰り返し、ロボットを作り始めたこと。ロボットたちと一緒に全国の学校、病院、イベント会場、そして被災地を巡り笑顔に会うことが生きる喜び。でも、ロボットは海の楽しさを知らせる道具だということ。そして決め台詞「ほんとうの海は、100万倍楽しいぞ!」を繰り返していました。ふだんは賑やかな5年生が、神妙に、ときには笑顔で静かに聞き入っていました。



電子黒板で説明する林くん、こどもたちは熱心に耳を傾けていた

6時間目は大プールの周りに移動。前日にクラスの子どもたちが歓迎のポスターを描きました。

そこに「海のない奈良へようこそ」と書きいれると、子どもから「なんかイヤやなあ、自虐ネタみたい」の声。まるでその声が聞こえたかのように「奈良は海がない県ではありません。海の始まりの地です」海の始まりは川、きれいな水にしか住めないオオサンショウウオが吉野川で発見された話から始まりました。で、サンタローの登場です。その後、次々に繰り出すロボットたちを観て、触って、ユーモアたっぷり、豊富な知識を交えての話を聞いて、みんな、ずっと笑顔です。時間をつくって駆けつけてくれた職員たちも子どもたちの輪の後ろから微笑んでいます。

ほんとうに幸せな時間でした。おとなも子どもも、そして笑顔に囲まれた林くんにとっても…。



給食時の質問タイム

その晩、新大宮駅前の居酒屋での打ち上げには、豊橋から我がJ32CAP佐藤くん、関西支部からは堺に単身赴任中の倉田正也くんが駆けつけてくれました。翌日土曜日には、特別ガイド兼ドライバーを私が担当してプチ観光ツアー。3年前のJ32 in 奈良で行き残した法華寺と秋篠寺を案内しました=写真。



ランチは奈良で一番歴史の古い植村牧場で。もちろん、デザートは搾りたて牛乳を使ったソフトクリームを牛舎の前でいただきました。高校在学中には全く接点がなかった5人なのに、行く先ぎで当時の思い出や今の仕事の愚痴、J32メンバーの近況、錆びついてきた身体のことだって面白おかしく…いつまでも話は尽きませんでした。



牛舎の前でアイスクリーム。口の周りを白くする南條くん、林くんと佐藤くん

後日、林くんから子ども74名分と3クラス分のサインが送られてきました。同封してくれた手紙には「楽しすぎる時間をありがとう」とありました。



林くんから子どもたちに送られたサイン入り色紙

私こそ、「嬉しすぎる時間をありがとう」。子どもたちは林くんと出会い、私を感じたことと同様に自分と違う価値観を持ち、精一杯生きている人がいることに気づいてくれました。大プールの設営や片づけを手伝ってくれた同僚たち、交通費を捻出してくれた管理職、活動費をカンパしてくれたJ32メンバーたち、いろいろな人の応援支援のお

かげで、みんなの楽しさが何倍にも広がりました。ほんとうに楽しい嬉しい時間を過ごさせてもらいました。この時間が私にとって、本当の幸せのルーツになるのかも知れません。



林くんありがとう。南條くんありがとう

○今後の林くんの活動予定

実はすでに引退宣言をして、学校での授業は1年ぶりだったそうです。これからはイベントや学校めぐりはトヨタ車体や台湾のお弟子さんに委ねて、本人は病棟を中心に海に行きたくても行けない子どもたちに海の楽しさを伝える活動に専念するそうです。さっそく1月20日からは台湾のお弟子さんたちと中国へ。軌道に乗るのを見届けたら帰国。少し暖かくなったら、北海道に渡り南進。東北地方で病院病棟を巡る車での旅をするんだ、と語っていました。

林くんの活動から、泳ぐ車椅子づくりや昨年末のホノルルマラソンを島ぞうりで完走の話なども紹介したかったのですが誌面が足りなくなりました。よかったら、林くんのブログをご覧ください。

これからも彼の活動に注目していただき、応援していただけたら幸いです。

どうぞ、よろしく願いいたします。

会員だより



苗字と僕のお付き合い

丹 慶太 (時習 35)



○「丹」姓は僕のアイデンティティ

生まれてから死ぬまで変わらないものがいくつかある。苗字もそのひとつ。

日本の苗字は 29 万種以上もあると言われているが、この多様性は日本の特長のひとつだろう。仕事で韓国に行くと、会議にも飲み屋にもキムさんがいる。パクさんやリィさんにもよく会うが、苗字の数では日本の方が上だろう。

僕の苗字は少し珍しい。丹「タン」という。丹頂鶴のように「赤い」、または丹精のような「真心」の意味がある。苗字が珍しいので、ニックネームになっている。生まれてからずっと「タン」と呼ばれ、言霊のシャワーによって「丹」は僕こころの奥底でアイデンティティになっていった。こころの拠りどころでもある。妹は結婚して苗字を変えたのだが、違和感があるに違いない。

○珍しい苗字の宿命

「タンです」と自己紹介すると、何ていったん？ どういう字？ との疑問符満載の顔で迎えられることがよくある。仁丹や丹波哲郎、おはぎの丹波屋など「丹」関連語録を連呼して説明することになっている。苦勞の甲斐もあって、その後、間違えられる事はない。

大学時代には、アジアっぽい顔も手伝って、理科の先生に台湾の留学生と間違われた。「君の日本語は上手いねえ！」と言われてムッとしたが、満面の笑顔で「ありがとうございます！」と訛って応え、日台友好に一役買った。

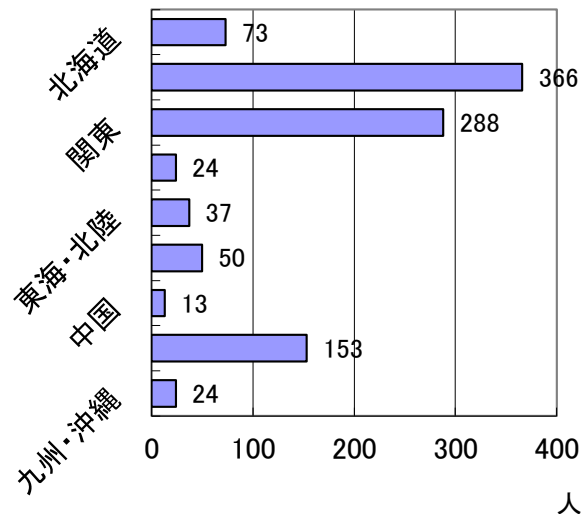
また「丹」と書こうとして「円」や「舟」と間違

われることもよくある。棒が少なかったり、多かったりするのだ。こうした言葉の名刺交換は少数苗字の宿命で「田中さん」には必要ないだろう。

○東北、関東、四国に多い「丹さん」

残念なことに仕事でもプライベートでも丹さんと出会ったことがない。ネットでみると全国には 7 千人もいるらしい。思ったより多い。電話帳によると、僕の生活圏の近畿、出身地の東海は「丹」過疎地域のような。確率の低い地域で暮らしていたのでチャンスが少なかったようだ。全国で 1,028 件と前述の 7 千人より少ないのは対象が世帯主だけで、そもそも電話帳に載せてない人が多いのだろう。うちもそうだ。

2013 年電話帳より



県別に見ると秋田 (115 軒)、山形 (202 軒)、茨城 (118 軒)、愛媛 (149 軒) に密集している。苗

字の始まりが土地や仕事の名から取ったのだから当然の結果なのかもしれない。

○「丹」は南米から渡来？

父方の曾祖父は愛媛県西条市の出身で、「丹」密集地のひとつだ。西条市には75軒あるが、祖父の代で東京に移住している。更なる祖先はどこから来たのか？文献によると、いくつかの説がある。

まず、丹は丹治（タンジ）または丹比（タジヒ）の略称で、丹比は多治比とも書き、蝮（マムシ）のことで再生を意味する。

説その1. 多治比サンは仁徳天皇（5世紀はじめ）が皇子養育のために設けた丹治比部（タジヒベ）を率いた河内国の豪族で、食料の備蓄や警護を行なう宮内庁のような仕事を任されていた。藤原氏の隆盛によって勢力を失ったが、現在でも南河内郡美原町多治井には祖神を祀った丹比神社がある。これは仕事から取った苗字説である。

説その2. 「丹さん」は宣化天皇（6世紀半ば）の末裔で、鎌倉幕府を支えた武蔵七党のひとつで「丹」党と名乗った武士団で、その後代を重ねるうちに表舞台から消えた。いきなり「丹」の名前が出てきた理由は分からない。



説その3. これは推測であるが、土地の名前から取った祖先が必ずいる。実は京都の亀岡に丹山酒造という酒蔵を見学したときの事だ。名前の由来を聞くと目の前にそびえる山から銅が取れるらしく、銅の赤色に因んで丹山と呼ばれている。丹山酒造のように「丹」を名乗った村人がいたはずだ。「丹」密集県も鉱山と深いつながりがある。

秋田には松岡鉱山、山形には永松銅山、茨城には赤沢銅山、愛媛には市之川鉱山があり、丹のつく山や土地があつたに違いない。

だが、もっと遠い祖先は南米から渡来してきたと確信している（南米の人たちの祖先は、モンゴルから北米大陸を経て彼の地にたどり着いた—という歴史的事実はもちろん知っているが…）。世界遺産のマチュ・ピチュを訪れたときのこと。帰り際に全景を見渡すと、涙が止まらなくなった。哀しくもないのに号泣したのは人生でこのときだけである。ここアンデス山麓で栄えたインカ文明と僕の間には強く謎めいたつながりがあるのだ。いつか帰らなくっちゃ。

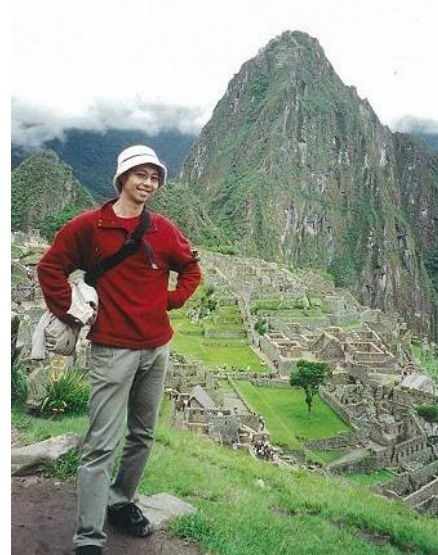
<引用文献>

- ・丹羽基二『姓氏家系字大辞典』新人物往来社
- ・森岡浩『日本名字家系大辞典』東京堂出版
- ・坂本太郎『日本古代氏族人名事典』吉川弘文館
- ・国史大辞典編集編『国史大辞典』吉川弘文館
- ・下中弘編『日本史大辞典』平凡社

& Special thanks to Hideo Daniel Tan

○「丹さん」サミットをやろう！

丹密集地帯を旅して、丹さんを訪ねて懇親会をしたいと考えている。今までの苦労や体験談などを語り合ってみたい。皆さんも同じ苗字の方との不思議な体験を味わってみてはいかが？



「僕のルーツはここ」と固く信じている南米のマチュ・ピチュで

会員だより



私の建築バカの道

～良い暮らしを創造する夢～

吉田 知未 (時習 50)



生まれは東京の多摩市。難産で2回ほど心肺が停止。生への執着心が強かったのか無事にこの世へ。気の向くままに、好きな事をして来ましたが、お陰で自分の道を希望通りに進んでいるようです。

○子どものころ、宮大工にあこがれる

小さい時から好きな教科が工作、嫌いなのが国語でした。そのため、多くの女の子が文学少女を目指すのに、私は宮大工に憧れていました。しかし、女性にはなれない職業と聞かされ、建築関係に切り替えました。現在、積水ハウスの研究所で、より良い暮らしを創造し、シーズを作り出す仕事に就いています。私の作品に「音楽演奏やシアターを楽しめる空間」「外のデッキと室内のフローリングがフラットでつながる窓」などがあります。この仕事、アイデア創出は大変苦勞しますが、課題を突破するアイデアが閃いたりしたときは思わず「万歳！」と叫んだりします。大変ながらも楽しく仕事をしております。

○時習館時代の友は私の財産


時習館に入学し校庭に足を踏み入れた時、並木道がドラマの世界みたいでワクワクしたことを覚えています。いざ、勉強となると、中学時代と違い、周囲の学力にタジタジ「これは大変」と気を引き締めたことが思い出されます。ただ、時習館時代の友は今でも大の仲良し、私の財産です。

○仏閣、城や橋を一緒に観に行きましょう

最近2回ほど同窓会の行事に参加しました。人生の先輩方のお話は大変楽しく、今後の人生で大変参考になりそうだと感じました。私の新たな財産になりそうです。

私は仏閣を見学したり、城を見に行ったり、橋を見たりすることに興味を持っています。素敵な情報をお持ちの方がいらしたら教えてください。


今後ともよろしく願いいたします。なお下記に、私の勤めている積水ハウスの「住ムフムラボ」をご紹介します。ぜひ一度、遊びに来てください。




「これからの住まい方」のアイデアが満載、気軽に楽しめる体験型ラボ
生きるコトを、住むコトに。

SUMUFUMULAB


[住ムフムラボ]





グランフロント大阪
(北館)
ナレッジキャピタル
4階

2000冊の本や雑誌が読み放題！
ワークショップやイベントを多数開催！



住ムフムラボは、これからの暮らしや住まいのヒントが発見できる場所です。暮らしを表現した3つの空間を体験したり、お茶を飲みながら読書したり、時には研究ワークショップやモノ作りイベントに参加したり、と他では無い楽しさが得られます。私も研究員として時々在勤しており、ワークショップやアンケートを通して得た情報から、より豊かなくらしを創造することを研究しています。いっしょに考えてみませんか？

施設やイベントの詳細はインターネットで「スムフムラボ」を検索してください。皆さまのお越しをお待ちしています。

特別投稿



特別投稿



関東における時 13 回生の集まり ～その起源～



来住 賢一（時習 13）

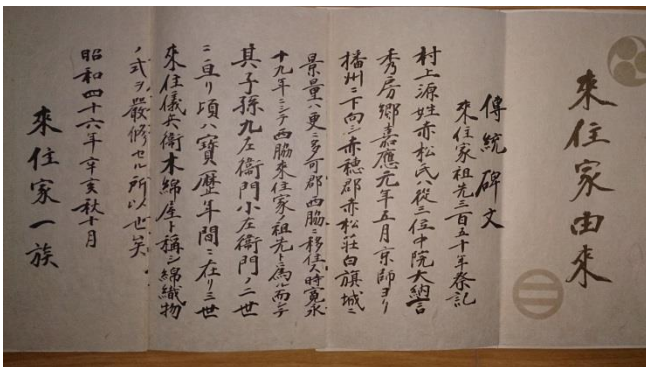


吾が同期の伊藤忠男関西支部事務局長から、テーマをいただいたので、関東在住時 13 回生の集まり（以降、“集まり”と略す）の起源などを紹介したいと思っているが、なぜか、皆さんから、「来住」さん何と読むの、とよく問われる。

そこで、要請もある、まずはその由来から書くことにしたい。筆者のこの姓《来住（キシ）》の起源は、兵庫県は西脇であるので、『時習館かんさい』に投稿する運命にあったのかも…。

○来住姓の由来

兵庫県西脇市の来住家菩提寺の観音寺には、当家の広大な墓地があり、その入り口には、かなり大きな来住家伝統碑がある。これは来住家祖先 300 年祭を祈念して、1928 年に建立された。また、昭和 46 年に、来住家祖先 350 年祭が執り行われたが、その折に、その碑文を墨書したものが、一族に渡された。



来住伝統碑の碑文を墨書きした書状

筆者のところにもそれがああり、大略次のように記されている（同じ封筒の中には、来住家 63 家の

当主が寄付した 220 万円の芳名録がある。伝統碑の修復に用いたような）。

書は長いので、適当に折り曲げて撮った写真を添付する。

この頭書のとおり、村上源氏（第 62 代村上天皇の皇子を祖とする賜姓皇族のひとつ）が我が家のご先祖様にあたる。大納言季房が嘉応元年に播州赤穂赤松荘に下向し、とあるので 1169 年ごろから、あの辺りをウロウロしていたことになる。その後子孫が赤松村の地頭になり、赤松姓を名乗るようになった、とのことである。

ウィキペディアによると「赤松氏は、日本の氏族の一つ。鎌倉時代末期から安土桃山時代にかけて播磨を支配した武家である。鎌倉幕府の打倒、室町幕府の創設に寄与し、守護大名の一つとして勢威を振るった。後に嘉吉の乱（8代赤松満祐が6代將軍足利義教を暗殺）を起こし、応仁の乱にも深く関わるなど戦国時代の到来の一因を作った」とある。

さらに碑を読み進むと、13 代景俊の子供景治と景量が加東郡の来住というところに住み始めて来住に改姓した。さらに、寛永 19 年（1642 年）に、景量が多可郡西脇に移住し、現在の来住家の祖先となった。以降、綿布、播州織などで繁栄した、とある。

来住は確かに珍しいが、筆者の妻の旧姓は、明庭（アケニワ）でもっと珍しい。

これは別の機会に譲るとして、本題に入ろう。

○時 13 回生の集まりは平成 16 年からか

同期のだれに尋ねても、結局ははっきりしなかつ

だが、卒業30周年か35周年の記念旅行を、東京組が企画することになった。その実行委員会は、同期生が勤務する会社の会議室を使用させてもらい、そのうえ、コピーはもちろん、そのビルにある喫茶店からのコーヒーなどいろいろと便宜を図ってもらった。会議後は、近くの飲み屋での反省会が常となり、やがて会議と反省会のどちらが目的かわからなくなったのであるが、この反省会が全ての始まりであった。

このメンバーが幹事役となり、一年先輩が経営する家庭的なスナックを手始めに、アチコチでいろんな理由をつけての飲み会だけではなく、伊豆への一泊旅行、牛久シャトーへの遠足など、毎年のように同期会を開催した。

とある飲み会での「鎌倉に美味しいソバ屋があるので、鶴岡八幡宮に初詣に行こう」という提案で始まったのが“集まり”の新バージョンで、平成16年の初詣である。



2004年1月の最初の初詣。鎌倉の鶴岡八幡宮

このとき飲んだのは、蕎麦を肴にして、少しのビールだけで、それだけでは飲み足らなかったのか、「初詣だけではもったいないので、新年会も一緒にやろう」という発案があり、現在の一体型に進化した。平成19年の初詣からである。

この年のは盛り沢山で、豊橋市制百周年記念の映画『早咲きの花』を鑑賞したあと、初詣は浅草寺に行き、新年会は神谷バー（三河出身の神谷氏創業）にて開催した。これを以って一体型“集まり”の嚆矢とし、爾来、東京の由緒ある神社仏閣

への参拝（初詣のハシゴになっている）、特色ある飲み屋での新年会を、飽きもせず毎年行っている。

関東在住者約70名の三分の一程度の参加者、また、豊橋、大阪からの参加者の多くに、年初めの楽しい行事と評価していただいていることが、幹事の励みにもなっている。



2013年4月のお花見

○高校時代の楽しい思い出に時を忘れる

玄侑宗久氏が「過去とは、現在の心境に合ったように描かれた風景画みたいなもの」と喝破しているとおり、高校時代の楽しい思い出だけが、胸に去来するのであるから、同期生の“集まり”は楽しいのであろう。

また、“集まり”が存在し続けているのは、哲学者ヘーゲルの「合理的なものは存在し、存在するものは合理的である」に倣えば、何らかの合理的な理由があるのであろう。したがって、余り長くはないと思うが、今後も続くものと思うし、続けようと思っている。

○バドミントン部の初代主将

“起源”特集のついでに記せば、母校バドミントン部は、小生らが田中先生の支援のもとに創部したのがルーツであり、筆者が初代主将である。唯一の母校への貢献である。

特別投稿

戸田氏

三河戸田氏の系譜

～家康の天下統一に寄与～

戸田 治（時習 27）



『時習館かんさい』から寄稿依頼がありましたので筆者のルーツでもある戦国時代、知多半島東部から三河湾を含む東三河に勢力を築いた「三河戸田氏」について書き記したいと思います。



戸田宗光の建てた城跡
二連木城本丸跡の北側土
壘上に建てられた城址碑。
（豊橋市二連木町）
現在は大公園として市
民散策の場となっている

今般発行された時習館の同窓会会員名簿2013をみると戸田姓は約70名いらっしゃいます。母校が主に東三河を中心とした学区により成り立っていることを考えますと、この70名の戸田姓の同窓生の方々は1480年（文明12年）三河国渥美郡田原（現愛知県田原市）の地に城を築いた戸田弾正藤原宗光と何らかの形でご縁ある方は多いのではと考えます。因みに時習館同窓会関西支部伊藤事務局長（時13回）も三河戸田氏の家系で私と同じルーツであります。

この三河戸田氏は江戸幕府を開幕した徳川家康と単に縁戚関係にあっただけではなく、天下統一の足がかりとして三河戸田氏が関わった大きなエピソードがあります。それは「竹千代誘拐事件」です。

○竹千代誘拐事件と三河戸田氏

《戦国の乱世に終止符を打ち、後に約270年もの間続く江戸幕府の創始者徳川家康の幼少時松平竹千代のころ、尾張・織田信長の父、織田信秀は小豆坂合戦の返報として、大軍を三河の原野に進め、岡崎攻略を企てた。松平氏の一族中にも織田方に応ずる者ができ、徳川家康の父、松平廣忠の力のみをもって防戦することは困難となった。そこで廣忠は駿府に急使を走らせて今川義元に援軍の出動を求めた。この時、義元は廣忠に対して反心のない事を誓う人質を要求してきた。危急存亡の機に立っている廣忠は、やむなく当時六歳になる竹千代を駿府へ送ることとなった。天文16年（1547年）8月2日、今川氏の求めで人質竹千代一行は松平与一郎、平岩七之助、天野文五郎、阿部徳地代ら28人を従者として岡崎を出て駿河に向かった。一行は西の郡（現在の蒲郡）から海を渡って吉田（豊橋）に上陸し、それより陸路駿府に向かう予定であった。かねてより織田信秀に心を寄せていた渥美田原の城主、4代戸田宗光（康光、家康の継母＝田原御前の父）と堯光（宣光）父子は三河湾の制海権を掌握しているので、たやすくこの一行を欺き、船に乗せ熱田に送り今川の敵、織田方に渡したのである》『美濃大垣十萬石太平記』

これが三河戸田氏による竹千代人質奪取事件です。徳川家康の出生から天下統一までの道のりは、諸書により伝えられているところではありますが、この事件は結果として織田信長との強い個人

的な結びつきをもたらし、桶狭間の戦い以降、岡崎・松平家滅亡の危機を救い、家康の天下統一への大きな足がかりとなったのです。

ただし、今川から織田へ寝返って竹千代を誘拐した三河戸田氏の後世の評価は厳しく『三河物語』によれば、織田方へ永楽銭千貫文で取り引きされた（売り渡した）ともされています。このことは山岡荘八著『徳川家康』（第2巻、獅子の座の巻）にも同じ趣旨で取り扱われ、田原御前の人物描写とともに三河戸田氏は織田の褒美に目がくらみ竹千代を奪った「うつけ者」の評価が一般的になっています。歴史的には甚だ評判のよろしくない戸田氏ですが、今川の田原城攻めを生き抜いた戸田一流である忠重の時、家康は戸田に松平の称号を名乗らせ、親族の久松俊勝の娘を義妹とし、これと忠重の嫡男、康長と婚姻を約した。康長は天正十二年、家康の面前で元服し諱の一字を与えられ戸田氏は徳川氏の同族的立場となったのです。

江戸幕府成立後は三河以来の譜代の臣として、大名に、旗本に遇され、幕府要職に在りました。

○「戸田氏」その名の由来

遡れば、三河戸田の遠祖は藤原姓で、正親町（おおぎまち）三条家の支流であると伝えられています。戸田姓は三河国田原の地に城を築く以前の居住地であったとされる尾張国海部郡戸田庄（現名古屋市中川区戸田町）が由来のようです。「戸田」は「富田」と同じ意味で良質な米の生産地でもあるこの地が地名として戸田庄となったと言われています。

戸田氏は戸田庄から三河国上野郷（現豊田市）へ行き、矢作川をくだり、三河湾を渡って知多半島。更に渥美の天津（現豊橋市老津町）から渥美田原に進み、別名巴江城とも呼ばれた田原城を築いたのです。

○幕末から現在の戸田氏と「戸田氏連翹れんぎょうの会」

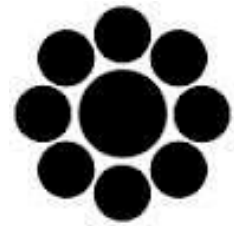
徳川家の重臣として各地で活躍した戸田氏で

ありますが、幕末までに、松本、宇都宮、大垣、足利の各藩主を輩出、また、各大家の家臣も多数おり、その子孫がそれぞれ活躍されていることから、昭和63年、三河時代の戸田氏の菩提を弔い、事跡を探る資料を学習し戸田氏の歴史を次代に継承することを目的に結成されたのが「戸田氏連翹の会」です。

戸田氏は大名家、旗本家等大別すると7系統あり、各家に伝わる紋が六星、九曜星など複数存在します。



戸田家紋 六星



戸田家紋 九曜星

正親町三条家から拝領したと言われているのが連翹れんぎょう（れんぎょうたすき）で優美な形状な紋です。



連翹・戸田連翹紋

この連翹紋から戸田氏の出自の象徴として会が命名されました。「戸田氏連翹の会」は発足後、不定期ではありますが、戸田氏の歴史の資料集で

ある「れんぎょう通信」の発行と東京霞が関にある霞会館（旧華族会館）で旧松本藩ご当主戸田英冠氏、旧宇都宮藩ご当主戸田忠邦氏を中心に会を重ね、昨年、平成25年3月に20回目の総会を開催しています。



戸田氏歴史の資料集として「れんぎょう通信」を発行

筆者は戸田宗家である二連木戸田氏の別荘のあった三河国八名郡波上（現豊橋市牛川町浪ノ上）に土着した戸田氏の末裔（吉光→傳十郎吉國系）であります。ネット上に「三河波上戸田氏」についての情報を発信していたところ連翹の会事務局から入会のお誘いがあり5年ほど前から会員となっております。本稿をお読みになった方で、三河戸田氏の歴史にご興味のある方は是非ご連絡を戴ければ幸甚に存じます。

連絡先：
時習館27回 「戸田連翹の会」会員 戸田 治（豊橋市牛川町在住）



第20回戸田連翹の会総会
(二列目いちばん左が筆者)



日本政策金融公庫
名古屋中支店

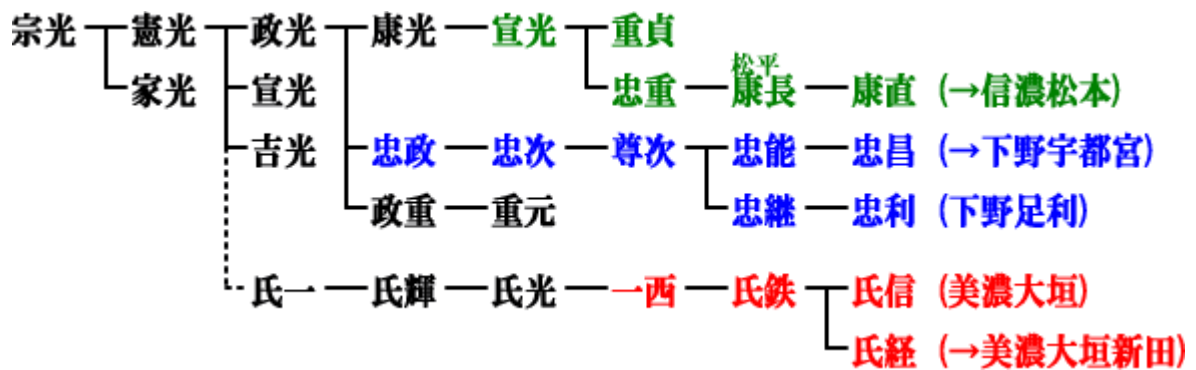
支店長
兼国民生活事業統轄

戸 田 治

株式会社日本政策金融公庫
〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目11番20号
Tel 052-221-7241(代) Fax 052-204-3716
URL <http://www.jfc.go.jp> (各種制度のご案内、各種証明書等発行受付)



戸田氏系図



特別投稿



名古屋支部の生い立ちと現在の活動について



名古屋支部幹事長 松原 秀式（時習 24）

平成 26 年度の関西支部総会のテーマ「ルーツを訪ねて」に絡めて、名古屋支部の起こりや現在の活動についてご紹介させていただきます。

○名古屋支部のルーツは…

名古屋支部の平成 26 年度総会は「第 37 回」となる。関西支部に比べて 10 回ほど若い。毎年 1 回の開催だからスタートは昭和 53 年と比較的最近である。実はこれには名古屋支部の誕生と消滅、苦難の再建の歴史が隠されていた。

名古屋支部前史ということになるのか。昭和 12 年ごろに「豊橋中学同窓会名古屋医大支部」が発足している。支部長は戸荻近太郎氏（豊中 15 回）。古い資料によれば「確たる資料を欠くが、同窓会支部は東京、大連、名医大にあった」と記されている。どうやらこれがルーツらしい。ただ、戦争のため消滅してしまった。

その後、戦災復興が進むにつれて同窓会支部結成の機運が各地で高まり、東京と名古屋が同時に発足した。しかしながら会員の把握等、運営がうまくいかず、ほどなく休眠状態に。

昭和 30 年近くになり、再び同窓会の話が各地で湧き上がった。名古屋は昭和 33 年、改新の意味で「中京時習会」と改名し、支部長鈴木享市氏（豊中 14）で再出発した。以降、昭和 40 年代初めごろまで活動するも支部長の死去、幹事が病床に就くなどの不幸が重なり、10 年ほどの間、再度、休眠状態に。

○満を持して再建、新「名古屋支部」が発足！

昭和 50 年代に入り、再び本部より、支部再建の声があがった。準備に発起人 24 名、幹事 8 名が選ばれ、再建に向けて検討会を重ねた。それま

で支部長に会務が集中しすぎていた点について、新たに支部規約を改定し、支部長は全体を統括する立場にして常任幹事が会務を執行する現在の体制とした。過去の轍を踏まないよう活動の継続性に配慮した工夫である。

昭和 53 年 2 月 10 日、晴れて名古屋支部再建総会開催。再建後の初代支部長に野崎利夫氏（豊中 27）が選ばれた。総会の PR として中日、朝日、毎日、中部読売の各紙に記事掲載を依頼し、取り上げていただいたということだから、相当な熱の入れ様だったことは想像に難くない。



昭和 53 年 2 月 再建の第 1 回支部総会での懇親会風景

そうした甲斐もあってか、当日は朝のうちは早春の雨模様であったが 167 名もの参加を得て大盛況。午後 6 時開始にも、4 時半ごろからお出かけされる方も。

定刻近くなると受付は一杯となり、てんやわんやの大騒ぎ状態に。握手をしたり、肩をたたきあったり、久しぶりに顔を見た同級生同士の挨拶でロビーは笑顔でいっぱい、和やかな雰囲気包ま

れた…。と当時の感激の様子を記した資料があった。

○伝統を築いた主な支部活動

毎年7月初めごろ、200名程の参加を得て支部総会が開催されている。総会後に引き続き開催される懇親会は、若手当番年次の独自の企画運営で毎年趣向を凝らして会の盛り上げを図っている。楽器演奏、寸劇、クイズ合戦、豊橋駅から母校通学経路の今昔ショートトリップ映像などなど。そして恒例の懇親会終盤の抽選会は参加者も興味津々で注目する瞬間で好評を博している。



支部総会後の懇親会

毎月開催される懇親会の「時習亭」、ふるさと探訪の「トヨの会」、名古屋支部女性の会「JNL」、そして年2回開催のゴルフコンペなどがある。これらは年2回発行の会報で活動状況を紹介して情報の共有化に努めている。

36回 時習館同窓会名古屋支部総会



平成25年7月 支部総会での支部長挨拶

○時習亭で世代間融合と支部活動の基盤づくり

時習亭は支部再建後間もない昭和56年11月から現在までの32年あまり、途切れることなく続いている。名古屋支部独自のシステムで当番を三世代の年次の組み合わせとして世代間交流を促進してきた。毎回、20名ほどが集まり、活況を呈しており、これが会員相互の親睦を図ると同時に支部活動の活力源となっている。

再建時に制定された支部規約の第2条（目的）に「本会は会員相互の親睦を目的とする」とある。実にシンプルだが、先輩達がこれを忠実にさまざまな活動を展開してきたことが、昭和53年の再建後は休眠することなく今日まで永らく活動が継続されてきている所以である。

毎月第一火曜日の夕方と、開催日時、場所もほぼ固定して幹事の負担を少なくし、気軽に参加できるようにしている。初代時習亭は中区新栄の居酒屋「庄助」で、店じまいするまで16年間も続いた。これが支部伝統の時習亭の礎を築き、現在は5代目として中区大須の中華料理「シルクロード」へとつないでいる。



支部総会後の懇親会



時習亭でのスナップ



32年間とぎれることなく続く時習亭

トヨの会は平成6年11月からふるさと探訪をテーマにスタートし、これまで20年ほどで18回の行事を重ねてきた。



トヨの会、H25年3月 二川本陣資料館前

旧東海道の宿場巡り、三河武士の源流探訪、奥三河の文化探訪など、郷里の名所、旧跡、伝統行事等、いずれも興味深い企画で好評を得てきた。

ゴルフ同好会も平成元年から24年余り続く伝統行事となっている。老若男女が和気あいあいと

プレーを楽しむイベントとして定着している。

また、最近では関西支部女性の会「JKL」からの働きかけで平成19年2月に名古屋支部女性の会「JNL」が発足。精力的に活動を展開し、昨年までに12回を重ねている。美術館、伊勢神宮、木曾川の鵜飼、日間賀島のふぐ料理など、女性ならではの楽しい企画で好評を博し、関西支部との交流も深めている。



女性の会（JNL）、H24年11月 日間賀島にて 関西支部からの参加者の顔も見える

以上、つたない文章で恐縮ですが、現在の名古屋支部の活動にいたるお話をさせていただきました。今後も名古屋支部の灯を絶やさず、関西支部との交流も深めるなかで時習館の良き「伝統」を後輩たちにしっかりと繋いでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。



ゴルフ同好会（H24年11月 瑞陵GCにて）

三輪明神大神社にて



名古屋支部との交流の歴史

～JKL が切り開く定期的な交流～

関西支部 事務局



なばなの里

奈良総会に向け特筆すべきことがありました。昨年から今年にかけ、初の試みとして、関西支部は「日本のルーツを訪ねて」をテーマに、「奈良ならではのまほろバスツアー」「お水取りへの招待」の二つの行事に取り組みました。

両行事とも50名～60名の参加者があり、かつてない盛大なものでした。

○「奈良バスツアー」で名古屋支部に正式に協力要請

関西支部会員の皆さんの協力はもちろんのこと、「奈良バスツアー」では名古屋支部及びJKL、JNLに協力を要請し、名古屋から13名、東京や豊橋からも数名参加していただきました。



「奈良バスツアー」石舞台前にて（前列中央右寄りに神野名古屋支部長）

「お水取り」では毎年のJKL活動を通じてJNLとの交流が実を結び、名古屋から5名、豊橋から6名の参加を得て、大いに盛り上がりました。

そもそも、名古屋支部との交流は、JKLによって切り開かれたと言えます。

○JKL と JNL の交流の歴史

2000年にJKLは、当時の朝日奈支部長をゲストにお迎えして10名で発足しました。

名古屋支部との交流の始まりは2006年7月からです。JKLの活動に関心を寄せてくださった方々をJKLがお招きする形で中間地の名古屋で、本部・



「お水取りへの招待」で、二月堂前にて（最後列右端が名古屋支部松原幹事長）

東京・名古屋・関西の女性交流会を開催、これが後のJNLの準備会となりました。

2007年2月JNLが発足して以来、毎年いろいろな行事が実施されています。

JNLの行事には、徳川美術館の歴代の方々のお雛様、名古屋発展の元となった四間道、平成16年まで個人所有だった犬山城などの見学がありました。そのつど、私たちが昔は愛知県人だったのだと、思い出させてくれています。

また、関西の冬の味覚として親しまれているフグは三河湾の日間賀島からたくさん出荷されていること、日が暮れてからと思っていた鵜飼が日中にもあり、昼に連れて行っていただいたことなど、関西と名古屋の両面を楽しむことができます。

昨年のなばなの里のイルミネーションもきれいで、印象に残る行事でした。興味深い企画が多く、団結力が強く活発で、JKLは先輩であるとは言え、刺激され続けています。

JKLの行事には名古屋から、また、JNLの行事にはJKLから多数参加し、友情の絆を強めています。今後もJKLとJNLの交流はずっと輝き続けるでしょう。

○今後も支部間交流の継続発展を

JKLが切り開いたJNLとの定期的な交流は、今後、東京や豊橋も含めた他支部との幅広い交流に拍車をかけるに違いありません。

（副支部長 片岡聡子 事務局長 伊藤忠男）

支部便り

活動報告他





第18回 JKL マチュピチュ「発見」100年インカ帝国展に参加して

米田 隆子（時習 21）

四月の天候にしては、肌寒い日が続き心配していましたが、朝起きてみると前日までのお天気の不安も遠のき、まずまずの小康状態で、事務局長の伊藤さんはじめ事務局の松下さん、川瀬さん、JKL、JNLの皆さん合計 16 名が京都文化博物館前に集まりました。

○先人の工夫にただ感動

世界遺産のマチュピチュをパネル画にし澄んだ光景は、16～17 世紀の建物と思えない程美しく斬新でした。衣服と食器のデザインなどは、現在の生活にも取り入れられている物が多々ありました。標高 2400m のアンデス山脈の切り立った山の頂きの天空の都市「マチュピチュ」で衣食住が営まれ工夫された様子は、ただただ感動するばかりです。衣についての事、食についての事、住についての事で今現在に置き換えても違和感を覚えない物ばかりで、先人達の努力と工夫と精神力は、想像を絶するばかりです。

○インカ帝国独自の文化に触れる

鉄器も車輪も文字も持つ事のなかったインカで、王と王に仕える人々が太陽信仰、巨大な石造建築、農耕や芸術などインカ帝国を支えてきて、人口移動制度のなか南北 4000km にも広がる地域を支配しました。

また、16 世紀には、帝国は崩壊するも消滅する事がなく「植民地期インカ」と呼ぶべき独自の文

化を育みました。また 1911 年に、ハイラムビンガムがマチュピチュを発見した事でインカ帝国の名は世界中に広がりました。

マチュピチュ「発見」100 年インカ帝国展に参加し、先人の功績を讃え、また未来の後継者に文化を伝えていく事の重大さを感じるばかりです。



参加者の満足顔を「ご覧ください」

○京料理をいただきながら再会を誓う

さて、午前中のインカ帝国展の見学を終え、その後は昼食会へと、京都在住の美馬さんのご紹介の料亭「花伝」で京料理をいただきながらくつろぎました。JNLの三林さん、鷺尾さん、田中定子さんとの語らいも楽しいひと時でした。「また次回もお会いしたいですね」との言葉で散会しました。



「花伝」で京料理をいただき談笑

支部活動



「時習館同窓会関西支部ゴルフ会」

報告ならびにお知らせ
ゴルフ会幹事 山村 信哉 (時習 17)



平成 25 年は 6 月と 11 月に「ゴルフ会」を開催いたしました。

今回は 15 名の参加となかなかの盛会でした。

また、今回からハンディキャップを青天井にいたしました。今までにない順位構成ができました。

腕に自信のある方もない方も気軽にご参加ください。

○ 第 25 回 (平成 25 年 6 月 1 日)

於 愛宕原ゴルフ倶楽部

	中	西	GROSS	H・D	NET
優勝	48	48	96	26.8	69.2
2位	46	47	93	22.0	71.0
3位	72	63	135	64.0	71.0
4位	62	58	120	48.4	71.6
5位	41	47	88	16.0	72.0
6位	46	45	91	18.4	72.6
7位	43	43	86	12.4	73.6
8位	60	61	121	47.2	73.8
9位	47	48	95	20.8	74.2
10位	60	60	120	44.8	75.2
11位	57	54	111	35.2	75.8
12位	46	53	99	22.0	77.0
13位	74	65	139	61.6	77.4
14位	57	53	110	31.6	78.4
15位	52	54	106	25.6	80.4



第 25 回参加者の皆さん

《参加者》

- 田村英雄 (豊 39)、石川吉之助 (時 12)
- 松尾英城 (時 13)、近藤 洋 (時 13)
- 花井俊作 (時 17)、柴田太一郎 (時 17)
- 山村信哉 (時 17)、井上亮二 (時 18)、
- 岡田順子 (時 20)、鈴木 自 (時 20)
- 松浦茂男 (時 20)、鈴木省三 (時 21)
- 利根川躍 (時 21)、藤井順子 (時 28)
- 近田 昇 (時 35)

○ 第 26 回 (平成 25 年 11 月 17 日)

於 愛宕原ゴルフ倶楽部

《参加者》

- 田村英雄 (豊 39)、石川吉之助 (時 12)
- 松尾英城 (時 13)、伊藤忠男 (時 13)
- 花井俊作 (時 17)、柴田太一郎 (時 17)
- 山村信哉 (時 17)、鈴木 自 (時 20)
- 鈴木省三 (時 21)、利根川躍 (時 21)
- 藤井順子 (時 28)

	東	中	GROSS	H・D	NET
優勝	50	45	95	26.0	69.0
2位	54	60	114	40.4	73.6
3位	50	44	94	18.8	75.2
4位	46	41	87	11.6	75.4
5位	48	44	92	16.4	75.6
6位	56	50	106	29.6	76.4
7位	60	54	114	36.8	77.2
8位	70	63	133	51.2	81.8
9位	76	60	136	53.6	82.4
10位	71	64	135	52.4	82.6
11位	68	70	138	54.8	83.2

支部活動

一緒に碁を打ちましょう！ 初心者大歓迎！



竹内 隆夫（時習 21）

東京支部では以前から囲碁同好会があり、囲碁愛好家の有志が集まり碁を楽しんでいるようです。

関西にも囲碁愛好家は多数いらっしゃると思われるので、この際同好会を作って、一緒に碁を打ってみたらどうかと考えています。

大阪倶楽部（大阪市中央区今橋4-4-11）には、多数の碁盤があり、食事を摂ることもできるので、年に数回そこに集まり、碁を打ち、そのあとで歓談したらいかがでしょうか。



会場に予定している
大阪倶楽部

日本棋院のホームページでは、囲碁の効能として次のように述べています。

「人間の脳は、左脳で計算・暗記・論理的思考機能を受け持ち、右脳は感覚的・形や空間等の認識、大局的視野での判断力を受け持つと言われています。

左脳右脳の両方をうまく使うことが大事なのに、左脳人間が多いそうです。

囲碁は特に右脳を使うゲームです。

医学的にも囲碁は右脳を刺激し、判断力を高め、ストレス解消に効果があることは既に認められています。

さらには、ボケ防止・脳卒中のリハビリ、予防面でも囲碁の効能が注目されています」



筆者（左）と藤田和弘氏（時習 15）との対局風景

ということで、囲碁愛好家は勿論のこと、これから囲碁を始めてみようかと考えていらっしゃる方も大歓迎です。

現時点で、碁を打つ人として世話人が承知しているのは、次の方です。

近田良治（時習 1 回）石田天祐（14 回）藤田和弘（15 回）山崎達彦（15 回）竹内隆夫（21 回）

これ以外の方で、自分も碁を打つという方、あるいは、これから始めようと考えていらっしゃる方、下記の世話人までご連絡いただけますでしょうか。碁会の日時、費用の詳細をご連絡させていただきます。

ちなみに、時習館の大先輩に藤田悟朗さん（豊中 21 回、1994 年没）というプロ棋士がいらっしゃいました。京都大学（確か哲学科？）からプロ棋士に転向された変わり種で、学生囲碁連盟の生みの親、林海峰名誉天元の師匠としても有名な方でした。そして、前記の藤田さんはその甥にあたるそうです。

囲碁同好会設立準備世話人 竹内隆夫

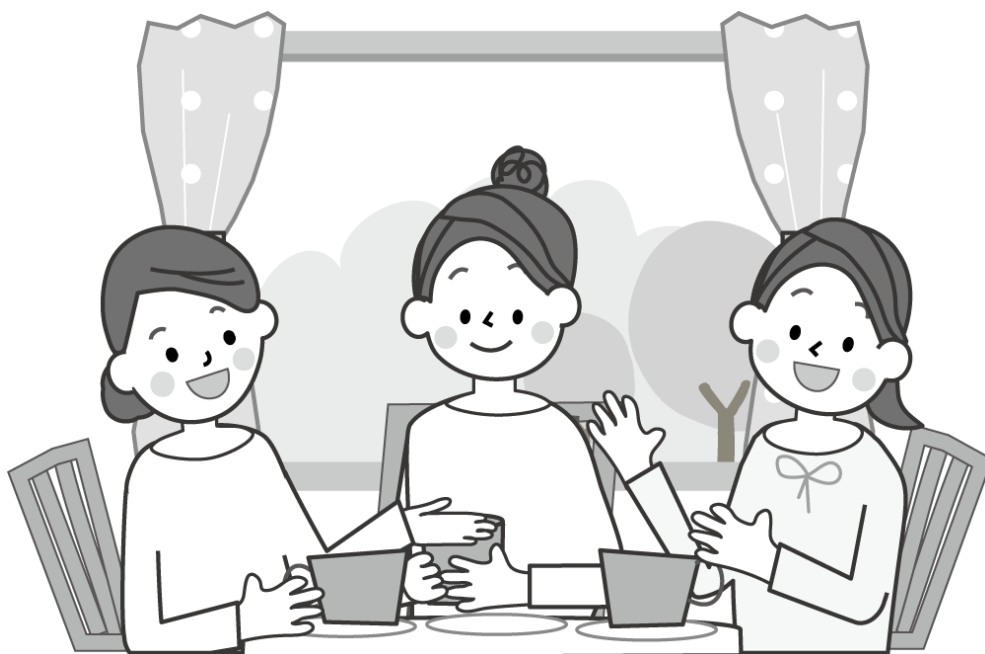
電話 06-6949-8601

FAX 06-6949-8602

E-mail take-lo@nifty.com

事務局から

お知らせとお願い



🌸 時習館同窓会関西支部事務局よりのお知らせ 🌸

2013年度総会におきまして、本人のたつての希望から美馬 洋子さん（時 11）が、副支部長を退かれ顧問に、また、健康上の理由にて奈良の副支部長坂部 征彦氏（時 16）が役員を退かれ、それに伴い理事川瀬 義隆氏（時 14）が副支部長として昇格、奈良副支部をまとめていただきます。

時習館同窓会関西支部規約

1. (名 称) 本会は時習館同窓会関西支部という。
2. (目 的) 本会は会員相互の親睦を計ることを目的とする。
3. (事 務 局) 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-14-1
山本通産株式会社内 (代表者 石川 吉之助) に置く。
4. (会 員) 本会の会員は時習館同窓会員で関西地方に在住する者とする。
5. (役 員) 本会に次の役員をおく。
支 部 長 1 名
副 支 部 長 若干名
理 事 若干名 (うち1名を会計とする)
監 事 若干名
6. (役員任期) 役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。
7. (役員選任) 役員は総会において選出する。
8. (役員職務)
 - (1) 支部長は本会を代表し、会務を報告する。
 - (2) 副支部長は支部長を補佐し、支部長事故あるときは、その職務を代行する。
 - (3) 理事は支部長・副支部長とともに本会業務の運営にあたる。
 - (4) 監事は本会の会計監査にあたる。
9. (総 会) 総会は毎年1回開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開催することができる。
総会は支部長が招集する。
総会に提出し、その承認を受けなければならない事項は次のとおりとする。
 - (1) 前年度の会務及び収支決算報告
 - (2) 新年度の収支予算
 - (3) 役員選任
 - (4) 規約の改廃
 - (5) その他の重要な事項
10. (理 事 会) 理事会は、支部長の招集により開催し、本会の運営および企画の審議にあたる。
理事会は総会にかわって必要事項を議決することができる。但し、その内容を総会に報告しなければならない。
11. (議 決) 会議の議決は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長が決するところによる。
12. (経 費) 本会の経費は、会費、賛助金、寄付金およびその他の収入金をもってこれにあてる。
13. (会 計 年 度) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
14. (規約の変更) この規約は総会の議決によって変更することができる。

会員の動静

関西支部会員追加 (2013年会員名簿より)

2013年に、時習館創立120周年を記念し、同窓会会員名簿が再発行されました。それに伴い、従来、関西地区に在住していながら、ご連絡できなかった方々についても、新たな関西支部会員として、ご登録いたします。本誌でそのお名前(敬称略)を掲載しました。

住所を把握できず、長年ご連絡できなかったこと、この場をお借りし、お詫びいたします。

時習館同窓会関西支部事務局

豊 中		時習 25~30		時習 41~48		時習 48以降	
豊 37	小島 鎮男	時 25	大村 直弘	時 41	大林 浩治	時 48	三浦 かおり
豊 39	藤田 謙次	時 25	鈴木 克実	時 41	味岡 満博	時 48	成岡 浩子
豊 43	河合 利夫	時 26	細井 研二	時 41	廣瀬 祐也	時 48	河野 春海
豊 46	伊藤 幸郎	時 26	松井 茂記	時 41	今泉 博文	時 49	近藤 正義
時習 1~24		時 26	井上 規夫	時 42	梅原 大祐	時 49	早戸 容子
時 1	神谷 進一	時 26	小林 史典	時 42	宮武 容子	時 50	内田 賀子
時 1	宮下 三郎	時 26	吉川 雅子	時 42	石黒 高晴	時 50	吉田 知未
時 2	山本 裕彦	時 27	松本 富夫	時 42	渡邊 正和	時 50	大林 正彦
時 3	中島 山奇	時 29	真柳 敦夫	時 42	斉藤 祐子	時 50	長谷川 千晶
時 4	服部 光有	時 29	後藤 公多郎	時 42	大隅 正彦	時 50	愛洲 智子
時 5	本部 純子	時 29	本田 滝夫	時 43	清位 靖子	時 50	松村 憲
時 6	山内 信也	時 30	宮明 真弓	時 43	城田 あゆみ	時 51	野中 良祐
時 7	舟橋 尚哉	時習 31~40		時 43	小山 淳二	時 52	神藤 正憲
時 11	河村 泰子	時 31	平松 良平	時 43	田中 真人	時 52	太田 直道
時 12	阿部 安博	時 31	小早 川泰之	時 43	斉藤 聖己	時 52	西本 尚平
時 16	石黒 和廣	時 31	川村 達朗	時 43	太田 陽子	時 53	成田 知加
時 16	井上 漢龍	時 32	笠井 悦子	時 44	伊藤 資泰	時 53	住吉 稔
時 16	池村 充代	時 35	久米 将実	時 44	佐竹 寛子	時 53	高橋 昌子
時 17	鈴木 圭三	時 35	大谷 智子	時 44	佐野 省吾	時 54	馬場 慎太郎
時 17	本多 正明	時 35	木下 専	時 44	神谷 信宏	時 54	待井 耕太郎
時 18	江辺 和子	時 35	米虫 清子	時 44	森本 桃子	時 54	山田 美慧
時 19	小久保 裕司	時 36	布藤 智康	時 44	平山 寿浩	時 55	黒田 愛
時 19	鳥居 彰	時 36	山内 千晶	時 44	東 孝次郎	時 56	梅田 浩明
時 19	林 俊太	時 36	藤井 朋行	時 44	梅山 理江子	時 56	木戸口 慎吾
時 19	廣瀬 静子	時 36	西岡 洋子	時 44	鈴木 博成	時 56	横田 美有
時 19	藤本 万咲子	時 37	村松 忠信	時 44	藤田 望美	時 56	小川 裕子
時 19	松ヶ崎 明	時 38	辻村 英之	時 45	佐藤 啓二	時 56	木下 幸太郎
時 19	壁谷 隆幹	時 38	吉田 亮子	時 46	山原 友恵	時 56	中田 晃愛
時 20	岡本 亨久	時 38	深谷 愛	時 46	長尾 龍典	時 57	仲宗根 秀嘉
時 20	加藤 道明	時 38	引地 和豊	時 46	石部 秀樹	時 57	宮森 善隆
時 21	鈴木 加代子	時 39	大沢 立弥	時 46	横江 英治	時 57	浅尾 光星
時 21	高橋 あおい	時 39	吉田 幸範	時 46	松葉 千登勢	時 58	國本 将哉
時 22	原田 哲二	時 40	住友 宏之	時 47	伊藤 靖幸	時 58	櫻井 研吾
時 22	石川 美代子	時 40	中内 佳奈	時 47	小川 由泰	時 58	南 扶友子
時 22	石田 温子	時 40	内田 俊樹	時 47	木村 圭吾	時 58	木本 未沙子
時 22	植村 邦彦	時 40	本田 一彦	時 45	高橋 真理	時 58	横田 幸介
時 22	尾崎 昇八	時 40	森 一石	時 45	東芝 訓子	時 60	伊藤 章人
時 24	原田 典彦	時 40	三宅 育代	時 45	藤森 真	時 62	今莊 貴文
時 24	若原 俊子	時 40	庄司 亜左子	時 48	中尾 肇	時 63	山内 直也

『時習館かんさい』27号までは、2007年発行の同窓会会員名簿に基づき、関西在住の皆様にご案内を差し上げてきました。その際、住所が分からないとして、返送されてまいりました方を、本誌で住所未定者として掲載し、皆様にご協力をお願いしてきましたが、この度、2013年の同窓会会員名簿が発行されましたので、住所未定者は無く、今までの情報に加えて、追加者のみお名前をお知らせします。他の情報は新会員名簿よりご確認くださいたくお願いします

なお、次号から、新会員名簿より変更、修正があれば、随時掲載してまいります。

新会員名簿をご覧になって、あなた自身はもちろん、お知り合いの方に関し、記載事項に間違いを発見されたら、ご面倒でも事務局（山本通産株式会社内 石川支部長）または山村編集委員長まで郵便、FAXまたはEメール（宛て先は『時習館かんさい』表紙右上参照）でご報告願います。

今回の名簿に限りませんが、あなた自身がいずれかへ入学、就職、転任、転居の際、または改姓・改名の時もお知らせくださるようご協力をお願いいたします。

その時は次の6点を明記してご通知ください。

①卒業年次 ②氏名(旧姓も) ③郵便番号 ④現住所 ⑤職業または勤務先(所在地・屋号・職務など)あるいは卒業または在学学校名(詳しく科別も記入) ⑥(公開してもよい)電話番号か携帯電話番号
同窓会名簿は会員相互の親睦と理解を図る目的で編集しています。個人のプライバシー保護には支部としても充分注意しておりますが、会員の皆様も取り扱いにはくれぐれもご注意ください。同窓会関係以外の第三者に閲覧させたり、交付することは絶対にしないでください。

今年も先輩から温かい援助

(2014年4月1日現在)

賛助金19万6000円

今年度も卒業50年を経た先輩方から温かい援助の手が差しのべられています。現時点で、賛助金が人の先輩から19万6000円寄せられました。本当にありがとうございました。

「後輩たちを元気づけてやろう」というお気持ちで充分です。今後ともどうぞよろしく願います。

『時習館かんさい』へ投稿してみませんか

自分の書いた文章や写真が冊子になって同窓生の手許に届くと考えるとワクワクしてきませんか？

最近感動したこと、学生時代を振り返ってみて思うこと、こんな活動をしています、こんなイベントに参加しました、最近こんなことを考えています、など、気楽に書いて『時習館かんさい』へ是非ご投稿下さい。

📄原稿：1頁1600字程度が目安です。

「手書き」「ワードかテキストで入力したもの」いずれもOKです。

📷写真：「顔写真」と「文章と共に掲載する写真」を、原稿と共にお送り下さい。
簡単な写真の説明もぜひ添えて下さい。

📄1頁も書くのはなあ…短い文章なら書けるよという場合は、「私の1枚！」のようにお気に入りの写真を紹介していただくような形式もOKです。

原稿、写真は1月末ごろまでに、「Eメール添付」「郵送」「FAX（写真は郵送かEメール添付で）」で、編集委員長までお送り下さい。

〒665-0042 宝塚市逆瀬台1-11-4-1312

編集委員長 山村 信哉

TEL & FAX: 0797-74-4858

E-mail: nobu8yama@rose.sannet.ne.jp

(時習館同窓会関西支部役員一同)

トピックス

「時習さろん」に参加を!



2013年8月31日「時習さろん」夕涼み会
毎回開催されていたパブレストラン「アブ」の個室がすでに他のグループにより予約されていたので、急遽、臨時にホテルグランヴィア大阪 19F なにわ食彩「しずく」で開催した時の写真。25名が参加、皆さん日ごろの暑さを吹き飛ばし、笑いの渦に包まれていました。

創立 120 周年記念フォーラムで



鈴木優氏（時26）創立120周年記念フォーラムでの講演風景
講演準備は2012年秋口から、今まで考えていたことや最新の情報をまとめ始め、豊橋の中央図書館で資料を漁り、実家の母の昔話等も聞いて発表内容をまとめ上げたもの。
その後、「現役タカラジェンヌもいる」と発表したもので、後援会蒲郡支部の会長をしている先輩から、御礼と何か一緒にバックアップしようというお誘いを受けている。

